

はじめに



社会の構造が大きく変化している今日、  
地域福祉の推進と社会福祉協議会の役割  
が重要であるとされています。

介護保険の改正、地域包括ケアシステム

の構築、生活困窮者自立支援法や子どもの貧困対策などの法律や制度が  
施行され、ますます地域福祉の具体的な活動や展開が求められています。

これまでも、本会では平成20年に第1次（平成20年度～24年度）、  
平成25年に第2次（平成25年度～29年度）と地域福祉活動計画を策  
定し、市民が主役の地域づくりに取り組んでまいりました。

そして、この度の第3次地域福祉活動計画策定にあたっては、「お互い  
さんの心と絆ではぐくむ心豊かなまち 京田辺～育てよう 支えあう  
絆でつなぐ ふれあいネットワーク～を基本理念に、地域の住民同士がつ  
ながりから生まれる「支えあい」、その絆から「安心」と「暮らしやすさ」  
が育まれるまちづくりを目指しての取り組みを掲げました。

第1次、第2次における10年間の実践や活動を基盤とし、地域の皆様  
と協働で「これからも住み続けたいまち京田辺」をつくるために、行政や  
他機関関係者、区・自治会、民生委員・児童委員、ボランティアをはじめ、  
市民の皆様と連携し多様な福祉の課題解決のため、これまで以上につなが  
りを深めていきたいと考えています。

本会におきましては、今年度に行われた社会福祉法人改革に伴い、市民  
の皆様への説明責任や地域社会に貢献すること等が明確となりました。今  
後より一層、地域福祉の推進に邁進いたします。

結びに、本計画の策定にご尽力いただきました策定委員会委員の皆様、  
関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成30年3月

社会福祉法人 京田辺市社会福祉協議会

会長 長谷川 榮治

# あいさつ

## 第2次活動計画を継承し地域福祉活動を大きく育てよう

この度、第3次京田辺市地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）が策定されました。この計画は、平成25年（2013年）に策定された第2次活動計画に基づいた5年間の実践を検証し、その内容を踏まえて策定されたものです。

この間、社会福祉をめぐる情勢は大きく変化してきました。生活困窮者自立支援制度の創設、介護保険法の改正、社会福祉法人改革などに共通しているのは、社会的孤立や制度のはざまといわれるような問題がより深刻になっていること、またこうした課題の解決には、専門職が包括的に取り組む必要性和同時に、暮らしの基盤である地域が課題を「我が事」として主体的に取り組む必要があることでした。こうした観点から、第3次活動計画では、京田辺市が策定した地域福祉計画と理念を共有しながら、今後5年間、住民と社会福祉協議会が取り組むべき「活動」を提示しました。

ところで、いくら立派な計画ができたとしても、計画はあくまで計画であって、それを実施していかなければ意味がありません。しかし、活動計画の実施や評価には様々な困難が伴います。それはこの計画が、介護保険制度のように、法律で保障されている権利や義務の関係ではなく、あくまでもそこに暮らす住民の自発的な活動に基づいて推進されていくものだからです。社会福祉協議会の職員には、様々な現場での気づきを住民に投げかけ、共有し、課題解決に向けた機運を高めていく働きかけを行って住民の皆さんの主体的な活動を応援していくことが求められています。この第3次活動計画は、その「道しるべ」となるものです。

第1次活動計画、第2次活動計画の策定と実施を通じて、芽を出し、花を咲かせている活動もあれば、その展開が思うように進んでいない活動もあります。また時代の変化によって求められる新しい活動もあります。行政、社会福祉協議会、関係者、住民の皆さんが一致協力することで、京田辺市で求められている様々な地域福祉活動が発展し、誰もが役割をもって生き生きと活躍できる京田辺市となっていくことを切に期待して、ご挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、この度、活動計画策定のために熱心にご尽力くださった策定委員会及び推進委員会委員各位、市社協役職員の方々、ご尽力を賜った地域・関係団体の皆様に心より深く感謝を申し上げます。

平成30年3月

第3次京田辺市地域福祉活動計画策定委員会

委員長 永田 祐（同志社大学 社会学部 准教授）

# 目 次

第1章	地域福祉活動計画とは…	4
第2章	第2次地域福祉活動計画の取り組みを振り返って	5
第3章	地域を知ること… ～地域特性について～	21
第4章	第3次地域福祉活動計画	
1	基本理念	31
2	体系表	32
3	基本目標と基本計画の内容	34
資料編		
1	第3次地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	56
2	第3次地域福祉活動計画の策定経過について	58
3	第3次地域福祉活動計画策定委員会委員名簿他	60
4	ボランティアアンケート調査集計結果	62
5	用語集	88

## 第1章 地域福祉活動計画とは・・・

---

住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、市民をはじめ、地域社会を支えている団体・機関、企業が連携して実践する福祉の取り組みをまとめた計画です。

少子高齢化が進んで人口減少社会を迎えました。子育てや介護だけでなく、生活困窮など課題が複雑に絡んで、福祉課題が多様化、深刻化してきています。子どもや高齢者といった分野ごとの対策だけでなく、「在宅」や「地域」を念頭においた福祉制度の充実がはかられています。

福祉課題を複合的に抱える人ほど、近隣住民との関係が疎遠になり、地域社会から孤立してしまいがちになります。こうした孤立が、「いのち」や「暮らし」に影響を及ぼし、家族や親類だけでなく、孤立予防として、近隣住民や地域との関係づくりの強化や充実が進められています。

「地域福祉」は、地域住民による、地域住民の住み慣れた地域、暮らしの向上をはかるための取り組みです。わかりにくく、馴染みがないといった声が多く聞かれますが、ボランティア活動や区・自治会活動など身近なところで進められています。

「地域福祉活動計画」とは、市民の皆さんと、地域と一緒に取り組む活動を具体的に示したものです。今回の策定にあたり、これまでの第2次地域福祉活動計画の成果や課題を振り返りながら、社協地域役員や民生委員・児童委員、区・自治会、老人会、障がい者団体、ボランティアなど住民の方々の活動や思い等を聞かせていただき、地域の状況を念頭に置いてまとめました。

京田辺市においても、行政機関の立場で「地域福祉」の取り組みについてまとめられた「第3期京田辺市地域福祉計画」が平成29年度からの5カ年計画で策定されましたので、連携して進めていきます。



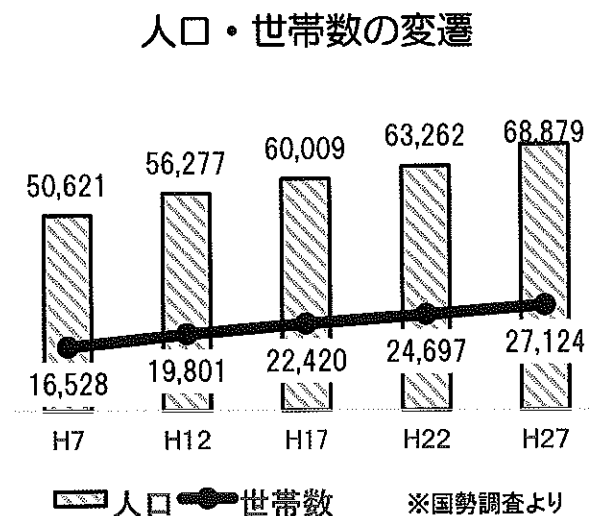
## 第2章 第2次地域福祉活動計画の 取り組みを振り返って

京田辺市においては、大都市圏への交通の利便性の高さ、豊かな自然も残る住環境の良さから、人口や世帯数が増えています。近年、開発が進む北部や南部地域、市の中心で主要な駅がある旧村地域では、新しい家や集合住宅が建ち、特に子育てに励む若い世代が増え、地域を支えています。しかしながら一方で、昭和40年代から50年代にかけて新興住宅地として大規模に開発された地域では、コミュニティを築いていた世代が定年退職を迎えて、急速に高齢化が進んでいます。

地域は、生活の拠点であり、そこで暮らしを営む住民の思いやつながりによって、安心や安全、暮らしやすさなど地域性が形づくられていきます。これから迎える人口減少社会を考えた時、生活拠点が離れている身内や親類以上に、同じ地域に住む人たちが頼りとなります。住民同士のつながりや支えあいが、一人ひとりの心と暮らしの支えにつながっていきます。

こうしたつながりや支えあいは、自治会活動などの地域で住民が集まる行事などの交流を通じて培われます。高齢化や人口が減っていくと担い手や地域の活動、交流の機会も減って関係が希薄化していきます。

家族や親類との生活圏域が離れてしまいすぐに支え合うことが難しくなっています。相談や暮らしの課題を抱えていても、頼ることができず、一人で抱え込んでしまいがちになります。誰にも打ち明けることができずに、地域との関係に距離ができて、希薄化し、孤立してしまうのです。



年齢を重ねていくほど、心を交わすことができる世代の交友関係が少なくなり、‘ひとり’になってしまいます。それを防ぐためにも、近隣住民だけでなく、自治会や地域住民のために組織された団体との関係やその活動が、つながりや関係を育て、一人ひとりの心と暮らしを支える「縁の下の力持ち」となります。自分達が住む近隣住民や地域のことについて関心を持ち、コミュニケーションをはかり、関係や思いを共有して、活動を支え、進めていくことが、一人ひとりが望む安心につながっていくと考えています。

そのためにも区・自治会単位での懇談や地域の福祉活動の支援を通じて、また市という地域圏域での社会貢献に取り組むボランティアや福祉関係団体とコミュニケーションをはかり、地域課題を共有して、一緒に取り組みたい事業を「地域福祉活動計画」という形で示し、まとめました。

第2次地域福祉活動計画では、5つの基本目標を設定し、1つ目は、分会（区・自治会単位の社協組織）による福祉活動に関すること、2つ目はボランティア活動の推進に関すること、3つ目は福祉団体や機関など組織間の連携、4つ目は市民向けの福祉サービスや相談事業、最後は、社協の運営に関することというようにテーマ別に、具体的な取り組みを提示し、5ヶ年計画で進めてきました。

この間の取り組みについて振り返り、成果や課題などを整理しました。これで終わることなく、次のステップに向けた歩みにつなげていきたいと考えます。

---

## 基本目標1「安心して暮らせる地域(ま)づくり」に向けて

---

地域での居場所づくり、住民同士の関係づくりをはかること、そして孤立しがちな住民の把握や励まし、住民と地域とのつながり、安心して暮らせる地域(まち)づくりをはかるためにふれあいサロン活動を推進してきました。

高齢者を対象に長年取り組んでいる親睦会や、子育て世代の住民が多い地域では子育てサロン、そして、近頃は、世代に関係なく住民全体の交流をはかる活動に取り組む地域も出てきました。

子どもから高齢者が安心して暮らすためには、住民同士の交流も大切で、顔が見える関係づくりは、区・自治会や住民同士の協力がないとできません。

こうした福祉活動を通じて、地域との接点が少なく、誰にも打ち明けられない深刻で潜在的な課題を抱える高齢者や住民がいることがわかってきます。日常的な関係が築きやすい近隣の住民同士が寄り添い、悩みなどを把握し、適切な支援や専門的な機関等につなげる見守り活動の普及や支援をはかりました。プライバシーへの配慮などの難しい課題はありますが、給食サービスやテレホンサービスなどの取り組みとあわせて、さらに進展させていきたいと考えています。

そして、住民や地域への貢献するために日々活動する関係者と懇談会など※（活動報告4を参照）を開催し、地域の活動や暮らしに関して気になること、不安に思われることなどを聞かせていただきました。これからの10年、20年先を見据えて、社協として、地域全体で課題を共有し協働しないと安心なまちづくりの構築が困難であることを改めて気づかされました。

#### 田辺子育てサロン



毎回、たくさんの親子が集まって親睦をはかっています

#### 南山西分会での見守り活動



社協役員と老人会、民生委員・児童委員が訪問しています

見守り活動は、様子伺いや安否確認だけでなく、安心と信頼関係を築く取り組みです

## 基本目標2 「支えあいの心と担い手づくり」に向けて

本会に登録するボランティアは女性が中心で、子育てが落ち着いた世代や定年退職を迎えた方が活躍されていますが、新たな担い手の確保が課題となっています。特に長年活動が続いているボランティアグループでは、会員の高齢化により、これまで通りの活動が困難になりつつあり、組織の中心となる活動者が不足してきています。

そのような状況のなか、団塊世代が定年退職を迎えるにあたり、男性を対象としたボランティア活動へのきっかけづくりの取り組みや、大学があるまちとして、同志社大学・同志社女子大学と連携したボランティア事業の推進に向けて取り組みました。

### 活動報告1

#### 『TANABE♡PROJECT』

若い世代が地域とつながり、地域のなかでボランティア活動を始めるきっかけづくりを進めるため、関係者が集まり新たなボランティアプログラムの構築に向け、検討を行いました。

##### <プロジェクトメンバー>

- ・ASUID京田辺（学生ボランティアグループ）
- ・同志社大学ボランティア支援室
- ・同志社女子大学ボランティア活動支援センター
- ・入り口デザインプロジェクトチーム
- ※京都府社協の事業による市町村社協職員ボランティア担当者チーム
- ・京田辺市社会福祉協議会



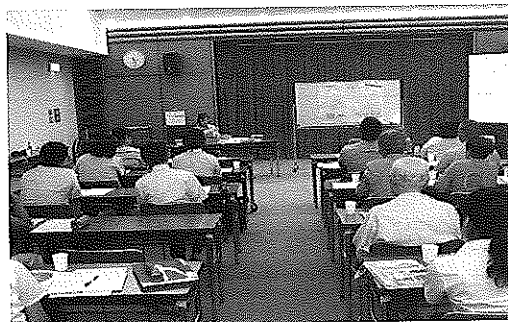
学生の活動者や学生を支援している大学のボランティアセンターとつながることで、それぞれの思いや資源、課題などを共有することができました。

##### 《今後に向けて》

引き続き、プロジェクトメンバーを中心として検討を進め、学生が地域を知り、地域に入ってボランティア活動を始めるきっかけとなる具体的なプログラムづくりを進めます。

男性を対象としたボランティア活動のきっかけづくりについては、実施方法などを再検討し、「社会貢献」や「自己研鑽」、「支え合い」などを意識した働きかけや仕組みづくりを進めていきます。

また、次世代を担う子どもたちに向けては、支えあいの大切さを学び、思いやりの気持ちを持ってもらえるように教育機関、福祉施設などと協力して福祉体験学習を進めました。



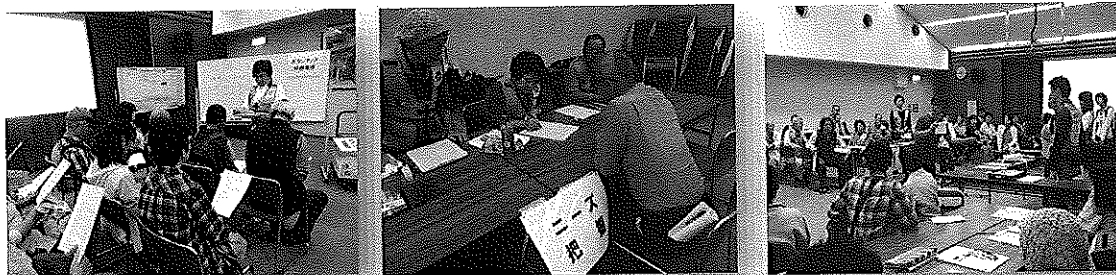
子どもだけでなく先生向けの研修もすすめました

近年、各地で大規模な災害が発生しています。不測の事態に備えて災害ボランティアセンターの体制づくり（※活動報告2参照）を進めました。

## 活動報告2

### 『京田辺市災害ボランティアセンターの設置』

平時から地域住民や関係団体と連携し、防災や減災に関する取り組みを推進できるよう常設型の災害ボランティアセンターを設置すると共に、関係者（機関）による運営委員会を設け、体制づくりを進めました。また、京田辺市と「京田辺市災害ボランティアセンターに関する協定書」を締結し、それぞれの役割を確認しました。



平成29年度災害ボランティアセンター設置・運用研修のようす

“常設型”のセンターとすることで、普段から関係者が集まり、体制強化に向けた検討や研修会を行うことができました。顔の見える関係は、災害発生時の効果的な支援につながります。

#### 《今後に向けて》

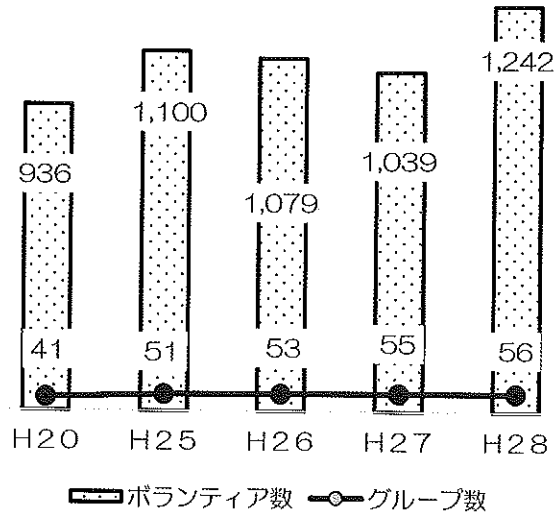
災害ボランティアセンターの役割を地域へ向けて周知するなかで、運営に関わっていただける「災害ボランティア事前登録者（団体）」を募ると共に、登録者に対するフォローアップを行っていきます。

### 基本目標3 「組織的なつながりと活動の強化」に向けて

本会に登録し活躍するボランティア及びボランティアグループは、増加の傾向にあります。担い手づくりだけでなく、活動者への支援も重要となっています。

支援を必要とする人や地域のために何かをしたいという人の思いを受け止め、つながりづくりや実際の活動に向けてのサポートが必要です。

ボランティア登録状況



グループ支援においては、ボランティア連絡協議会と話し合いを行いながら、ボランティア登録の見直し等、組織的な活動を進めるための整備をはかりました。

本会では長年にわたって、障がいのある方やひとり親世帯といった当事者で構成され、会員や福祉向上のために取り組んでいる福祉団体、いわゆる当事者団体を、運営や活動面で支援してきました。

当事者にしかわからない、暮らしの中で抱える不自由さなど社会的な障害を明らかにして、社会に投げかけて、制度やサービスの改善、障壁を失くし、今のバリアフリー社会の礎を築いてきました。

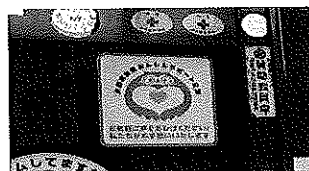


障がいのある方とボランティアが集まったの懇談会

しかしながら、近年は組織活動離れが進んで、会員の減少、スタッフの高齢化などで運営がままならない団体も増えています。

当事者団体が担う役割はまだたくさんあります。思いを尊重して、必要な支援を心掛け、社会参加しやすい環境や仕組みづくりについて、当事者と一緒に取り組んでいかなければなりません。

そのためにも、ボランティアや福祉関係団体、施設だけでなく、市民の暮らしに関わる店舗や一般企業などにも働きかけ、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて、連携をはかっていきたいと考えます。



京都高齢者あんしんサポート企業研修の実施

企業や事業所でできる福祉サポートに関して啓発・登録を呼びかけました。

### 活動報告 3

## 意見交換会の開催

障がい者への地域支援について考えようと、市内で活動している障害者団体の方と支援しているボランティアが集って懇談会を開催しました。

### ○障がい者とボランティアとの懇談会

障がいのある方は、日々の暮らしの面でなく、移動や情報の把握など社会生活面で個々の当事者の方にしかわからない不自由さを抱えています。暮らし、社会参加、災害時の不安、そして各団体の活動などいろいろなことを話し合いました。

この日の懇談会では、障がいのある方の暮らしの困りごと、ボランティアからは自分達の活動に関して話し合いましたが、もう一つのテーマ、災害時の支援についての話は大変盛り上がりました。

障がい者のある方については、足が不自由な人、視覚障がい者の方は避難所までの誘導、聴覚に障がいのある方は避難情報の提供などその時の必要なサポートが異なります。でも共通するのは、近隣住民の支援が必要で、そのためにも日頃からの関係づくりの中で、自分達の存在と障がいを知ってもらうということでした。そうした地域との関係づくりも今後の課題です。

## ○福祉施設や事業所関係者との懇談会

障がいのある方の生活を支えている施設や事業所があります。普段の活動から感じる障がい者の支援について把握しようと下記の施設、事業所の方々と意見交換をはかりました。

- ・協力施設および事業所（順不同）  
京田辺市障害者生活支援センター「ふらっと」  
NPO 法人ソーシャルアクション・パートナーシップ  
山城就労支援事業所「さんさん山城」  
京田辺市社会福祉協議会ホームヘルプセンター

### 主な意見

- ・催しがあってもバス利用で直接行きにくいなど交通の便や会場や施設の利用の関係で、障がいのある方達が行く場所、行ける場所が少ないので、引きこもってしまう。以前に比べると広がってきているが、移動手段や利用への配慮が進むと、もっと外出も進むだろうし、市民も対応してくれるようになるのでは
- ・日頃から接点を持つことが大事。有事の際に障がい者が過ごせる場所を確保すること。自分のことを知ってもらうことがどれだけできるか。学校での教育、文化的イベントへの参加などいろいろあるのではないか。
- ・施設の活動である農業活動を、市民の人や当事者同士の交流の場として様々な形で活用してもらったりするなど貢献的な取り組みも進めていけたらと考えているところもある

---

## 基本目標4「安定した生活づくり」に向けて

---

高齢者や障がい者が住み慣れた地域での暮らしを望む反面、生活の不自由さや不安を感じ、またそれを支える介護者の心身の負担が大きいのが現実です。

そうした不安、負担を軽減し、寄り添った生活支援が行えるよう、職員間での情報を共有し、誠意を持って対応にあたりました。



介護は決して他人事ではなく、誰もが直面する可能性のある問題です。現在、問題を抱えている人だけでなく、まだ関わりのない人であっても、介護の知識や技術を得ることは大きな備えとなります。その一助となるよう「介護のひろば」などを開催しました。

超高齢社会を迎え、団塊の世代が75歳を迎える2025年には、認知症高齢者が700万人を突破し、65歳以上の5人に1人が罹患すると予測されています。認知症は自分自身や身内、親族にも関わる大変身近な病気でもあります。周囲の人が適切に関わりや支援の方法を知る事で、認知症の人とその家族も地域で安心して暮らすことができます。

まずは正しい知識と接し方を知り、地域社会全体で支えることを目的とし「認知症サポーター養成講座」を開催しました。多くの方が受講され、サポーター（応援者）が誕生しました。

核家族化が進み、家族介護力は低下している現代、介護保険サービスなどの必要性が高まり、サービスを提供する側の責任も大きくなっています。しかし、公的なサービスだけでは利用者の思いに沿った地域生活の実現は難しく、地域社会全体で支える仕組みづくりが急務となっています。

近年は、体調や運転技術への不安から運転を控え、運転免許証を返納する高齢者が増えています。それに伴い、日々の買い物が困難になったり、外出をすることなく引きこもりがちになるといった新



ヘルパーが、負担があまりかからない介護の仕方やコツを指導しました。



認知症サポーター養成講座

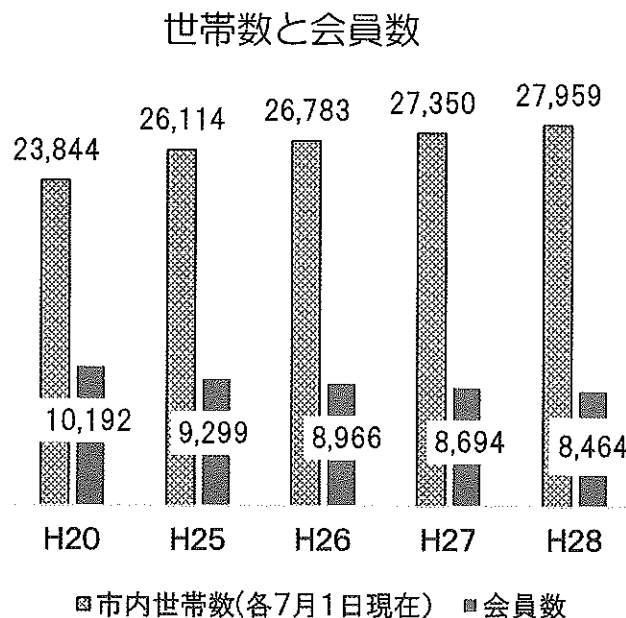
寸劇を交えて、認知症やその心構えを周知しました。小中学校でも行って、サポーターの輪が広がっています

たな問題も浮き彫りになっています。こうした地域課題の解消に向けて、地域福祉部門の職員と利用者と日々関わっている在宅サービス部門の職員間での情報の共有化をはかり、地域住民の暮らしのニーズに寄り添った支援やサービスの検討が必要であると感じています。

## 基本目標5「福祉を支えるための基盤強化」に向けて

本会の活動は、市民による、市民のための取り組みを、市民が主体になって進めることを前提としています。そのため、市民が会員となって、集めた財源を基に、市民1人ひとりの暮らしが豊かになり、地域が暮らしやすくなるための活動や事業の展開ならびに支援をしています。

人口や世帯数は増えていますが、地域福祉を支える会員の数は減少しています。社協活動や地域福祉を支えているという点や募った貴重な会費や募金が、自分の住む地域や暮らしにどのように活用されているのかわかりにくいという指摘があります。自分たちが、社協会員としてどのように市民の暮らしや地域の活動に貢献しているのかについてもわかりにくいのが現状です。



※市内世帯数は京田辺市統計書より

社協の活動と市民が会員となって支えている仕組みについて、各世代にわかりやすく伝える方法や手立てを検討し、実践し、多くの市民の参加をはかっていきたいと考えます。

また、近年、新しく立ち上がった自治会との関係や市民への啓発も進めていきます。

活動報告4

地域懇談会の開催（その1）

地域福祉活動の推進をはかるために、第2次活動計画の推進期間の中間年にあたる3年目の平成27年度に下記のとおり懇談会を実施しました。ふれあいサロン活動の推進だけでなく、戸別に訪問する「見守り活動」の推進をはかるため、各地区での高齢者などの要配慮者への支援や把握、活動状況などについて意見を伺いました。

支 部	分 会	日 時	場 所	参加者数
田辺支部	田辺,興戸,西住宅	11月6日(金) 午後7時~	社会福祉 センター	17名
河原支部	河原,東住宅,府営団地	11月14日(土) 午後1時30分~	社会福祉 センター	37名
普賢寺支部	多々羅,普賢寺,水取 打田,高船,天王	11月17日(火) 午後8時~	水取 公民館	22名
大住第1支部	松井,西八,東林 岡村,三野,松井ヶ丘 山手東,山手南 ファインパーク	11月29日(日) 午後1時30分~	北部住民 センター	30名
薪支部	薪,一休ヶ丘	11月30日(月) 午後1時30分~	社会福祉 センター	25名
大住第2支部	健康村,健康ヶ丘 大住ヶ丘1~5丁目 花住坂	12月1日(火) 午後7時~	健康ヶ丘 公民館	22名
草内支部	東,草内,飯岡,新興戸	12月4日(金) 午後7時~	社会福祉 センター	24名
三山木支部	高木,二又,同志社住宅 山崎,山本,出垣内 南山東,南山西,江津 宮ノ口,同志社山手	12月5日(土) 午前10時~	社会福祉 センター	22名

延べ参加者数

社協関係…40名 区・自治会…55名 市民児協…88名 老人会…16名  
京田辺市地域包括支援センターの職員1名（各回参加）

地域福祉活動を進めるための意見がたくさん寄せられました。主なものを下記のとおりまとめました。

## ◎ ふれあいサロン活動について

### 【高齢者を対象にしたサロン】

- ・本会で進めてきたサロン活動について、長年取り組まれている地域では、参加者も、活動も定着し、欠かすことができない取り組みとなっています。

- ・参加者の配慮した催しや工夫をこらした取り組みが進められている。

（ おたっしゅ応援事業（血圧測定や健康相談、介護予防や健康、機能維持をはかるための話や催しの実施）の活用  
親睦をはかりやすいように、おしゃべりやゲーム、喫茶の実施。）

- ・新規の参加がなかなかない。

- ・誘ってもなかなか来てくれない。

- ・区、自治会が管轄する地域や世帯数が多い区・自治会では、拠点である公民館までの距離や起伏があるなど、高齢者が自力で来るのは困難で、参加につながりにくい。

- ・年齢を重ねると、ゲートボールなど活発な老人会の活動に参加しにくく、退会する高齢者が多く、家にひきこもりがちとなる。そうした人たちが地域に出て、関係をつくる場としてサロン活動に取り組み、今では、支援者（民生委員・児童委員）との関係づくりや情報把握の場となっている。

- ・民生委員・児童委員がきっかけとなり、担い手となり、地域参加や要配慮者の情報把握を行うためにサロン活動を実施している地区もあれば、孤立する高齢者など戸別訪問（見守り）へ力点を置き、サロンなど関係づくりは区・自治会や老人会など地域全体で進める形への転換をはかる地区もあって、方向性が異なってきている。

- ・話や講演を聞く催しは、参加が少ない。外出する催しへの参加は男女問わず参加がとても多い。

### 【子育てを対象としたサロン】

- ・子育てや子どもの数が増えている地域では、民生委員・児童委員が中心となって進められている。

- ・サロンとの併用で見守り活動を実施し、把握や周知を行っている。

## ◎ 見守り活動について

- ・防災意識や活動が高まり、要配慮者の把握や状況確認のために見守り活動への関心や考える意見が多くあった。
- ・個人情報扱いや対応などへの不安は引き続き高かった。

## ◎ 災害支援の取り組みについて

- ・市が行っている避難所運営訓練が各校区ですすめられるようになり、防災や避難対策への意識が高まり、要配慮者の把握や名簿づくりに取り組む、または取り組みたい地区が増えた。
- ・要支援者情報登録制度について、自主防災会が組織化されている地区ほど名簿づくりや対策などが進む一方で、制度を知らない地区も多く、差があった。
- ・自主防災組織があっても、いざというときに役員と区・自治会、住民の間でどのように動くか、模索、検討している地区が多い。
- ・飯岡区では、自主防災組織化がいち早くすすめられ、長年にわたって取り組みが進んでいるので、住民の意識は高く、役割（物資分配や救護などの6つの役割）分担を行って、毎年更新しているところがあった。
- ・具体的にどのような形の取り組みがあるのかわからない。参考となる他の地域の取り組みや進め方について、紹介して欲しい。

## ◎ その他

### 【区・自治会の活動について】

- ・役員の任期が1年交代のところが多く、防災や見守りなど継続的な活動に取り組みが難しい状況のところも多い。
- ・毎月地区の会議の中で、年2～3回地域包括支援センターの職員が来て、情報提供を行っている。  
毎月の区長会、班長会で、年数回民生委員・児童委員が出席して、活動内容を報告し、情報交換を行っている地区があった。
- ・子ども達を大切にしたい地域の行事が各地で行われている。

### 【老人会の活動について】

- ・旧村地区においては、老人会の存在意義が大きい。加入年齢に達した住民はほぼ全員加入し年間行事にも参加している。

- ・地区の老人会で年間行事として、サロンや、ゲートボール、グランドゴルフなどで集まる機会をつくり、親睦をはかるなど熱心に取り組んでいる様子が伺えた。

- ・60代～70代の若い高齢者の加入や行事への参加が進まない一方で、年齢の高い高齢者が参加できない行事などで退会する人も多く、孤立しがちになる。

### 【社協の活動について】

- ・子育てサロンなどの行事が、社協会員の加入や共同募金に支えられている趣旨を説明しても、子育て世代の反応は悪く、加入などにつながらない。

- ・チャリティーバザーの回覧などで提供品の募集、告知があるが、もう少し具体的に、何のために使われるのか、周知してほしい。

### ◎ 懇談会のまとめ

- ・長年にわたって取り組みが行われているところは定着化しているが、新規参加者の促進や担い手の確保など解消されていないところがある。

- ・地域で進められている福祉活動の推進や展開を図っていく上で、民生児童委員の存在や役割、力の大きさを改めて認識させられた。

- ・福祉活動のすみ分け、役割分担をはかろうとしている所がある。高齢者に対する取り組みは、新興住宅地については、民生委員・児童委員、それ以外の地域については主に老人会という形で担っている。

- ・区、自治会の運営が、役員任せになって負担が大きくなっている。通年の行事がたくさんあって、それを進めていくのが精一杯で地域ぐるみで福祉を進めていく余裕がない。

- ・地域組織や住民の中で、共助や要配慮者の把握、防災への関心や意識は高まり、取り組みも拡大しつつあるが、やはり個人情報への把握や扱い方法への戸惑いが強い。

- ・市が行っている小学校区ごとの避難誘導訓練や要支援者登録制度といった取り組みが契機となり、自主防災の組織化や活動が活発になっている。

- ・地区によって、老人会に加入する高齢者や年齢層、背景がまったくことなり、行事への参加具合も異なる。同世代が集い、憩いの場となる老人会の活動が、参加できない行事や活動により退会する現状があった。

## 意見交換会も開催しました（その2）

平成27年度に実施した地域懇談会に加えて、平成29年度8月から10月にかけて、一部の地域ではありますが、ふれあいサロン活動など福祉活動終了後に、地域役員やスタッフの皆さんに集まっていただいて、社協へのイメージや意見などを伺いました。一部ではありますが、報告させていただきます。

### 【社会福祉協議会のイメージや活動について】

- ・社協会員になってもらえない原因  
⇒ 若い世代の方に十分周知されていないので、社協が何をしているのかわかっていない
- ・社協 = 高齢者 のイメージ
- ・住んでいる地域から遠いため行く機会もなく、あまりよくわかっていない
- ・社協のやっていることを細かく書いたものがないのか
- ・会員募集の時には、一軒一軒回ってもらっているので、社協に会費を払って協力しているという意識は持ってもらっている
- ・区で（会費を）まとめて払っている地域は、《社協会員となっていることについて》意識を持つのは難しいのではないか
- ・（地域福祉がわかりにくいので）区と福祉（社協）と民生委員・児童委員の連携がはかりにくい。
- ・サロン開始当初は区が中心となって進めていたが、区の役員としてかかわるのは大変だということで、現在では民生委員・児童委員や福祉の役員が中心となり進めている。区役員も広報活動など一緒にやってもらえたらよい
- ・役員になるまで、共同募金、日赤募金、社協会費などの区別が分からなかった
- ・市の中に社協があると思っていた
- ・社協は地域の事情も理解していただいていたいてきめ細かく対応してもらって助かっている

- ・社協だよりは見ているが、子世代はいらぬというところもある
- ・社協の事業を理解してもらうためには、社協の方に地域に来てもらって話してもらうのがよい
- ・社協役員については2年任期で副分会長から分会長へと、トータルで4年の関わりがあり、責任をもって担ってもらっている
- ・社協チャリティーバザーについても(取り組み方などの)意見を出し、非常に熱心に取り組んでいる
- ・自治会等への加入についてシビアであり、募金や会費などは少額しかしてもらえないところがある
- ・はじめは非協力的であっても、だんだんと定着してくると理解をしてもらい協力してくれるようになってきたところもある
- ・区役員から社協の事業の事や仕組みなど伝えてくれているので、会費や募金などは若いとか老人とかはあまり関係ないのではないか
- ・会議の場などで説明しても、わかってもらえない方には理解は難しい

地域懇談会や意見交換を通じて、地域や市民の皆様の社会福祉協議会への認知度の低さ、貢献ができていない部分がたくさんあることを痛感しました。

こうした声の一つ一つが社会福祉協議会の活動や、地域の福祉活動及びボランティア活動、そして福祉サービスづくりとなり、地域生活や暮らしの向上へとつなげています。

市民や地域にとって、身近で、頼りがいのある社協づくりを目指していきます。



## 第3章 地域を知ること～地域特性について～

これまでも、活動計画を作成するにあたり、「京田辺市」や「区・自治会」の地域の特徴を把握するために、人口や世帯数、住民の年齢層など、国や市の統計資料を基に「地域分析表」という形でまとめてきました。

地域を構成する住民の年齢層や世帯状況などは異なります。歴史のある地域、新しく造成され開発された地域。生活を営む住民同士の地域や暮らしへの思い、世代で地域への思いや暮らしの考えは違います。家族の構成にも現れてきます。こうした状況をつかむことで、暮らしや地域の課題などが見えてきます。

また、地域住民や地域にとっても、自分達が暮らしている地域の状況を客観的に知ることができ、これからのゆとりある暮らしを築く地域づくりのための活動を、住民同士がつながり、協力しあいながら進めていくヒントになります。

今回の活動計画の策定をすすめる上で、「区・自治会」ごとに、平成27年度の国勢調査や市から提供していただいた人口や世帯数、年齢区分などの統計データをこれまでの過去2回の活動計画でまとめた集計データと比較しながらまとめました。

これらを基に、地域の特性などを住民や地域と共有し、実情や思いに配慮した取り組みなどを提案、検討などしながら実施していきたいと考えています

### 京田辺市の地域の状況について

全国的に人口は減少していますが、京田辺市においては年々増加しています。平成24年（2012）7月現在で、64,727人に対し、平成29年（2017年）7月現在で、68,752人、世帯数も25,873世帯から28,581世帯となっています。

世帯数はほぼ全域で増えています。人口については、北部、中部、南部地区の主な駅がある地区およびその周辺などで、農地や空き地などを転換して宅地開発が進み、人口が増えています。

人口が増えている地域  
(平成19年7月から平成29年まで7月)

山手東（ファインパークも含む）、山手西、健康村、健康ヶ丘、薪、一休ヶ丘、田辺、興戸、西住宅、河原、草内、新興戸、高木、山本、二又、同志社住宅、山崎、南山西、出垣内、多々羅

高齢者の割合が  
20%未満の地域  
(平成29年7月現在)

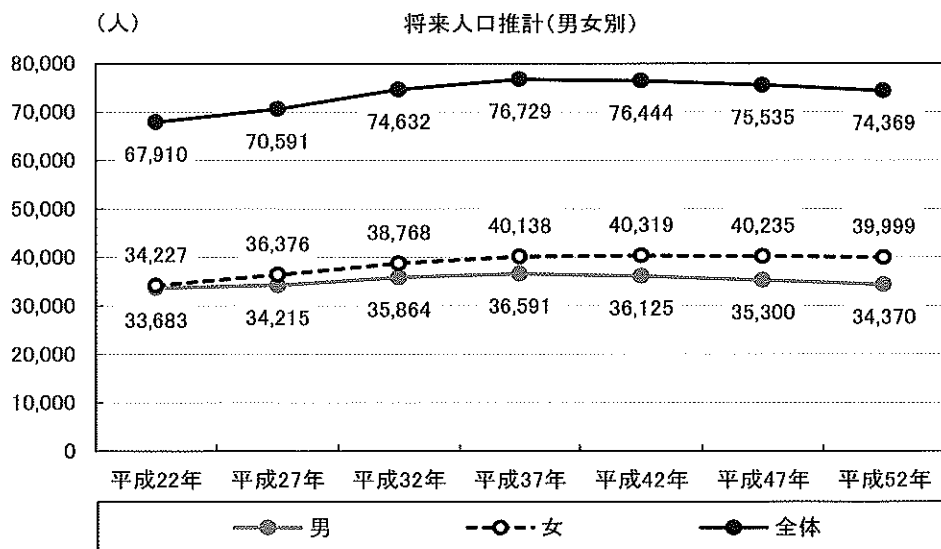
山手東（ファインパークも含む）山手南、※山手西、健康ヶ丘、興戸、西住宅、高木、山本、二又、山崎、出垣内、※同志社山手

古くから集落のある地区だけでなく、新興住宅地でも開発が落ち着いた地区でも減少しています。

人口が減っている地域 (平成19年7月から平成29年まで7月)

松井、西八、東林、岡村、三野、大住ヶ丘、花住坂、東住宅、府営団地、飯岡、東、南山東、普賢寺、水取、打田、高船、天王

市全体でも平成37年度を境に人口が減少していくと見込まれています。



※京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 急速に高齢化が進んでいる地域も・・・

京田辺市は、全国平均や京都府の平均よりは低いですが、総人口の65歳以上の高齢者の占める割合は、平成19年7月の時点では17.2%、5年前は20.7%でしたが、平成29年には24.3%と上昇してきています。

地区によっては、高齢者の割合が高くなってきている地区が多くなっています。65歳以上の高齢者が、区・自治会内在住の全住民に占める割合が25%を超える地区は、平成19年では14地区でしたが、10年後の平成29年10月には23地区になりました。30%を超える地区は、8地区から19地区となり、40%を超えるところが、6地区となっています。

高齢者の割合が市の平均（24.3%）を超える地区（平成29年7月現在）

松井、西八、東林、岡村、三野、松井ヶ丘、健康村、大住ヶ丘、花住坂、東住宅、府営団地、草内、新興戸、同志社住宅、南山西、江津、宮ノ口、多々羅、普賢寺、水取、打田、高船、天王

旧村地区といわれる古くから集落がある地域では、以前から高齢者の割合が高かったのですが、近頃は開発が落ち着いた新興住宅地の自治会の中で比較的新しい組織された自治会でも、急激に上昇しています。

新興住宅地の多くは、大規模な宅地開発が進められ、多くが20代から40代の子育て世代が転居し、生活を営んでいます。地域を築くこの世代が20年、30年後に高齢世代を迎えます。時間が経つに連れ、あるときを境に、年齢層が大きく変わっていきます。

急激に高齢化が高くなっている新興住宅地の多くが1970年代から80年代に開発された地域です。当時、社会や地域を支え、子育てに励んでいた方たちが移り住み、子ども達を社会に送り出し、高齢者のみの世帯となっていきます。人口や世帯数の多い地域ほど、同時期にそうした世代を迎えるため、人数や割合が高くなります。

健康ヶ丘や一休ヶ丘も同年代に開発された地域ですが、今も宅地開発が進んでおり、子どもや若い世代を中心に人口が増えているため、高齢者の割合が少なくなっています。

## 住民同士のつながりと区・自治会単位の活動の大切さ

新興住宅地は、旧村地区と異なり、身内や親類と離れて、核家族で暮らす傾向にあります。今、子ども達ら暮らす割合が高い地域ほど、20年、30年先は、核家族傾向が続くと、将来的には、急速に高齢化が進んで、夫婦のみもしくはひとり暮らしで暮らす高齢者が増えることが想定されます。

また、障がいのある人やひとり親世帯など、近隣に暮らす人たちの支援（共助）を必要とする人がたくさんいます。

日常生活や地域生活のための福祉援助（公助）が在宅や地域を拠点に充実化がはかられる中で、近隣住民や地域との日常的なつながりをつくり、不安なとき、困ったとき、災害が起こったときなど不測の事態に、SOSを出して、互いに支え合う関係や活動が、地域の中にあることで安心して暮らすことができます。

こうした関係は、普段から地域の活動や行事など参加することから始まり、交流や親睦を重ねることで、信頼へとつながっていきます。

よって住民や地域の活動を応援し、関係を築くことが、本会が進める「地域福祉」の第1歩と考えています。

自分達が暮らす地域を知るということは、安心して暮らせる地域（まち）について一緒に考え、支え合っていくということで、自分達の暮らしやすさにつながっていくということです。

一人ひとりが持つ「お互いさん」の心で、他人事ではなく、要配慮者や地域における暮らしの課題を自分の課題として認識し、近隣住民や地域が思いをつなげ、出来る事を、出来る範囲で考え、課題の解決や活動をしていくお手伝いを、この活動計画の実践を通じて、進めていきたいと考えています。

## ☆ 地域分析表について

「地域福祉」の活動を進めるために、具体的に何をするのか、どのような支援を進めていくのかを考えるにあたり、京田辺市で暮らす人の数や年齢構成、世帯数等がわからなければ、効果的な計画はできません。人口や世帯数等の動向を知ることによって各地区の現状やこれからの地域性が見えてきます。

第3次活動計画を策定するにあたって、平成19年度に策定した第1次活動計画、続いて第2次活動計画の中でまとめた区・自治会ごとの人口や世帯数等の数字と、各5年間を経過してどのように変わったのかを比べ、各地区の状況や特徴を把握するために、京田辺市からデータを提供していただき、次のページの「地域分析表」という形でまとめました。

区・自治会の活動やまちづくり等を進める上で大変参考になる表ですので、ご利用ください。

### ○ 住民基本台帳人口

住民基本台帳は氏名、生年月日、住所等が記載された住民票を編成したもので、住民登録された人の数です。京田辺市の行政区ごとに住民登録された人の数を、平成19年および平成24年、そして平成29年の7月1日現在の数字で出しています。

### ○ 年齢3区分別割合

就学年齢である14歳未満と就労につける15歳から64歳までの年齢、65歳以上の年齢、3つの区分の年齢に分けて、それぞれの人口に占める割合を示したものです。

### ○ 世帯数及び平均世帯人員、世帯構成

世帯とは「住居」と「生計」を共にしている人の集まりで、必ずしも家族や親類だけで構成される訳ではありません。世帯を構成する人数、構成する人の関係等を整理することで、各地区の世帯の特徴等がわかります。

京田辺市でまとめられた世帯数や平均世帯人員と5年ごとに行われる国勢調査の数字をもとに、単身世帯と3世代で構成する世帯の割合、一人暮らしの高齢者の数もまとめました。

### ○ 心身障がい者数

身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳を所有している方の延べ人数を掲載しています。

# 地域

区分 区・自治会		人												
		住基人口(人)				年齢3区分人口(人)								
						14歳以下				15～64歳				
統計年度	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(人) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(人) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(人) (H29-H24)	H19.7.1	
総数		61,035	64,727	68,752	4,025	9,562	10,512	10,856	344	40,989	40,830	41,184	354	10,484
大住第1	松井	797	823	772	▲ 51	89	110	93	▲ 17	492	471	427	▲ 44	216
	西八	430	420	385	▲ 35	36	41	32	▲ 9	262	246	208	▲ 38	132
	東林	262	244	223	▲ 21	25	21	15	▲ 6	153	139	118	▲ 21	84
	岡村	341	311	278	▲ 33	32	29	27	▲ 2	196	180	143	▲ 37	113
	三野	221	217	206	▲ 11	29	26	39	13	132	122	113	▲ 9	60
	松井ヶ丘	2,262	2,196	2,180	▲ 16	228	234	240	6	1,337	1,084	987	▲ 97	697
	山手東 ファインパーク	2,944	3,024	3,173	149	601	615	601	▲ 14	2,049	2,022	2,033	11	294
	山手南 (山手西)	3,199	3,205	3,092	▲ 113	777	679	455	▲ 224	2,124	2,114	2,087	▲ 27	298
		-	812	1,284	472	-	295	412	117	-	493	812	319	-
大住第2	健康村 (大塚含む)	1,631	1,548	1,577	29	247	224	228	4	1,098	973	911	▲ 62	286
	健康ヶ丘	4,094	4,564	4,805	241	987	1,155	1,053	▲ 102	2,804	2,959	3,057	98	303
	大住ヶ丘	4,331	4,042	3,843	▲ 199	355	374	350	▲ 24	3,127	2,198	1,554	▲ 644	849
	花住坂	3,110	2,995	2,724	▲ 271	425	323	250	▲ 73	2,287	2,127	1,680	▲ 447	398
薪	薪	3,988	4,408	4,758	350	702	871	889	18	2,628	2,729	2,905	176	658
	一休ヶ丘	2,836	3,020	3,390	370	473	550	655	105	1,799	1,780	1,942	162	564
田辺	田辺	3,597	3,809	4,099	290	540	613	607	▲ 6	2,324	2,403	2,602	199	733
	興戸	2,866	3,157	3,391	234	510	579	597	18	1,966	2,110	2,187	77	390
	西住宅	790	787	898	111	126	115	170	55	532	520	571	51	132
河原	河原	961	1,004	1,089	85	159	160	147	▲ 13	667	667	703	36	135
	東住宅 (各集合住宅含む)	2,399	2,341	2,336	▲ 5	302	298	262	▲ 36	1,616	1,463	1,383	▲ 80	481
	府営団地	2,560	2,356	2,131	▲ 225	394	286	213	▲ 73	1,472	1,225	1,009	▲ 216	694
草内	草内	2,375	2,385	2,434	49	458	426	361	▲ 65	1,583	1,536	1,547	11	334
	新興戸 (市営住宅含む)	1,974	1,945	1,991	46	230	215	242	27	1,350	1,215	1,104	▲ 111	394
	飯岡	540	507	468	▲ 39	39	48	43	▲ 5	339	274	232	▲ 42	162
	東	5,603	5,570	5,447	▲ 123	902	759	608	▲ 151	4,057	3,904	3,587	▲ 317	644
三山本	高木	796	1,042	1,076	34	133	198	185	▲ 13	556	697	713	16	107
	山本	920	1,141	1,523	382	152	201	278	77	620	772	1,002	230	148
	二又	545	626	935	309	72	102	197	95	390	430	634	204	83
	同志社住宅	273	309	332	23	21	28	49	21	162	174	174	0	90
	山崎	166	232	259	27	24	34	33	▲ 1	116	162	181	19	26
	南山東	947	966	899	▲ 67	88	85	76	▲ 9	661	660	570	▲ 90	198
	南山西	420	513	534	21	45	56	61	5	305	364	355	▲ 9	70
	出垣内	301	380	513	133	49	66	71	5	195	233	342	109	57
	江津	645	789	754	▲ 35	89	121	109	▲ 12	415	501	458	▲ 43	141
	宮ノ口 (同志社山手)	209	186	170	▲ 16	30	22	12	▲ 10	131	111	101	▲ 10	48
	-	1,237	2,971	1,734	-	420	1,086	666	-	779	1,756	977	-	
普賢寺	多々羅	238	265	280	15	23	15	15	0	143	182	187	5	72
	普賢寺	290	273	259	▲ 14	34	29	27	▲ 2	173	159	141	▲ 18	83
	水取	373	354	318	▲ 36	46	39	35	▲ 4	232	213	172	▲ 41	95
	打田	320	289	261	▲ 28	38	17	10	▲ 7	184	170	146	▲ 24	98
	高船	150	148	127	▲ 21	22	12	12	0	98	98	76	▲ 22	30
	天王	331	287	267	▲ 20	30	21	20	▲ 1	214	171	148	▲ 23	87

# 分析表

口														
年齢3区分別割合(%)														
65歳以上			14歳以下				15~64歳				65歳以上			
H24.7.1	H29.7.1	増減(人) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(%) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(%) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(%) (H29-H24)
13,385	16,712	3,327	15.7	16.2	16.8	▲ 0	67.2	63.1	59.9	▲ 3	17.2	20.7	24.3	4
242	252	10	11.2	13.4	12.0	▲ 1	61.7	57.2	55.3	▲ 2	27.1	29.4	32.6	3
133	145	12	8.4	9.8	8.3	▲ 1	60.9	58.6	54.0	▲ 5	30.7	31.7	37.7	6
84	90	6	9.5	8.6	6.7	▲ 2	58.4	57.0	52.9	▲ 4	32.1	34.4	40.4	6
102	108	6	9.4	9.3	9.7	0	57.5	57.9	51.4	▲ 6	33.1	32.8	38.8	6
69	63	▲ 6	13.1	12.0	18.9	7	59.7	56.2	54.9	▲ 1	27.1	31.8	30.6	▲ 1
878	953	75	10.1	10.7	11.0	0	59.1	49.4	45.3	▲ 4	30.8	40.0	43.7	4
387	539	152	20.4	20.3	18.9	▲ 1	69.6	66.9	64.1	▲ 3	10.0	12.8	17.0	4
412	550	138	24.3	21.2	14.7	▲ 6	66.4	66.0	67.5	2	12.9	12.9	17.8	5
24	60	36	-	36.3	32.1	▲ 4	-	60.7	63.2	3	-	3.0	4.7	2
351	438	87	15.1	14.5	14.5	▲ 0	67.3	62.9	57.8	▲ 5	17.5	22.7	27.8	5
450	695	245	24.1	25.3	21.9	▲ 3	68.5	64.8	63.6	▲ 1	7.4	9.9	14.5	5
1470	1939	469	8.2	9.3	9.1	▲ 0	72.2	54.4	40.4	▲ 14	19.6	36.4	50.5	14
545	794	249	13.7	10.8	9.2	▲ 2	73.5	71.0	61.7	▲ 9	12.8	18.2	29.1	11
808	964	156	17.6	19.8	18.7	▲ 1	65.9	61.9	61.1	▲ 1	16.5	18.3	20.3	2
690	793	103	16.7	18.2	19.3	1	63.4	58.9	57.3	▲ 2	19.9	22.8	23.4	1
793	890	97	15.0	16.1	14.8	▲ 1	64.6	63.1	63.5	0	20.4	20.8	21.7	1
468	607	139	17.8	18.3	17.6	▲ 1	68.6	66.8	64.5	▲ 2	13.6	14.8	17.9	3
152	157	5	15.9	14.6	18.9	4	67.3	66.1	63.6	▲ 2	16.7	19.3	17.5	▲ 2
177	219	42	16.5	15.9	13.5	▲ 2	69.4	66.4	64.6	▲ 2	14.0	17.6	20.1	2
580	691	111	12.6	12.7	11.2	▲ 2	67.4	62.5	59.2	▲ 3	20.1	24.8	29.6	5
845	909	64	15.4	12.1	10.0	▲ 2	57.5	52.0	47.3	▲ 5	27.1	35.9	42.7	7
423	526	103	19.3	17.9	14.8	▲ 3	66.7	64.4	63.6	▲ 1	14.1	17.7	21.6	4
515	645	130	11.7	11.1	12.2	1	68.4	62.5	55.4	▲ 7	20.0	26.5	32.4	6
185	193	8	7.2	9.5	9.2	▲ 0	62.8	54.0	49.6	▲ 4	30.0	36.5	41.2	5
907	1252	345	16.1	13.6	11.2	▲ 2	72.4	70.1	65.9	▲ 4	11.5	16.3	23.0	7
147	178	31	16.7	19.0	17.2	▲ 2	69.8	66.9	66.3	▲ 1	13.4	14.1	16.5	2
168	243	75	16.5	17.6	18.3	1	67.4	67.7	65.8	▲ 2	16.1	14.7	16.0	1
94	104	10	13.2	16.3	21.1	5	71.6	68.7	67.8	▲ 1	15.2	15.0	11.1	▲ 4
107	109	2	7.7	9.1	14.8	6	59.3	56.3	52.4	▲ 4	33.0	34.6	32.8	▲ 2
36	45	9	14.5	14.7	12.7	▲ 2	69.9	69.8	69.9	0	15.7	15.5	17.4	2
221	253	32	9.3	8.8	8.5	▲ 0	69.8	68.3	63.4	▲ 5	20.9	22.9	28.1	5
93	118	25	10.7	10.9	11.4	1	72.6	71.0	66.5	▲ 4	16.7	18.1	22.1	4
81	100	19	16.3	17.4	13.8	▲ 4	64.8	61.3	66.7	5	18.9	21.3	19.5	▲ 2
167	187	20	13.8	15.3	14.5	▲ 1	64.3	63.5	60.7	▲ 3	21.9	21.2	24.8	4
53	57	4	14.4	11.8	7.1	▲ 5	62.7	59.7	59.4	▲ 0	23.0	28.5	33.5	5
38	129	91	-	34.0	36.6	3	-	63.0	59.1	▲ 4	-	3.1	4.3	1
68	78	10	9.7	5.7	5.4	▲ 0	60.1	68.7	66.8	▲ 2	30.3	25.7	27.9	2
85	91	6	11.7	10.6	10.4	▲ 0	59.7	58.2	54.4	▲ 4	28.6	31.1	35.1	4
102	111	9	12.3	11.0	11.0	▲ 0	62.2	60.2	54.1	▲ 6	25.5	28.8	34.9	6
102	105	3	11.9	5.9	3.8	▲ 2	57.5	58.8	55.9	▲ 3	30.6	35.3	40.2	5
38	39	1	14.7	8.1	9.4	1	65.3	66.2	59.8	▲ 6	20.0	25.7	30.7	5
95	99	4	9.1	7.3	7.5	0	64.7	59.6	55.4	▲ 4	26.3	33.1	37.1	4

# 地域

区分 区・自治会		世										
		世帯数				平均世帯人員				H17国勢		
統計年度	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(世帯) (H29-H24)	H19.7.1	H24.7.1	H29.7.1	増減(人) (H29-H24)	世帯数	65歳以上(人)	世帯数	
総数	23,463	25,873	28,581	2,708	2.60	2.50	2.41	▲ 0.10	25,147	1,085	27,821	
大住第1	松井	247	288	287	▲ 1	3.23	2.86	2.69	▲ 0.17	198	13	222
	西八	149	155	163	8	2.89	2.71	2.36	▲ 0.35	134	11	131
	東林	82	88	87	▲ 1	3.20	2.77	2.56	▲ 0.21	75	4	70
	岡村	123	124	129	5	2.77	2.51	2.16	▲ 0.35	93	7	106
	三野	70	82	73	▲ 9	3.16	2.65	2.82	0.18	50	4	55
	松井ヶ丘	882	913	912	▲ 1	2.56	2.41	2.39	▲ 0.01	788	57	809
	山手東 ファインパーク	1,033	1,071	1,145	74	2.85	2.82	2.77	▲ 0.05	1,007	30	1,005
	山手南	1,069	1,109	1,135	26	2.99	2.89	2.72	▲ 0.17	937	10	1,088
	(山手西)	11	233	396	163	-	3.48	3.24	▲ 0.24	-	-	171
大住第2	健康村 (大坪含む)	638	618	662	44	2.56	2.50	2.38	▲ 0.12	580	23	570
	健康ヶ丘	1,409	1,529	1,654	125	2.91	2.98	2.91	▲ 0.08	1,284	32	1,434
	大住ヶ丘	1,629	1,679	1,701	22	2.66	2.41	2.26	▲ 0.15	1,516	64	1,529
	花住坂	1,031	1,080	1,078	▲ 2	3.02	2.77	2.53	▲ 0.25	922	18	964
薪	薪	1,429	1,615	1,801	186	2.79	2.73	2.64	▲ 0.09	1,247	55	1,393
	一休ヶ丘	1,076	1,175	1,317	142	2.64	2.57	2.57	0.00	952	56	994
田辺	田辺	1,480	1,613	1,861	248	2.43	2.36	2.20	▲ 0.16	1,838	80	2,077
	興戸	1,117	1,282	1,482	200	2.57	2.46	2.29	▲ 0.17	1,974	18	2,077
	西住宅	331	344	369	25	2.39	2.29	2.43	0.15	683	23	744
河原	河原	383	426	475	49	2.51	2.36	2.29	▲ 0.06	798	24	859
	東住宅 (各集合住宅含む)	1,042	1,053	1,131	78	2.30	2.22	2.07	▲ 0.16	1,014	69	992
	府営団地	1,173	1,152	1,105	▲ 47	2.18	2.05	1.93	▲ 0.12	1,078	170	1,042
草内	草内	859	900	996	96	2.76	2.65	2.44	▲ 0.21	846	34	870
	新興戸 (市営住宅含む)	799	835	888	53	2.47	2.33	2.24	▲ 0.09	864	54	883
	飯岡	197	205	205	0	2.74	2.47	2.28	▲ 0.19	153	4	147
	東	2,049	2,224	2,419	195	2.73	2.50	2.25	▲ 0.25	1,976	64	2,269
三山木	高木	343	445	495	50	2.32	2.34	2.17	▲ 0.17	824	9	967
	山本	384	460	650	190	2.40	2.48	2.34	▲ 0.14	645	19	919
	二又	251	303	433	130	2.17	2.07	2.16	0.09	357	9	472
	同志社住宅	120	149	149	0	2.28	2.07	2.23	0.15	132	15	131
	山崎	459	520	498	▲ 22	0.36	0.45	0.52	0.07	161	3	172
	南山東	188	253	276	23	5.04	3.82	3.26	▲ 0.56	838	48	894
	南山西	64	100	128	28	6.56	5.13	4.17	▲ 0.96	286	9	411
	出垣内	110	157	240	83	2.74	2.42	2.14	▲ 0.28	118	3	118
	江津	234	303	314	11	2.76	2.60	2.40	▲ 0.20	267	13	303
	宮ノ口 (同志社山手)	57 -	60 388	64 910	4 522	3.67 -	3.10 3.19	2.66 3.26	▲ 0.44 0.08	48 -	1 -	51 197
普賢寺	多々羅	97	132	156	24	2.45	2.01	1.79	▲ 0.21	79	7	78
	普賢寺	89	93	87	▲ 6	3.26	2.94	2.98	0.04	70	5	75
	水取	123	126	117	▲ 9	3.03	2.81	2.72	▲ 0.09	105	7	95
	打田	106	107	111	4	3.02	2.70	2.35	▲ 0.35	90	6	82
	高船	40	44	45	1	3.75	3.36	2.82	▲ 0.54	32	0	35
	天王	112	113	121	8	2.96	2.54	2.21	▲ 0.33	88	7	88

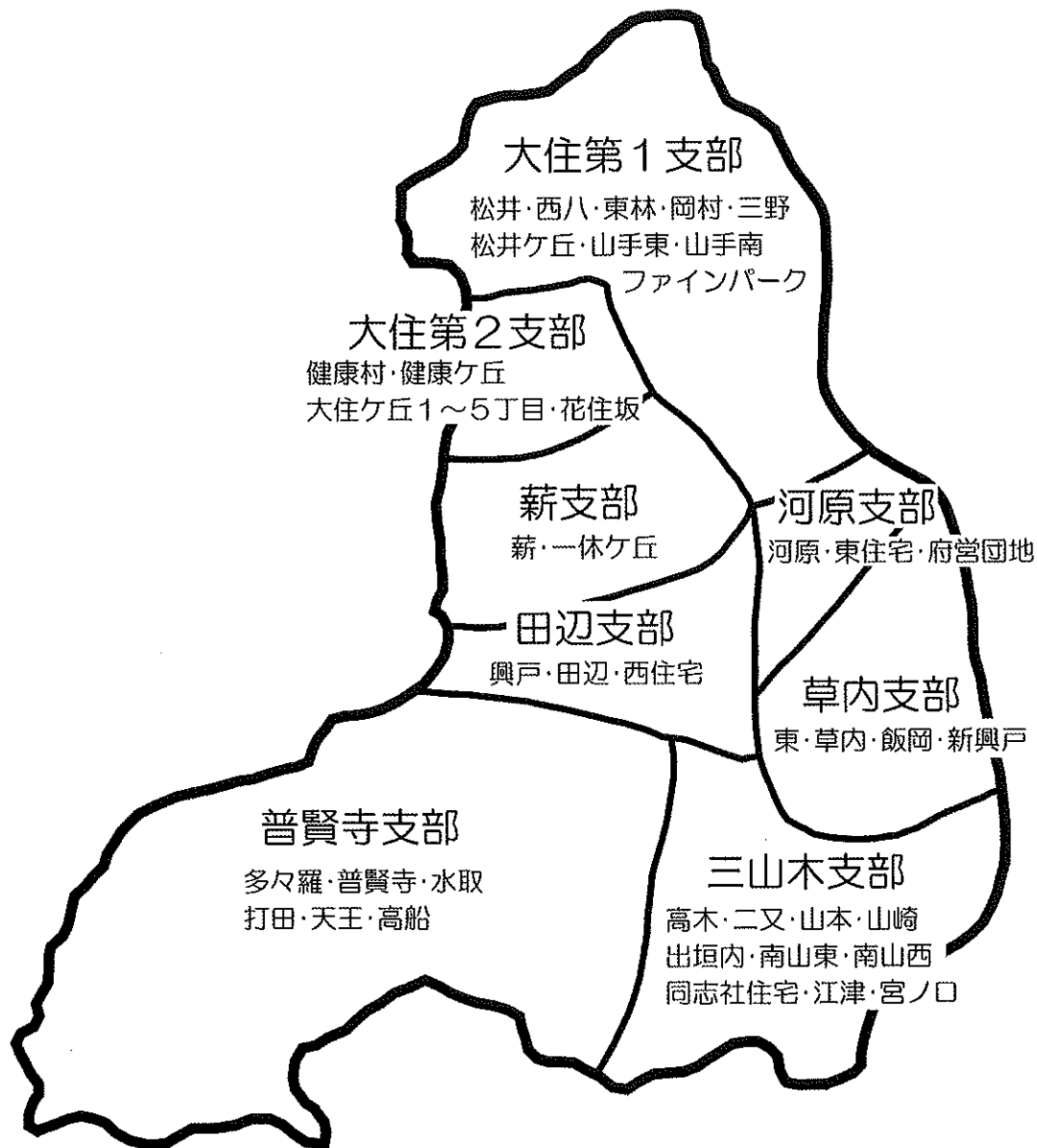


# 分析表

帯											心身障がい者数 身体障害者、療育手帳、精神保健福祉手帳保持者合計者数	
世帯構成(各10月1日現在)												
ひとり暮らしの高齢者					三世帯						増減(%) (H27-H22)	
国勢 65歳以上(人)	増減(人) (H22-H17)	H27国勢		増減(人) (H27-H17)	H17国勢 (%)	H22国勢		H27国勢				
		世帯数	65歳以上(人)			三世帯同居数(人)	同居率(%)	三世帯同居数(人)	同居率(%)			
1,550	465	29,660	2,220	1,135	6.9	1,534	5.5	1,139	3.8	▲ 1.7	3,077	
16	3	247	19	6	41.4	70	31.5	45	18.2	▲ 13.3	50	
8	-3	132	17	6	24.6	32	24.4	23	17.4	▲ 7.0	30	
5	1	68	8	4	36.0	25	35.7	16	23.5	▲ 12.2	11	
10	3	104	13	6	29.0	21	19.8	15	14.4	▲ 5.4	18	
5	1	60	7	3	34.0	13	23.6	9	15.0	▲ 8.6	13	
85	28	819	111	54	8.9	44	5.4	36	4.4	▲ 1.0	108	
46	16	1,072	57	27	5.3	56	5.6	40	3.7	▲ 1.9	98	
31	21	1,101	62	52	4.9	42	3.9	37	3.4	▲ 0.5	90	
-		246	-		-	6	3.5	7	2.8	▲ 0.7	16	
40	17	562	48	25	8.1	41	7.2	128	22.8	15.6	82	
78	46	1,556	68	36	4.8	53	3.7	232	14.9	11.2	122	
103	39	1,529	169	105	5.0	58	3.8	41	2.7	▲ 1.1	216	
39	21	982	68	50	9.0	66	6.8	36	3.7	▲ 3.1	116	
59	4	1,450	105	50	9.1	108	7.8	69	4.8	▲ 3.0	199	
86	30	1,186	97	41	7.6	65	6.5	49	4.1	▲ 2.4	162	
110	30	2,268	130	50	6.4	115	5.5	87	3.8	▲ 1.7	183	
49	31	2,215	91	73	4.5	72	3.1	53	2.4	▲ 0.7	137	
23	0	768	27	4	1.9	13	1.7	8	1.0	▲ 0.7	27	
38	14	925	59	35	4.6	26	3.0	23	2.5	▲ 0.5	68	
88	19	988	113	44	3.6	36	3.6	22	2.2	▲ 1.4	126	
208	38	1,024	284	114	2.5	24	2.3	19	1.9	▲ 0.4	222	
39	5	959	83	49	7.2	62	7.1	46	4.8	▲ 2.3	110	
85	31	900	119	65	5.3	33	3.7	31	3.4	▲ 0.3	130	
9	5	153	18	14	32.7	40	27.2	23	15.0	▲ 12.2	39	
107	43	2,446	168	104	6.2	97	4.3	75	3.1	▲ 1.2	252	
10	1	1,049	19	10	3.5	26	2.7	24	2.3	▲ 0.4	42	
22	3	1,142	60	41	5.1	31	3.4	25	2.2	▲ 1.2	67	
11	2	549	18	9	2.2	6	1.3	3	0.5	▲ 0.8	32	
12	-3	130	17	2	6.8	8	6.1	3	2.3	▲ 3.8	11	
2	-1	218	11	8	6.2	9	5.2	6	2.8	▲ 2.4	13	
48	0	814	55	7	2.9	24	2.7	15	1.8	▲ 0.9	61	
22	13	315	22	13	3.5	11	2.7	7	2.2	▲ 0.5	34	
3	0	172	8	5	11.0	12	10.2	8	4.7	▲ 5.5	27	
18	5	288	18	5	12.0	36	11.9	30	10.4	▲ 1.5	31	
0	-1	52	2	1	43.8	14	27.5	13	25.0	▲ 2.5	9	
1	1	699	2	2	-	6	3.0	15	2.1	▲ 0.9	33	
8	1	89	8	1	24.1	10	12.8	8	9.0	▲ 3.8	18	
6	1	75	7	2	47.1	27	36.0	27	36.0	0.0	11	
6	-1	102	9	2	19.0	28	29.5	21	20.6	▲ 8.9	23	
8	2	81	10	4	35.6	29	35.4	16	19.8	▲ 15.6	31	
5	5	35	1	1	53.1	17	48.6	8	22.9	▲ 25.7	2	
1	-6	90	12	5	30.7	22	25.0	22	24.4	▲ 0.6	7	

## 支部・分会の組織について

本会では地域福祉活動の推進組織体として、下記のとおり、8つの「支部」と、「区・自治会」単位で「分会」を設置し、地域福祉活動を推進しています。



※山手西地区、同志社山手地区は未設置

## 第4章 第3次地域福祉活動計画

### 基本理念

「お互いさんの心と絆ではぐくむ心豊かなまち 京田辺」  
～育てよう 支えあう 絆でつなぐ  
ふれあいネットワーク～

第3次地域福祉活動計画（以下「第3次活動計画」という。）の策定にあたり、市が策定した第3期京田辺市地域福祉計画（以下「第3期計画」という。）の基本理念を共有することにしました。

第3期計画は、京田辺市内の地域福祉を総合的に推進するために策定された計画であり、本会が策定する第3次活動計画と連携することになっていきます。「地域福祉活動計画」は、実践・行動計画です。実践する立場として理念をもって、第3次活動計画づくりを考えることとしました。第3期計画の基本理念※の中にある思いを踏まえて、市民一人ひとりが持っている「助けあい」や「支えあい」の思いを「ふれあい」という絆として育て、暮らしや地域の課題を他人ごとではなく自分たちのこととして捉え、一緒に考え、ともに行動する関係や地域づくりを進めていきたいと考え、その意味を副題に込めています。

※ 第3期京田辺市地域福祉計画基本理念

『お互いさんの心と絆ではぐくむ心豊かなまち 京田辺』

地域福祉の推進には、市民の主体的な参画と協働による「ともに生きる地域社会づくり」が求められます。それは、行政や特定の団体・企業・個人等が行うものではなく、市民すべてが主体となって、一人ひとりの参画のもとに、助け合いやふれあいの輪（和）を広げていく、継続的な活動であり、「みんなではぐくむ」という視点が必要です。

また「第3期計画」は、障がいがある人や子ども、高齢者などの特定の人ではなく、地域を構成するすべての人が対象となります。そして、誰もが生涯にわたり、住み慣れた地域で「一人ひとりが尊重され、その人らしく自立した生活をおくることができるようにすること」が重要です。この基本理念を前提に、市民がお互いの個性を尊重しながら、ふれあい、地域の多様な生活課題に気づき、その解決に向けて地域全体が一丸となって取り組んでいけるまちづくりを引き続きめざします。

～第3期京田辺市地域福祉計画冊子から抜粋～

## 基本理念

「お互いさんの心と絆で  
～育てよう 支えあう 絆で

### 基本目標

1

## 支えあいをはぐくむまちづくり

基本計画1 地域の「支えあい」の活動を進めよう

- ① ご近助活動の推進
- ② 区、自治会との対話と連携

基本計画2 ほっとできる居場所（たまりば）づくりを進めよう

- ① 住み慣れた地域の居場所づくり
- ② 誰もが気軽に集まりほっとできる居場所づくり
- ③ 福祉施設と協働した居場所づくり

基本計画3 ボランティアの魅力を発信！仲間づくりと組織づくりを進めよう

- ① ボランティア活動への参加促進
- ② 市民とボランティアが気軽に集えるセンターづくり
- ③ ボランティアグループの組織強化
- ④ 将来を担う子どもたちと共に地域で育てる福祉の心

基本計画4 心と社会参加のためのバリアフリーを進めよう

- ① 心のバリアフリーの推進
- ② 施設や設備、移動など社会参加のための環境整備

基本計画5 要援助者や介護者の支援を進め、安心につなげよう

- ① 要援助者や介護者に寄り添った支援
- ② 認知症の理解と普及
- ③ 利用者やその家族に寄り添ったサービスの提供

基本計画6 地域と連携して、災害ボランティアセンターの体制強化をともに進めよう

- ① 災害ボランティアセンターの周知と担い手づくり
- ② 地域や関係機関と顔の見える関係づくり

# はぐくむ心豊かなまち 京田辺」 つなぐ ふれあいネットワーク～

## 基本目標

### 2

## 地域で安心して暮らせるネットワークづくり

基本計画 1 地域全体で支えあう絆ネットワーク活動を展開します

- ① 地域活動団体や関係機関とのネットワークづくり
- ② 力を合わせて見守る体制づくり
- ③ 福祉や暮らしの課題を専門機関等と連携して解決する仕組みづくり

基本計画 2 当事者組織の「つながる・支えあう」活動を応援します

- ① 当事者の組織支援

## 基本目標

### 3

## 市民とともに福祉を進める社協づくり

基本計画 1 身近な社協、市民の信頼にこたえられる社協を目指します

- ① わかりやすい広報活動の展開
- ② 社協活動や募金活動の啓発と強化
- ③ 小地域福祉活動を推進するための体制の検討

基本計画 2 課題や情報を共有し、地域福祉やサービスの向上をはかります

- ① 地域や暮らしの課題の共有
- ② 地域福祉活動計画を推進します

## 基本目標1 支えあいをはぐくむまちづくり

「地域」は暮らしの拠点です。少子高齢化や核家族化が進み、近隣住民の関係が希薄化する中で、要配慮者（高齢者や障がい者、その家族やひとり親世帯など）の地域社会からの孤立が課題となってきています。暮らしや福祉の課題を誰にも相談することができず、周りとの関係が疎遠になり、解消の糸口が見えず思い悩んで、日常生活の乱れや意欲をなくしてしまいます。

地域社会からの孤立は、要配慮者だけの問題ではありません。病気やけが、家族との関係、災害などの不測の事態、経済的な要因などで誰もが直面する課題でもあります。家族や親類、親しい友人はもちろんのこと、近隣住民との関係を育むことは、信頼と安心を築き、思いやりや支えあいとなり、一人ひとりの心や暮らしの支えとなっています。

複雑多様化する暮らしの課題に耳を傾けて、暮らしに寄り添った活動を展開するとともに、小地域福祉活動やボランティア活動などを応援していきます。

---

### 基本計画1

#### 地域の「支えあい」の活動を進めよう

---

住み慣れた地域で子どもから高齢者までが、安心して生活が送れるのも、家族だけでなく周りの人たちの支えがあるからです。

少子高齢化や核家族化が進展し、地域の活動に参加、協力できず孤立する人の増加や住民同士のつながりが希薄化するといった、これからの地域活動を行っていくうえでの不安もありますが、近頃は住民同士の交流や関係づくりをはかる活動が進められるようになりました。

親睦や交流をはかり、困ったことなどを助けあう「支えあい」の活動だけでなく、声かけや訪問による顔の見える『支え会い』の活動を推進します。

## 基本計画1-① ご近助活動の推進

自分達が暮らす住民や地域で支えあう活動を「ご近助活動」としました。市内では、区・自治会の役員をはじめ社協地域役員や民生委員・児童委員の方々の手で、サロン活動や声かけ活動など「ご近助活動」に取り組んでいる地域がたくさんあります。引き続き応援していくとともに、「ご近助活動」に携わる人を増やし、今後の活動が心配される地域や団体もあるため、研修や懇談などを通じて「ご近助活動」の取り組みを進めていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
見守り活動など福祉活動の支援	随時				
区・自治会(分会)と「ご近助活動」などを推進するための懇談会の開催	検討	実施			
地域福祉活動に関する研修会の開催	充実				



### ポイント

\* 社協地域役員や区・自治会関係などの推進役を対象に、福祉活動のやりがいや必要性などを周知するだけでなく、地域で活躍する担い手を確保するための取り組みを分会などと連携して進めていきます。



## 基本計画1-② 区、自治会との対話と連携

地域福祉を進めていくうえで、区・自治会との連携は必要不可欠です。安定かつ継続的に福祉活動を進めていくうえでの様々な課題について、区・自治会と課題を共有し、懇談会や意見交換会などを通じてコミュニケーション（意思疎通）をはかっていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
社協や地域福祉活動への理解をはかるための働きかけ	随時				
小地域福祉活動の推進と自治会の連携についての懇談会の開催	検討	実施			
分会未設置地域への福祉活動の展開	検討	実施			



### ポイント

\* 社協地域役員や民生委員・児童委員による福祉活動について把握できていない関係者の方もおられるので、懇談会の開催などを通じて福祉や本会の活動周知や意見交換をはかり、支援や連携がはかれるように進めます。また新しくできた自治会との関係ができていないため、協力関係の構築に向けて働きかけていきます。



## 基本計画2

### ほっとできる居場所（たまりば）づくりを進めよう

いろいろな人との出会いや交流が生きがいや励まし、学びとなり、心の支えや生きる元気につながります。身近な場所で同世代や共感できる人同士、同じ悩みを分かちあいたい人同士、世代を超えて交流をはかりたい人同士が気軽に集まり、心や暮らしの支えとなる居場所づくりを進めます。

#### 基本計画2-① 住み慣れた地域の居場所づくり

地域で進められる高齢者や子育て世代等を対象にした「ふれあいサロン」とともにおたっしゅ応援事業を通じた介護予防など、地域住民を対象に孤立の防止や関係づくりの活性化をはかる地域活動を支援します。



具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
サロン活動普及のための研修会	実施				
ふれあいサロン活動の支援	随時				
おたっしゃ応援事業の推進	継続		充実		



### ポイント

\* 住み慣れた地域でのふれあいサロンなどの取り組みの中に体操やゲームなどを取り入れることは、交流や親睦、地域参加や介護予防などの活性化をはかるだけではありません。一緒に楽しみながら話を聞いて、思いや悩みを打ち明けあったり、生き方の勉強をしたり、参加者もスタッフも心と体をリフレッシュする取り組みです。

## 基本計画2-② 誰もが気軽に集まりほっとできる居場所づくり

今ある交流の場に新しい取り組みを取り入れるなど活動の充実をはかります。また、関係団体と協力し当事者同士が気軽に集い、仲間づくりができる居場所づくりを進めていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
ひとり暮らし高齢者の居場所づくり	継続	調整		充実	
子育て世代の親子の居場所づくり 「いつでもだれでも」	継続		充実		
ひとり親家庭の親子の居場所づくり	継続	調整	充実		



### ポイント

\* 高齢者が気軽に集える居場所づくりと子どもの遊び場の提供だけでなく、親同士のコミュニティづくりの場となるようなイベントを企画していきます。

## 基本計画2-③ 福祉施設と協働した居場所づくり

施設の入所者と一緒にサークル活動等に参加し交流することで、互いに励まし合い理解と親睦を深め、孤立感の解消や仲間づくりを進めます。また、地域住民による施設への理解を得る機会と、地域と施設の関係づくりを推進します。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
ひだまりの会の開催(洛南寮)	継続			充実	
コスモス喫茶活動への参加支援(九十九園)	継続			充実	
福祉施設を拠点としたコミュニティの場づくり	企画		実施		



### ポイント

- \* 福祉施設は、利用者への生活支援を行うところですが、施設の設備や専門性、高い技術や知識のある職員の方が多数在籍するなど、地域にとって施設は貴重な財源です。施設の特性や機能を市民の暮らしや地域の活動につなげていきます。居場所づくり以外にも世代間交流や当事者同士の親睦、交流をはかる取り組みなどを福祉施設と一緒に進めていきます。

## 基本計画3

### ボランティアの魅力を発信！

### 仲間づくりと組織づくりを進めよう

日常生活を送るうえで支援が必要な方々に対するボランティアや、地域の中で誰もが暮らしやすいように活動しているボランティアなど、たくさんの方が活躍されています。その活動者の思いや活動を広く発信することで、ボランティア活動に興味、関心がある人や思いをともにする人とつながり、さらに大きな福祉の輪として地域づくりにつなげていきます。また、これからを担う子どもから、豊かな知識と経験、行動力のある高齢者がボランティア活動に触れ、参加する機会をつくるとともに、すでに活躍中のボランティアやボランティアグループの活動支援を行っていきます。

## 基本計画3-① ボランティア活動への参加促進

ボランティアの啓発活動や講座、体験型ワークショップなどを開催し、その楽しさや魅力を伝え、活動に参加するきっかけの場をつくります。

また、社会貢献としてのボランティアの意識だけでなく、自分自身の健康や生きがいづくり活動として、参加しやすく継続できる仕組みづくりを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
ボランティア活動の広報と啓発	充実				
大学と連携したボランティア事業の実施	実施				
男性を対象とした ボランティア事業の実施	検討	実施			
ボランティア活動の場の充実	充実				

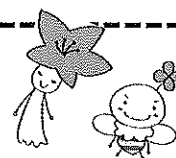


### ポイント

- \* 大学のボランティアセンターや学生ボランティアサークルと連携をはかり、若い世代に興味・関心を持ってもらえる具体的なボランティアプログラムづくりを進めます。
- \* 男性が気軽に集まり、仲間を増やしながらボランティア活動を始めることができる仕掛けを検討し実施します。

本会で活動するボランティアの方々からは「学生や若い世代、男性のボランティア活動への参加」を期待する声が寄せられています。


若い人たちの発想や行動力、男性の社会での豊富な経験とまとめる力をこれからのボランティア活動の発展につなげていく取り組みを進めていきます。



基本目標3-② 市民やボランティアが  
気軽に集えるセンターづくり

ボランティア活動の拠点であるボランティアセンターにおいて、たくさんの市民やボランティアが集まり交流できるよう情報発信機能を高め、場づくりを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
「社会福祉センター ふれあいまつり」の開催	充実				
コミュニティカフェスペースの活用	検討		実施		

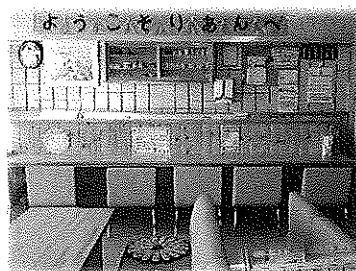
 **ポイント**

- \* 社会福祉センターにおいて、交流事業を実施したり、ボランティア情報を発信したりしていくことは、ボランティアセンターの役割をたくさんの市民に周知することにもつながります。人や情報が集まり、つながりが生まれるよう拠点としての効果的な取り組みを実施します。
- \* 市民が気軽に集うことができる環境づくりが、様々な市民活動の情報の発信、共有につながると考えます。

社会福祉センター  
ふれあいまつりの写真



地域交流スペース「コミュニティ」「りあん」



### 基本計画3-③ ボランティアグループの組織強化

多様なニーズに応え活動を展開しているボランティアグループが継続してさらに発展的に取り組んでいけるよう活性化に向けた取り組みを進めます。

また、ボランティア連絡協議会と連携し、ボランティアグループ同士のつながりづくりを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
ボランティアグループの支援	充実				
	➔				
ボランティア連絡協議会との連携	充実				
	➔				

### 基本計画3-④ 将来を担う子どもたちと ともに地域で育てる福祉の心

学校単位で進めてきた福祉教育について、地域もともに学び、考えることができるよう取り組みを進め、「みんなの福祉の心」を育てます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
体験型福祉事業の充実	充実				
	➔				
学校における福祉学習の取り組み支援	充実				
	➔				
福祉の心を育てる研修会の開催	充実				
	➔				



#### ポイント

- \* 地域の課題を把握し、様々な地域資源と協働した福祉教育の実践を進める必要があります。また、子どもだけでなく地域住民も巻き込んだ取り組みを進めます。

## 基本計画4

### 心と社会参加のためのバリアフリーを進めよう

要配慮者への正しい認識とサポートができるように、啓発活動に取り組むほか、福祉施設や事業所、関係機関等と連携して、地域や市民向けの取り組みを推進し、心のバリアフリーを醸成していきます。

要配慮者が社会参加及び日常生活や移動、施設・設備などの利用に不自由なく、必要なサポートが普通のもので認識されることを目指して取り組みを進めます。

#### 基本計画4-① 心のバリアフリーの推進

社会参加の機会が少ない要配慮者が、無理なく施設や地域の行事、活動に参加できるような場の設定や、必要なサポートを施し、当事者などの関係団体や機関と意見交換をはかりながら、啓発行事や催し等の取り組みを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
障がい者の社会参加や啓発に関する事業の実施	充実				
子育て支援に関する事業の実施	継続				
福祉に関する市民向け講座の開催	検討	実施	継続		




#### ポイント

- \* 当事者自身による啓発が地域への大きな投げかけになり、社会参加につながると考えます。当事者の社会的課題を市民全体で考える取り組みを進めます。

基本計画4-② **施設や設備、移動など**  
**社会参加のための環境整備**

施設や設備、また移動に支障があると外出や地域との交流など億劫になりがちです。ちょっとした配慮や周りの人たちのサポート、心がけなどがあると要配慮者の意識や意欲は高まります。そのために、要配慮者の視点で市内の移動や施設等の使用の不自由さなどを把握して、関係者へ周知や情報提供などを行い、移動や利用しやすい環境づくりに取り組めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
施設、道路の点検活動の実施	充実				




**ポイント**

\* 障がいがある方にとって、暮らしやすい環境づくりが社会参加につながります。市内のバリアフリー化を進めるため、当事者と協働した取り組みを展開します。

**基本計画5**

**要援助者や介護者の支援を進め、安心につなげよう**

高齢や障がいなどにより、日常生活において介助や介護が必要な人(以下「要援助者」という。)がいます。また要援助者に寄り添い、暮らしを支えている人がいます。要援助者、介護者が安心して暮らせるような取り組みを進めていきます。

介護者がひとりで悩んだり、孤立することがないように、思いを打ち明け、相談できる場をつくります。また、必要な助言を行い、不安が少しでも軽減できるようにサポートします。

「介護」の問題は当事者だけでなく、地域社会全体で課題を共有し支えあっていかなければなりません。研修会やイベントなどを通して正しい知識と対応についての啓発などを進めていきます。

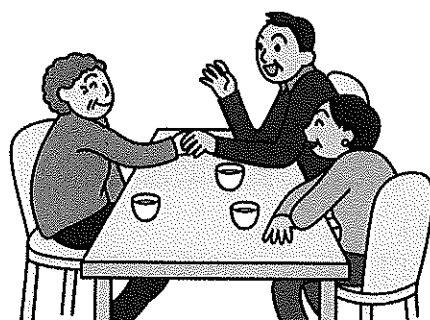
## 基本計画5-① 要援助者や介護者等に寄り添った支援

区・自治会と連携をはかり、介護技術講習や介護相談を行う場を作ります。社会福祉センターだけではなく住民センターや公民館などにも出向き、気軽に介護の相談ができる場をつくります。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
介護相談の実施	継続	検討	実施		
介護者への情報の発信と収集	継続				
サービスを利用する当事者や 家族介護者の情報交換、場づくり	検討	実施			
孤立を予防するための 声かけや見守り活動	検討	実施			

### ポイント

- \* 介護者らが気軽に相談ができる場を地域の中に設けるよう検討・提案していきます。またその機会をより活用していただくために周知についても工夫します。
- \* 要援助者や介護者が必要とする情報を的確に効率よく提供できるように、常に耳を傾ける姿勢で、その時々が必要とされる情報発信に努めます。
- \* 介護者交流会の場づくりの検討および介護者支援ボランティア等と連携した声かけや見守り活動について検討し、実施に向けた取り組みにつなげていきます。





## 基本計画5-② 認知症の理解と普及

認知症を受け入れられず戸惑い、怒り、混乱する日々は、介護者自身を心身ともに疲弊させます。日常的な見守りや支援の輪が広げられるよう認知症サポーター養成講座を小地域単位で開催します。

また、すでに受講されたサポーターに対しても繰り返し受講してもらうことで、新しい知識を習得し理解が深められるようフォローアップの機会をはかります。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
認知症サポーター養成講座の開催	継続				
認知症サポーター フォローアップ研修と活動支援	検討		実施		



### ポイント

- \* 地域住民や介護者向けに住民センターや公民館等、より身近な場所で養成講座を開催します。
- \* 福祉や介護に関心が高い受講者には、スキルアップの機会や活動の場(ボランティア)の紹介等を働きかけていきます。



## 基本計画5-③ 利用者やその家族に寄り添ったサービスの提供

「寄り添うこと」とは、その人が不安に感じていること、悩んでいること、解決したいと思っていることなど、言葉や態度にできないことも理解し受けとめるということです。その人らしい生活を支援するために、個別のニーズをしっかりと把握し、利用者本位の生活支援に努めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
移動支援事業の実施	継続				
買い物支援事業の実施	継続				

## 基本計画6

### 地域と連携して災害ボランティアセンターの 体制強化をとともに進めよう

大きな被害をもたらす自然災害は突然起こり、その被害の復旧や復興には長い年月や時間がかかります。

防災や減災対策が進められていますが、被災後の地域や被災者の生活の復旧、復興には多くのボランティアの協力が必要不可欠です。災害ボランティアセンターが適切に機能し、不測の事態においても円滑に活動できるように関係機関と意見・情報交換を行いながら体制強化を進めます。

#### 基本計画6-① 災害ボランティアセンターの周知と担い手づくり

大規模災害時に被災者一人ひとりに寄り添った支援活動を効果的に展開できるよう、災害ボランティアセンターの活動についてのPRを進め、必要な担い手の確保と育成をはかります。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
災害ボランティア事前登録者の確保	充実				
スキルアップのための研修会の開催	充実				



#### ポイント

\*災害ボランティアセンターは、社会福祉協議会の職員だけで運営できるものではなく、関係機関やたくさんの市民の力が必要になってきます。ひとりでも多くの人にその役割を知ってもらい関わってもらえるよう、様々な機会を通して啓発を行っていきます



## 基本計画6—② 地域や関係機関と顔の見える関係づくり

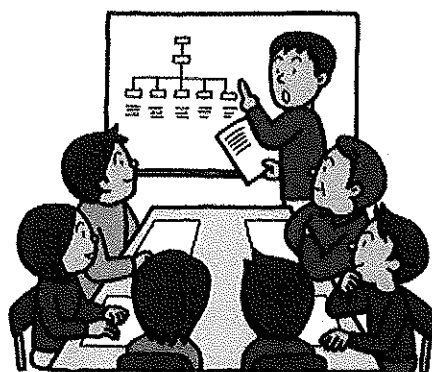
災害ボランティアセンター運営委員会において、関係機関との意見・情報交換を行いながら体制強化に向けた取り組みを進めていきます。

また、平常時から防災・減災意識を高める取り組みを地域と連携して進めていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
災害ボランティアセンター 運営委員会の開催	充実				
災害ボランティア出前講座の開催	充実				

### ポイント

- \* 「災害ボランティア出前講座」では、災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターの役割だけでなく、ボランティアを受け入れる地域の備えについても考える機会を持っています。被災者と支援者が双方向にうまくつながれるよう、地域単位で顔を合わせて考える機会のきっかけをつくっていきます。



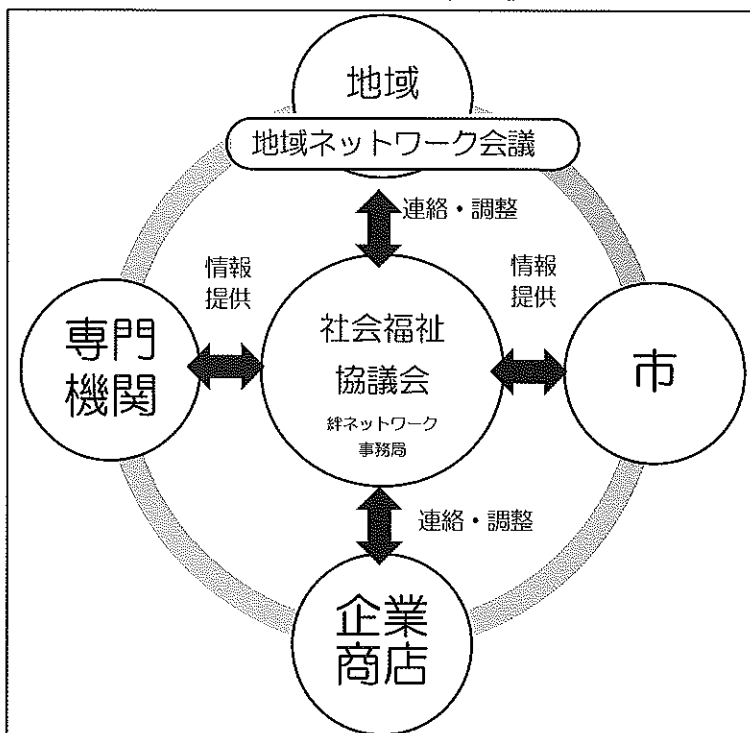
## 基本目標2 地域で安心して暮らせる ネットワークづくり

安心していきいきと暮らすためには、家族の支えだけでなく、ちょっとした困りごとなどは、身近な住民同士で助けあう日常生活の支援が必要です。また、周りには、民生委員・児童委員、区・自治会、老人会等支えとなる人や組織があります。地元の商店や病院、金融機関など生活に関わる企業や福祉に関わる事業所、行政、警察、消防などの公的機関などが連携し、包括的に命や暮らしの課題の解消を図るネットワークづくりを進めます。

### 基本計画1 地域全体で支えあう絆ネットワーク活動を展開します

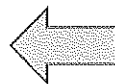
地域の中で温かく見守りあい、顔の見える関係づくりを進めていきます。暮らしの中の困りごとや地域課題を話し合い、一緒に考えて“地域の福祉力”で解決、解消するための仕組みづくりを進めます。

【絆ネットワーク概要】

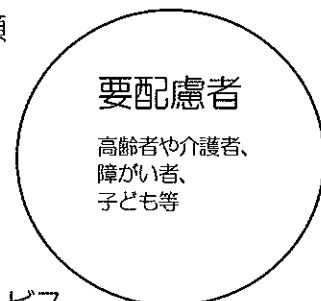


要配慮者からの相談をはじめ、地域活動や福祉サービスから寄せられた情報をもとに、地域、専門機関、市、企業・商店と連携して包括的に支援する仕組みづくりを進めます。

相談・依頼



情報提供  
活動・サービス  
提供など



## 基本計画1-① 地域福祉活動団体や関係機関との ネットワークづくり

要配慮者や家族が抱える暮らしや地域生活の不安、福祉課題に取り組むために区・自治会や民生児童委員協議会などの福祉団体、福祉施設や専門機関、企業や地元の商店など全体で支えあう絆ネットワークを推進し、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
地域活動団体や関係機関等を対象にした研修会・懇談会の開催	充実				
企業・商店への啓発と地域との連携づくり	充実				

## 基本計画1-② 力あわせて見守る体制づくり

地域で活動する団体が話し合い、暮らしや生活の不安や悩み、福祉課題を共有することで見守りの体制づくりや要配慮者へのサポートをする仕組みづくりなど、不安、悩み、課題の解決に向けた取り組みを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
共有・相談・解決に向けた体制づくり (地域ネットワーク会議)	充実				
モデル地域での 地域ネットワーク会議の展開	充実				




### ポイント

- \* 地域ネットワーク会議とは…  
地域の中で、定期的に支援者や関係機関等が集まって、地域の情報やそれぞれの視点で捉えた課題等について共有し、連携して地域課題の解消をはかる場です。

## 基本計画1-③ 福祉や暮らしの課題を専門機関等と連携して解決する仕組みづくり

地域だけでは解決や判断が難しい事例を、地域包括支援センターや各分野の専門機関と連携して解決する仕組みづくりを進めます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
専門機関等との連携体制の構築	充実				




## 基本計画2

### 当事者組織の「つながる・支えあう」活動を応援します

当事者組織では、高齢者や障がいのある方、ひとり親世帯など自分達が直面している社会的な課題について、当事者間で共有して、支えあう活動に取り組んでいます。こうした活動を通じて、地域社会に向けて発信し、当事者の現状に目をむけ、市民一人ひとりが自身のこととして受け止め、地域や人とのつながり、『支え合い』を進めていきます。

#### 基本計画2-① 当事者の組織支援

活動支援を通じて、当事者の福祉課題を把握し住民や地域、その他ネットワークの連携をはかり、担う役割を分担、整理し、啓発によりその効果的な仕組みづくりを検討します。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
当事者団体 (高齢者、障がい者、ひとり親) への支援	継続				
その他の当事者による 福祉を目的とした団体への支援	継続				





### ポイント

- \* ひとり暮らしの高齢者の会(むつみ)への加入促進に向けた働きかけや、会員の高齢化による組織体制の見直し等を進めながら、地域とのネットワークについて働きかけていきます。
- \* 当事者によって地域での課題は異なり、それぞれに合わせた支援をはかる地域ネットワークの構築が不可欠です。

## **基本目標③ 市民とともに福祉を進める社協づくり**

社会福祉協議会は、市民の皆様を支えられています。社協会員として納められた会費や共同募金は、本会の福祉活動の貴重な自主財源となり、地域の役員の方等は、地域福祉活動やボランティアなど福祉を支える担い手として要配慮者や市民の暮らしをサポートしています。現在迎つつある人口減少社会には生活を支える仕組みが必要です。暮らしやすい地域づくりのため本会の活動をしっかりとアピールし、市民の方に共感と支援を得られるようにしていきます。

本会の職員が担っている各々の立場で、市民や地域が直面している課題や、取り組んでいる内容について共有する中で、適切な対応や事業を検討し、市民の不安や暮らしの課題に向き合います。

### **基本計画 1**

#### **身近な社協、市民の信頼にこたえられる社協を目指します**

市民や地域に本会の運営や活動は支えられています。しかしながら、本会の活動などを知っている人が少ないのが現状です。

市民や地域にとって、身近な存在として信頼にこたえられる社協となるよう、わかりやすい広報に努めて啓発するとともに、本会と市民、地域が連携して福祉活動を推進する体制などについて検討します。

#### **基本計画 1-① わかりやすい広報活動の展開**

本会の活動や運営は、市民の理解と地域の協力を支えられています。住民が地域福祉活動の担い手となり、活動の裾野を広げていけるよう、社協の活動を市民の方に知ってもらうことが大切です。イベントや地域交流スペースの活用、また社協を紹介するリーフレットなどもリニューアルして、SNSを使った情報発信についても検討し、幅広い世代にわかりやすく伝えていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
社協や地域、市民の活動の紹介 (リーフレットの作成)	実施				
ホームページによる効果的な情報提供	充実				
SNS の活用	検討		実施		
地域交流スペースの活用の拡大	実施		充実		

### 基本計画1-② 共同募金運動の啓発の強化

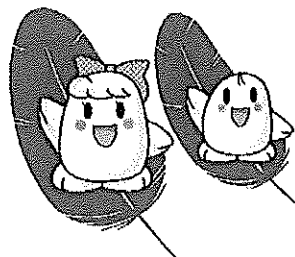
社協活動の理解と協力を得られるように、常に現場に出向きながら、会員制度や共同募金運動の趣旨と活用内容について明確、丁寧に発信していきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
共同募金運動のチラシの作成と配付	検討	実施			
共同募金の使途アンケート調査	検討	実施			
共同募金 PR グッズの作成	検討	実施			



#### ポイント

- \* 募金の減少の理由には、“集めたお金が何に使われているかがわかりにくいこと”があげられます。  
市民や地域が望む使途や目的は何であることを調査し、明確化するように取り組みます。





基本計画1-③ **小地域福祉活動を  
推進するための体制の検討**

区・自治会の他地域組織と、円滑に、きめ細やかに連携や福祉活動の推進をはかるため、8つの支部と区・自治会単位で分会を設置してきました。長い年月が経ち、設置した当時と比べて区・自治会の規模や構成、体制なども変わってきています。また新しくできた自治会との関係や組織化ができていません。今後を見据えて、区・自治会組織との連携とともに地域組織のあり方について検討し、地域主体の更なる活動の推進をはかっていきたいと考えます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
地域組織のあり方検討会の開催	検討	協議		実施	

**基本計画2**

**課題や情報を共有し  
地域福祉やサービスの向上をはかります**

基本計画2-① **地域や暮らしの課題の共有**

自覚をもって地域福祉、在宅福祉に従事する各分野の職員が情報を共有し、円滑な対応を進めることで、安心・安全な暮らしの向上に取り組みます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
情報共有の場づくり	実施				
専門性、資質向上を 図るための研修会の開催	検討		実施		



## 基本計画2-② 地域福祉活動計画を推進します

第3次活動計画を円滑に、また関係者と連携して進めていくために、専門委員会を設置して進捗状況の確認、成果や課題などを話し合い、必要に応じて地域や関係機関、団体などへ報告します。

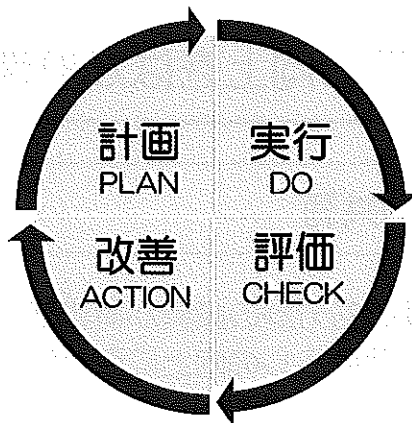
また、第3期計画の進捗状況を意識して、市との意見交換をはかっていきます。

具体的事業	H30	H31	H32	H33	H34
地域福祉活動計画 推進委員会の設置と運営	実施		評価		
進捗状況に関する 市との意見交換の実施	実施				



### ポイント

#### 地域福祉活動計画の進め方



PDCA サイクルとは事業を円滑に進めるための手法です。  
この方法を用いて、第3次活動計画の進行管理を円滑に効果的に進めていきます。

計画 (PLAN) = これからすることを考える

(「何を」「いつまでに」「どうやって」)

実行 (DO) = 計画したことを意識して実行し、記録に残す

(成果やかかった時間等をわかりやすく数字で)

評価 (CHECK) = 進め方や結果が良かったか悪かったか分析する

改善 (ACTION) = 計画に基づいて必要性や効果に合わせて見直し、  
目標や理念、計画の実現を進める



# 資料編

- 1 第3次地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
- 2 第3次地域福祉活動計画の策定経過について
- 3 第3次地域福祉活動計画策定委員会委員名簿他
- 4 ボランティアに関するアンケート調査集計結果
- 5 用語集

社会福祉法人京田辺市社会福祉協議会  
第3次京田辺市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 第3次京田辺市地域福祉活動計画（以下、「活動計画」をいう。）について、幅広く意見を求め、これを円滑に推進するために、第3次京田辺市地域福祉活動計画策定委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、活動計画の策定及び実施に関して必要な事項を調査、研究し、会長に具申する。

(組織)

第3条 委員会は、20名以内で構成する。

(委員)

第4条 委員の構成は次のとおりとする。

- (1) 第2次京田辺市地域福祉活動計画推進委員
- (2) 本会地域役員
- (3) 社会福祉関係団体
- (4) 福祉施設、事業者関係、団体
- (5) 社会福祉関係住民団体
- (6) 学識経験者
- (7) 社会福祉行政機関
- (8) その他、会長が適当と認める個人及び団体

2 委員は、会長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出し、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき又は委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は、1年以内とする。

2 委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役職によって委嘱された委員については、前項の規定に関わらず、その職を辞して解くものとする。

(会 議)

第7条 会議は委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員長は、必要があるときは、委員以外のものの出席を求め、意見を聴くことができる。

(作業部会)

第8条 活動計画の円滑な作業を進めるために、作業部会を設置する。

(事務局)

第9条 委員会の事務は、本会ふれあい福祉課において処理をする。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

付 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成29年6月14日から施行する。

## 第3次地域福祉活動計画の策定経過について

日 程	主 な 内 容
第1回策定委員会 平成29年7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 策定委員会の設置</li> <li>○ 第3次京田辺市地域福祉活動計画策定の趣旨説明</li> <li>○ 策定作業の進め方</li> </ul>
第1回作業部会 平成29年8月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作業部会の役割と運営についての説明、合意</li> <li>○ 第3次地域福祉活動計画の策定の進め方について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年一年間の進め方について</li> <li>・ ボランティアアンケート調査の進め方について</li> <li>・ 分会、福祉施設との意見交換の実施について</li> </ul> </li> </ul>
第2回作業部会 平成29年9月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの取り組み状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアアンケート調査の経過について</li> <li>・ 分会、福祉施設との意見交換の実施について</li> </ul> </li> <li>○ 基本計画と活動計画のまとめ方について</li> </ul>
登録ボランティア アンケート調査の実施 平成29年 9月1日～9月22日	<p>本会ボランティアセンター登録者 995名 有効回答者数 490名</p> <p>アンケート内容と結果は 62～82ページに掲載しています</p>
第3回作業部会 平成29年10月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本理念と基本目標の検討について</li> </ul>
第4回作業部会 平成29年10月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本理念と基本目標の検討について</li> </ul>
第2回策定委員会 平成29年10月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3次京田辺市地域福祉活動計画の策定に向けた取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業部会におけるこれまでの取り組みについて(報告)</li> <li>・ 第2次京田辺市地域福祉活動計画のまとめについて</li> </ul> </li> <li>○ 3次京田辺市地域福祉活動計画の策定について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本理念と計画の体系について</li> </ul> </li> </ul>
第5回作業部会 平成29年11月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本理念について</li> <li>○ 第2次京田辺市地域福祉活動計画のまとめについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2次京田辺市地域福祉活動計画の総括</li> <li>・ ボランティアアンケート集計結果のまとめについて</li> </ul> </li> </ul>
第6回作業部会 平成29年11月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本目標と基本計画について</li> <li>○ ボランティアアンケート調査のまとめについて</li> </ul>

日 程	主 な 内 容
第 7 回作業部会 平成 29 年 11 月 30 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 2 次地域福祉活動計画のまとめについて</li> <li>○ ボランティアアンケート調査について</li> <li>○ 基本目標と基本計画について</li> <li>○ 第 3 次地域福祉活動計画の構成について</li> </ul>
第 8 回作業部会 平成 29 年 12 月 13 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 2 次地域福祉活動計画のまとめについて</li> <li>○ ボランティアアンケート調査について</li> <li>○ 基本目標と基本計画について</li> </ul>
第 3 回策定委員会 平成 29 年 12 月 19 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 2 次地域福祉活動計画のまとめについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアに関するアンケートのまとめ</li> <li>・ 第 2 次京田辺市地域福祉活動計画の総括 (案) について</li> </ul> </li> <li>○ 第 3 次地域福祉活動計画の基本目標及び基本計画 (原案) について</li> </ul>
第 9 回作業部会 平成 29 年 12 月 27 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 3 回策定委員会の報告</li> <li>○ 今後の進め方について</li> <li>○ 基本計画の構成について</li> </ul>
第 10 回作業部会 平成 30 年 1 月 12 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本計画 (案) について</li> </ul>
第 11 回作業部会 平成 30 年 1 月 18 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本計画 (案) について</li> </ul>
第 12 回作業部会 平成 30 年 1 月 29 日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本計画 (案) について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本計画 (案) と進行表の表記などについて</li> </ul> </li> <li>○ 「第 2 次地域福祉活動計画を振り返って」について</li> <li>○ 表紙のデザインについて</li> </ul>
第 13 回作業部会 平成 30 年 2 月 6 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 2 次地域福祉活動計画の打ちあわせにおける指摘事項について</li> <li>○ 基本計画 (案) について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 項目ごとの「ポイント」文書について</li> </ul> </li> <li>○ 概要版の作成について</li> </ul>
第 4 回策定委員会 平成 30 年 2 月 20 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 3 次地域福祉活動計画の冊子の構成 (案) について</li> <li>○ 第 3 次地域福祉活動計画の基本目標及び基本計画 (案) について</li> </ul>
第 14 回作業部会 平成 30 年 3 月 6 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 4 回策定委員会での経過報告について</li> <li>○ 構成 (案) について</li> <li>○ 概要版 (案) について</li> </ul>

# 第3次京田辺市地域福祉活動計画策定委員会委員

(任期 平成29年7月11日～平成30年3月31日)

委員長 永田 祐

副委員長 服部 卯之輔

(敬称略・順不同)

氏名	選出区分
永田 祐	地域福祉活動計画推進委員 同志社大学社会学部准教授(学識経験者)
玉井 和子	地域福祉活動計画推進委員 京田辺市民生児童委員協議会(社会福祉関係団体)
水井 登志子	地域福祉活動計画推進委員 京田辺市民生児童委員協議会(社会福祉関係団体)
中瀬 晃子	地域福祉活動計画推進委員 ボランティア連絡協議会(社会福祉関係団体)
服部 卯之輔	地域福祉活動計画推進委員 ボランティア連絡協議会(社会福祉関係団体)
小田 壽樹	地域福祉活動計画推進委員 社会福祉法人幸生福祉会(福祉施設関係者)
水山 良子	地域福祉活動計画推進委員(学識経験者)
井上 正俊	地域福祉活動計画推進委員(学識経験者)
宮崎 豊志	健康ヶ丘分会長(社協役員)
安井 幸夫	薪分会長(社協役員)
喜多 英男	京田辺市老人クラブ連合会 (社会福祉関係団体)
寺西 章郎	市政協力員連絡協議会 (社会福祉関係団体)
香村 和雄	京田辺市身体障害者協会 (社会福祉関係団体)



氏名	選出区分
金谷 みつ子	京田辺さくら（社会福祉関係団体）
藤永 実	障害者就労支援事業所「さんさん山城」 （福祉施設、事業者、団体）
萩尾 育	京田辺市障害者生活支援センター「ふらっと」 （福祉施設、事業者、団体）
佐賀 智恵	認知症介護者の会「にじいろ」 （社会福祉関係住民団体）
木村 俊光	京田辺市健康福祉部社会福祉課 （社会福祉行政機関）
竹内 真奈美	京田辺市地域包括支援センター「あんあん」 （社会福祉行政機関）

○地域福祉活動計画策定委員会 アドバイザー

氏名	所属先
河合 良彦	同志社大学京田辺校地学生支援課 （平成29年10月末まで）
大澤うらら	同志社大学京田辺校地学生支援課 （平成29年11月より）
齊藤 由華	同志社大学京田辺校地学生支援課
渡邊 一真	京都府社会福祉協議会 ボランティア・地域福祉振興課

○作業部会メンバー

加藤 誠	（ふれあい福祉課）
藤林 美智子	（ // ）
木村 陽子	（ // ）
料治 佳子	（ // ）
中林 洋亮	（ // ）
笹山 典孝	（ // ）
竹井 雅嘉	（ // ）
木村 圭子	（在宅サービス課 ホームヘルプセンター）
山田 美香	（ // ケアプランセンター）

# ボランティアに関するアンケート調査集計結果

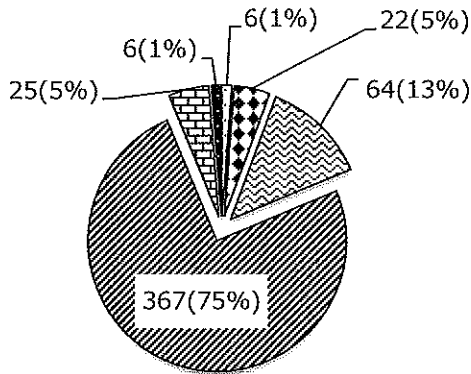
アンケート発送数 995名

有効回答者数 490名

回答者率 49.2%

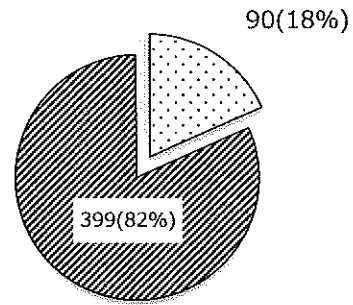
## 問1 年齢と性別、活動年数を教えてください

### 年齢



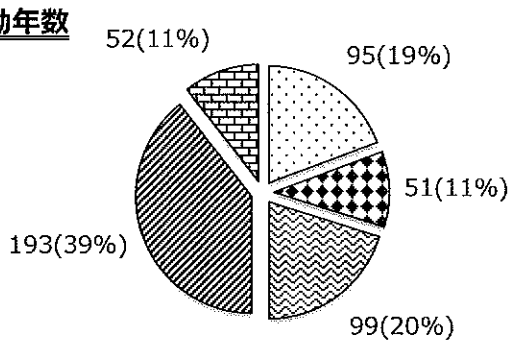
- 0歳以上20歳未満
- ▣ 20歳以上40歳
- ▤ 40歳以上60歳未満
- ▥ 60歳以上80歳未満
- ▦ 80歳以上
- 無回答

### 性別



- 男性
- ▣ 女性

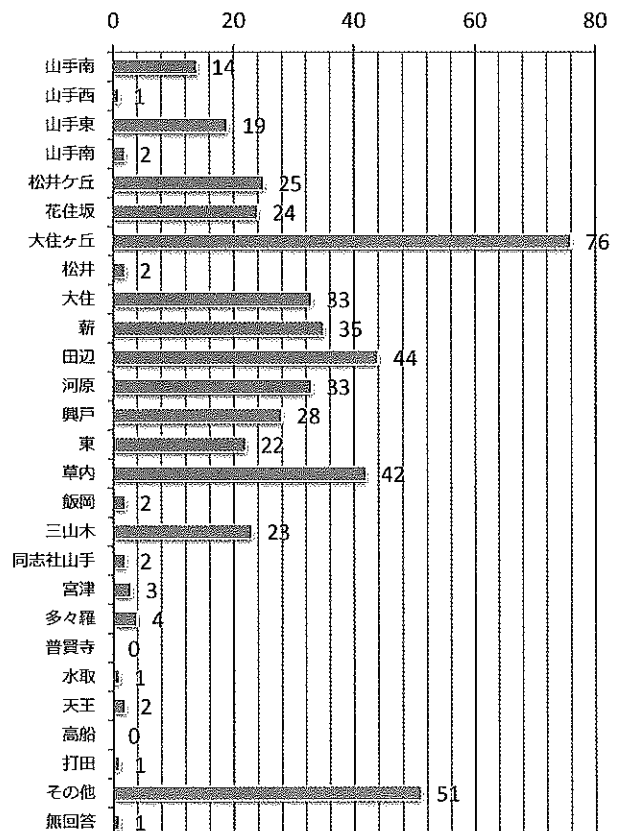
### 活動年数



- 0年以上3年未満
- ▣ 3年以上5年未満
- ▤ 5年以上10年未満
- ▥ 10年以上
- 無回答

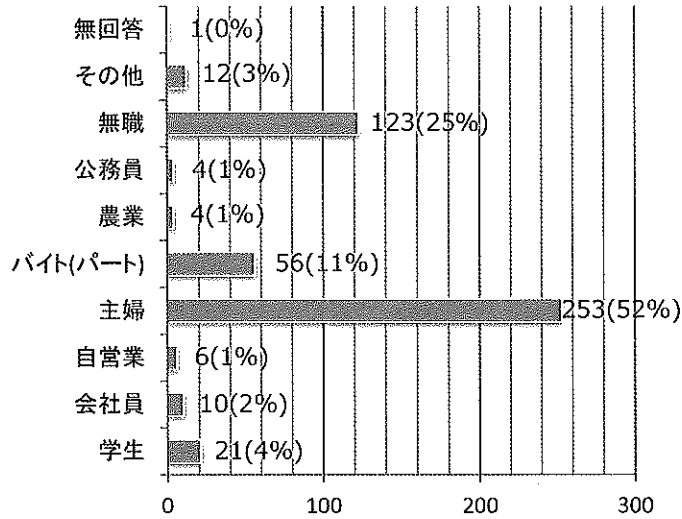
“5年以上”の活動者が半数を超えるなど、長期にわたって活動を担っていただいている方が多いという結果でした。“3年以上5年未満”が、“3年未満”より少なく、“3年以上5年未満”の活動年数で、続けるかどうかの分岐点になっています。

## 問2 お住まいの地域を教えてください



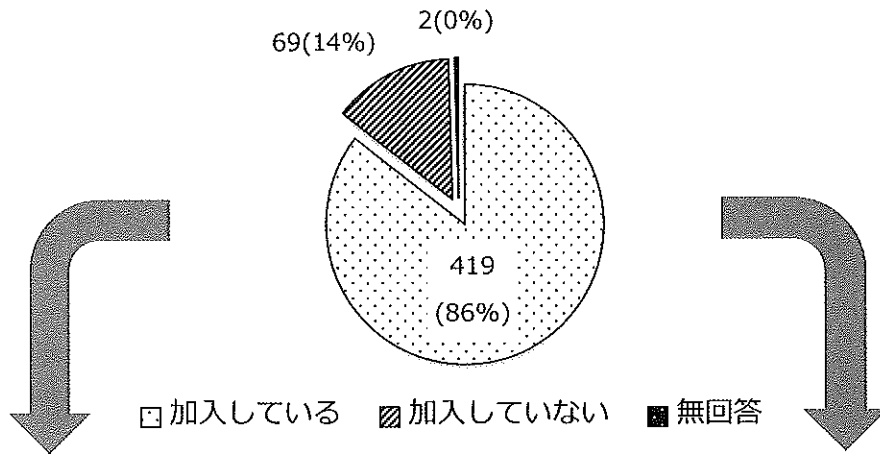
いわゆる北部地域（山手南から大住）と中部地域（新～飯岡）の在住者が4割を超えています。また、京田辺市外から活動に参加するボランティアも多数おられます。

**問3 職業等を教えてください**



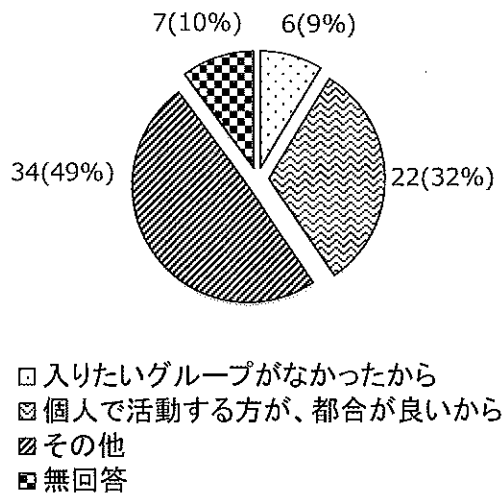
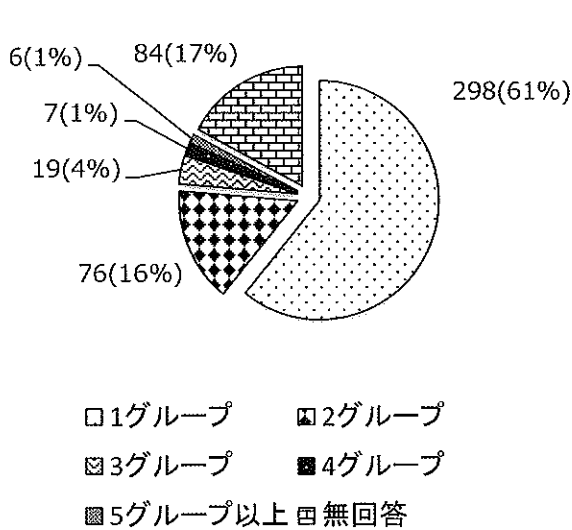
活動者の年齢やこの後のアンケート項目から、無職と答えた方は定年退職された方と考えられます。  
主婦と答えた方は、子育てが一段落した方が中心であると考えられます。

**問4 ボランティアグループに加入していますか**

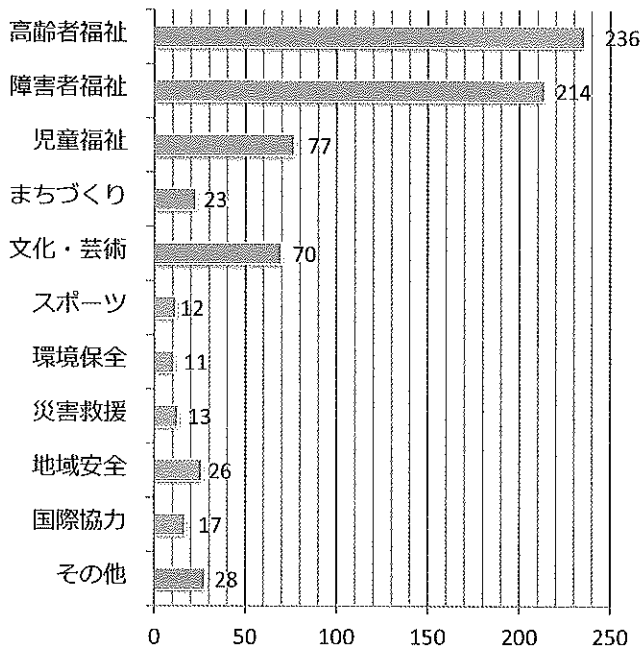


⇒問4で“加入している”と回答された方にお伺いします。  
現在、加入しているグループ数を教えてください。

⇒問4で“加入していない”と回答された方にお伺いします。  
その理由は何ですか



## 問5 活動しているボランティアはどのような分野ですか（複数回答可）



高齢者関係では本会がボランティアと連携して行っている配食や電話による友愛訪問活動、障害者関係では手話や点字などといったコミュニケーション支援活動が行われています。また、福祉施設の行事や余暇活動の支援、入所者とのコミュニケーション活動などにも多くのボランティアが関わっており、近年では自身の趣味や特技を生かしたボランティアも増えています。

これまでの、福祉的な活動だけでなく、社会貢献を目的とした活動に携わるボランティアが増え、多種多様な活動が展開されています。

## 問6 具体的に活動しているボランティアの内容を教えてください

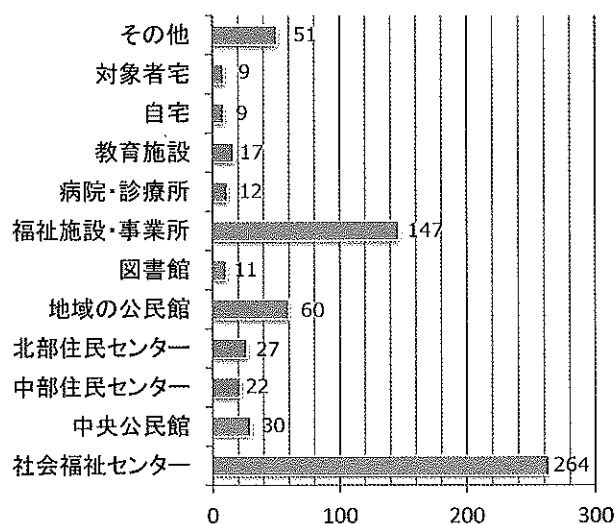
- ・手話×37
- ・認知症予防×4
- ・フォークダンス×7
- ・朗読×18
- ・太鼓演奏×2
- ・傾聴活動×7
- ・和太鼓演奏×4
- ・送迎×7
- ・踊り×4
- ・フラダンス×6
- ・小物づくり×3
- ・ピアノ演奏で歌を歌ったり、喫茶活動×2
- ・陶芸サポート×4
- ・音訳×2
- ・余暇活動×2
- ・今は何もしていない×2
- ・PC教室
- ・あじさいで弁当づくり、みどりの風でパンづくりの手伝い
- ・いこいの場
- ・イベント
- ・イベント、手芸クラブ、お花クラブ等の手伝い、喫茶など
- ・歌、おどり、ハンドベル
- ・歌、日舞、三味線、ハーモニカ等を使って楽しく
- ・点字×21
- ・配食×5
- ・要約筆記×8
- ・楽器演奏×8
- ・大正琴演奏×4
- ・おはなし会×4
- ・調理活動×19
- ・ハーモニカ演奏×6
- ・喫茶活動×8
- ・子どもの読書推進×3
- ・認知症予防体操（ゲーム）×2
- ・文庫活動×3
- ・拡大写本×3
- ・絵手紙×2
- ・テレフォンボランティア×4
- ・「サンサン山城」手話、施設修理
- ・UU
- ・あじさい、パン、踊り
- ・囲碁ボランティア
- ・イベント企画、実行
- ・歌
- ・歌、踊り、ハンドベル、体操、お茶等の接待
- ・歌・楽器演奏

- ・歌、太鼓、音楽療法
- ・歌の喫茶、小学校見守り
- ・運転、傾聴、子ども食堂
- ・絵本読みきかせ
- ・演芸等
- ・お世話
- ・お年寄りの相手が主でしたが現在はほとんどできていません
- ・お花、手芸、喫茶
- ・親子リズム運動、ヨガ、学習支援
- ・音楽ボランティア活動、高校留学をお手伝いする活動
- ・音楽を通してのふれあい、地域のお祭りなどの手伝いなど
- ・各施設の行事に参加
- ・語りと歌とパーカッション
- ・歌謡
- ・カラオケ、ボウリング、調理活動など
- ・気功サークル
- ・給食調理、テレフォンサービス
- ・行事のお手伝い、対話の交流
- ・傾聴、ショッピング、受診介助、イベント手伝いなど
- ・ゲーム、運転
- ・交流の場づくり（居場所）、学習会開催
- ・高齢者、障害者等の支援
- ・高齢者施設での喫茶活動・障害者施設との交流会
- ・高齢者のお話相手と食事づくり
- ・コーラス
- ・国際交流、子ども食堂、東区自主防、安全安心見守り隊
- ・子育て支援
- ・子ども食堂、中学校給食を考える、見守り(登下校)
- ・子ども文庫（本を媒体にした活動）
- ・小物づくり、パンづくり
- ・里山活動
- ・施設で製品作り等の補助
- ・施設の行事協力、クラブ活動。
- ・施設訪問、被虐待児エンパワメント
- ・児童に手芸
- ・週に1回、ろう者との交流や手話の学習
- ・手話、演芸など
- ・手話、傾聴
- ・手話、要約筆記
- ・手話や音楽活動で施設訪問
- ・障害者のお手伝い
- ・障害をもった方の余暇活動支援
- ・食事づくり、手話
- ・ショッピング、絵手紙
- ・ストーリーテリング、わらべうた
- ・精神障害者社会復帰及び自立支援
- ・歌と手遊び
- ・運営全般
- ・運転、配食、買い物、車いす介助、施設支援
- ・園芸、将棋
- ・演奏、リズム遊び、手遊び
- ・お年寄りの集いの運営
- ・踊り、高齢者の誕生会(食事会)
- ・お話、絵本の読み聞かせ
- ・音楽（楽器演奏）、登下校のパトロール
- ・音楽ボランティア、子供たちの遊びリーダー
- ・音訳（朗読）、踊り
- ・語り(物語)、楽器演奏
- ・カフェのお手伝い、文化祭など
- ・カラオケ
- ・体の不自由な人を病院等へ送迎（車にて）
- ・切手 他
- ・給食作り、パン作り
- ・車椅子押し
- ・ケアホーム草刈り手伝い
- ・健康体操
- ・交流や身体づくり、見学会等を通して
- ・高齢者施設でイベントや遊びのお手伝い
- ・高齢者との話合いやスポーツ、施設でのお手伝い
- ・高齢者のための余生の楽しみのお手伝い
- ・語学
- ・国際交流、市民ネット、はじめの一步
- ・子ども食堂
- ・子供食堂に旬の野菜を無償提供している
- ・子ども文庫活動、おはなし会
- ・在日外国人の日本語習得補助
- ・散髪ボランティア
- ・施設のイベント、配膳
- ・施設の手伝い
- ・施設や学校への慰問、子ども食堂等
- ・児童の登校時の交通安全
- ・手話、農作業
- ・手話、お弁当作り
- ・手話・さんさん山城
- ・手話サークルなど
- ・唱歌、寝たきり老人のあて布作り
- ・障害者の方と野外活動やクリスマス会など
- ・将棋相手
- ・食の安全を考える
- ・ストーリーテリング、絵本読み
- ・住みよい街になるよう意見を出し合い行動している
- ・送迎、災害支援

- ・対象者宅訪問、通院介助、施設・事業所の催し補助
- ・対面朗読、録音して月1回リスナーさんへ配付
- ・玉簾、更女、女性の船
- ・ダンス
- ・談話、歌を歌う
- ・知的障害者の方との交流、クリスマス会など
- ・調理、手作り品
- ・通院介助、車いす移乗介助、買い物支援等
- ・デイサービスのお手伝い
- ・手作りで作品を作りバザーで収入、障害者と交流
- ・点訳、点字体験学習（市内小中学校対象）
- ・登校の見守り、ラジオ体操、健康体操（いづれも高齢者）
- ・仲間の助け合い（送り迎え）
- ・日本語、文化などを日本語が母国語でない人に教える。
- ・日本語教室、要約筆記
- ・日本舞踊指導、訪問、中国の方との交流
- ・パソコン
- ・はばたき、更生活動
- ・パン作り 弁当作り
- ・福祉学習講師
- ・腹話術、手品
- ・古切手等の収集による障害者施設、海外児童教育への援助
- ・古切手、書き損じハガキでラオスの児童に奨学金支援
- ・ヘルパー、見守り
- ・補助
- ・盆踊り、民謡
- ・マジック、バルーン
- ・緑の風作業所外出V
- ・文字拡大、障害者の活動援助、減塩食普及
- ・物づくり
- ・やまびこ会（送迎、配食ボランティア）
- ・養老院まわり
- ・洛南寮での配食サービスの手伝い
- ・臨床美術
- ・老健施設の喫茶、買い物支援
- ・老人向けの録音テープの作成
- ・朗読、おはなし
- ・朗読、手遊び
- ・和太鼓、見守り
- ・演奏して歌ったり、手を動かしたりおりまげて1時間位楽しんでいただいています
- ・学校安全パトロール、ラジオ体操、高齢者、障害者の自立支援、青少年の健全育成
- ・観光、子ども食堂、学校安全ボランティア、地区の安全安心見守り隊、自主防災、自転車安全
- ・気功体操（高齢の方々も参加できる呼吸法を取り入れた体操）
- ・京田辺市⇒問5・1・2・3・4 城陽市⇒1・2 その他市内小中学校福祉体験授業
- ・高齢者福祉施設の庭園の除草作業、入所者を対象にしたコーヒー喫茶
- ・高齢者を対象とした認知症予防ゲーム（脳トレ）、子ども食堂
- ・体操、洋裁
- ・田植え、草取り、稲刈り体験
- ・誕生会(昼食・歌・喫茶)
- ・団地の施設で、週一回参加し、日本語を学んでいる
- ・地域ふれあいサロン
- ・昼食時の手伝い
- ・通院介助、デイサービス、買い物介助、
- ・手遊び、ゲーム、歌など
- ・手作り作品
- ・テレフォン、パン
- ・点訳、アンクルンの演奏
- ・電話、パソコン
- ・夏まつり、子供会、手品
- ・日本語教育、カラオケ、健康
- ・日本語指導
- ・布切り、喫茶、夏祭りでの見守り
- ・パソコンを使って活動
- ・パン作り
- ・パンづくり補助
- ・福祉施設の草刈りや建物の補修
- ・腹話術、マジック
- ・古切手の収集
- ・ふれあいボランティア
- ・弁当給食づくり、地域見守り
- ・ほわいとまっぷに所属
- ・マジック
- ・まちづくりに資する課題の学習及び各種活動
- ・緑の風作業所における援助活動
- ・木工、竹工
- ・やまびこ、子ども食堂
- ・要約筆記、パソコン教室
- ・ヨガ
- ・りあん
- ・ろうあ者支援
- ・老人体操教室、認知症にならないようには
- ・朗読、自然観察、保全
- ・朗読、太鼓他
- ・和太鼓、陶芸

- ・高齢の方や障害のある方の行事補助や買い物支援、リフトカーでの送迎
- ・子ども会、自治会(夏祭り・餅つき)、奈良マラソン(ボランティア)
- ・参加者さんと一緒に工作を行ったり、工場見学に行くなど普段の生活の息抜きになるようなことを計画し、実行しています
- ・児童館で編み物を教える、災害時の炊き出しを教える、お茶会など同志社大学の学生(外国の人)に日本の文化を教える、あじさい(弁当作り)
- ・障害児(者)が地域で豊かに暮らしていけることを目指し、余暇活動などをメインとして活動中
- ・障害のある子、ない子、親もおもちゃと遊びを通して、人とのふれあい、ありのままに生き、あるがままに認め合うこだわりのない遊びの空間(おもちゃの利用及び貸出)
- ・ショッピング介助、絵手紙、カラオケ、車いすの清掃、園芸福祉
- ・座つての軽い体操、季節の歌、手遊び、歌に合わせて踊り、ハンドベル等、利用者さんと遊ぶことが目的です
- ・地域の高齢者と洛南寮の入所者と一緒に、月1回自分達が企画したゲーム他、小物づくりなどを通しての交流、認知症ゲームを通して多くの人との予防の時間を過ごす
- ・地域のパトロール、啓発活動、防犯教室の手伝い、食事づくり
- ・デイサービスにいられている人たちに大正琴の演奏を聞いて一緒に歌ってもらったり、歌に合わせて体を動かしたり、楽器をならしたりして1時間楽しく過ごしてもらう。
- ・点字、京視協さんと出会い、学ぶことが多い、社会に目が向くようになった、PCクラブ
- ・陶芸、パン焼き補助、一人暮らし高齢者へのお弁当の配付時に添えるメッセージの写真を提供しています
- ・電話訪問、演芸、傾聴ボランティア、子ども食堂、認知症対象のゲーム
- ・独居老人(自分も含めて)との対話、ゲーム等(食事づくり)、防犯活動、見守り隊、老人会でも子供の世話
- ・ドリップ式コーヒーのサービス、エコ(ゴミ削減の目的のリユースの手伝い)
- ・認知症予防ゲームによる福祉施設、公民館等への訪問、大正琴の演奏、子育て応援の取り組み援助
- ・畑(洛和会)、軽スポーツ(洛南寮)、障がい者の日の日帰り、一泊旅行のお手伝い
- ・畑、絵手紙、カラオケ、ショッピング、軽スポーツ
- ・話し相手、弁当づくり、パンづくりの補助、喫茶おやつづくり
- ・パネルシアター、絵本読み、学童保育から依頼されたら行っています
- ・老人施設の喫茶、宝生苑での健康体操、老人施設での行事の手伝い、小学生登校見守り
- ・老人ホームや地域での認知症予防ゲームを一緒にやります。老人ホームでカラオケ、物づくり、体操などをやります

## 問7 活動している拠点(主な活動場所)はどこですか

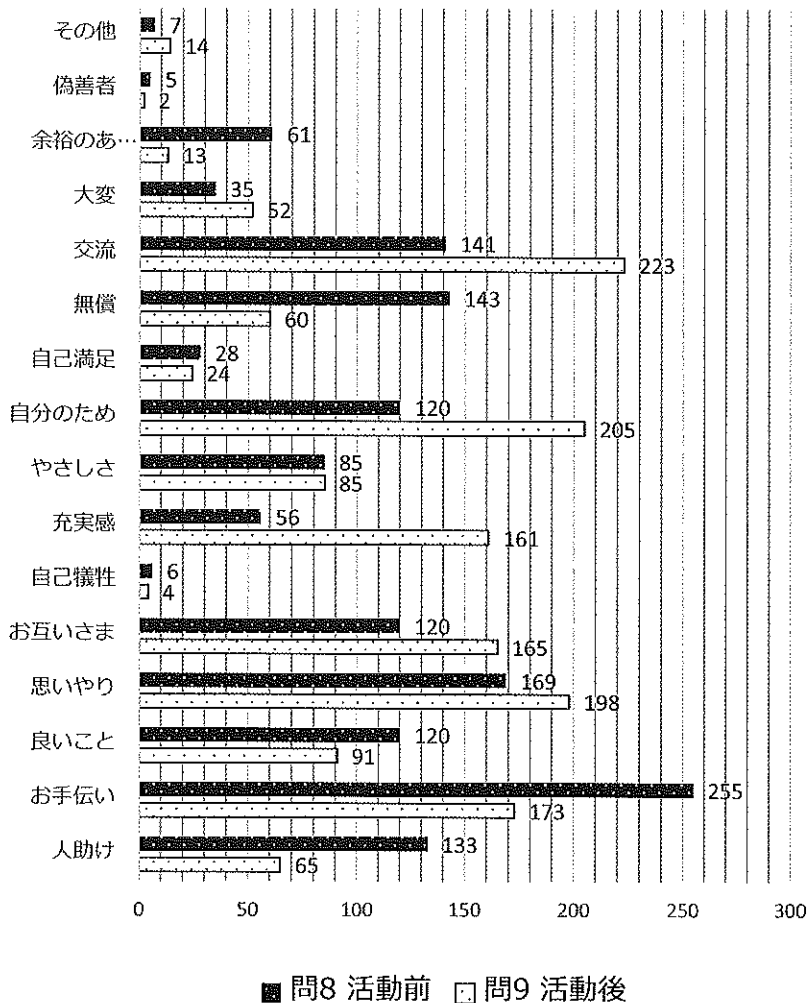


一番多かった社会福祉センターは、ボランティア活動の拠点になっています。福祉施設や事業所での活動も多く、その内容も幅広い活動が展開されています。活動先への足の確保が、ボランティア活動をするうえでの課題にもなっています。

問8 活動を始めるまで“ボランティア”にどのようなイメージを持っていましたか（複数回答可）

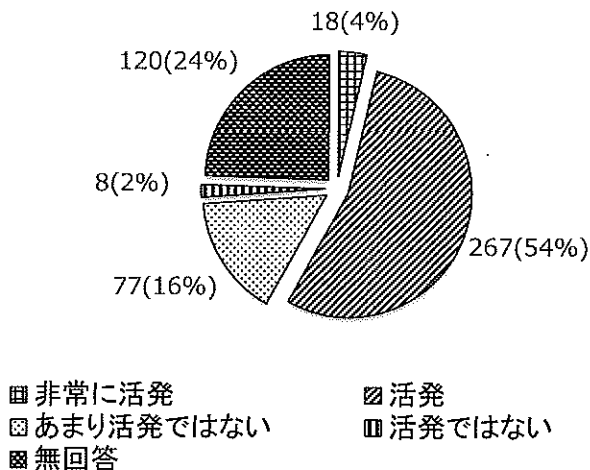
問9 活動を始めてから“ボランティア”にどのようなイメージを持ちましたか（複数回答可）

活動前と活動後の“ボランティア”に対するイメージ



ボランティア活動に関わる前は、「お手伝い」「思いやり」「無償」「交流」「人助け」といった回答が多いですが、実際に携わって「自分のため」や「充実感」といった、人や地域のためという社会貢献の意識から、自己研鑽の意識も加わっています。ボランティア活動を通して、たくさんの人と人との「交流」もそのような意識につながっているものと考えられます。

問10 京田辺市内におけるボランティア活動は活発だと思いますか



「活発」と答えた方が半数を超えており、自身が所属するグループをはじめ、ボランティアセンターに登録する団体数や身近な活動者の様子から活発だと感じておられる方が多数おられました。



〔その理由は〕

**非常に活発**

ボランティアの数や内容が充実している。×3  
活動されている方々の前向きな姿勢に頭が下がります。  
現在30年経過していると聞いた。古い方は40歳代より活動されているようで、活動に意気込みをもたれています。  
八幡市のボランティアに比べて数が多く活発でよい  
ボランティア活動しているところをよく見かけるから  
地域間の交流も活発  
周囲の方々をみて。(ボランティアの中にいるので)  
私の地元ではこのような活動が全く行われていなかったため  
私のような外国人にまで手助けが回っているから  
公民館等利用することが多いので  
活発に活動されていると思いますが、後継者不足かなと思います。  
活発だと思うが、もっと横のつながりが欲しい。  
複数のボランティアサークルに入っておられる人が周りに多いから×2  
いろいろなイベントとか各利用者さんの交流など、他のボランティアグループとの交流もためになると思う。  
それなりにいろいろな活動がある。ただ、もう少し広める努力も必要かも。  
行事での活動。

様々なサークルがある。×3 1

活動されている話をよく聞く。福祉まつりに参加し盛大。

V連加入団体も多く活発だと思う。

管外研修などで他の市との交流で案外活発だと思った。

ボランティアをする人が多い。×2

内容がしっかりしているように思う。

活動に参加されている方は、いきいきとされている。×3

地域の特色に合わせて、多種多様なボランティアがあります。ただ、同じ様なグループの交流がないのが残念。

**活 発**

実家のある県では、傾聴ボランティア活動をこれから立ち上げるところと聞き、京田辺の方が活発で進んでいると感じました。

社協の中の様子

京田辺の地域ごとの自治会の行事に参加するチャンスがあり、社協のバックアップの上に、会員さんのボランティアをする姿に触れ、驚いている。

活発であってほしいです。

京田辺市の社協さんを通して、いろいろな施設から依頼をいただくから。

会う人は同じ人が多いです。

皆さん人の輪を大切にされていると思う。

そう聞いたから

皆さんの熱心さに感銘しています。

広報誌などを通して、皆さん活動されている様子を知って

市行政の福祉が以前より充実してきたから

なかなか広がり全体につながっていきにくい

学校への活動など思っていた以上に参加されていたことを知った。点字という活動はそれほどないと思っていた。

文化祭や行事において店舗出店があったり、通信発行されたり、広報板での宣伝があるため  
様々な人が関わっている

## 活 発

忙しいほど充実しています。

高齢者の取り組みは早いと思いました。

自分が加入しているグループ以外にも多くの団体が活動していることを知っているから以前の職場でいろいろ(作品作り、ショッピングのお手伝いなど)と一緒にさせていただきました。熱心に取り組んでいる。ただし、ボランティアをする為の訓練の時間が大事。

体力、能力の8割くらいで活動して、充分に余暇を楽しんでいて、ボランティアができることがうれしい。

サークルに加入してから、ボランティアに関わっている施設がたくさんあるということが分かったし、南部ブロックなどの市内に留まらない活動も行っているから

様々なイベント等でボランティアの方が活躍されている姿を見ます。

グループも多く、それぞれいきいき活動しているから×3

負担に感じられない程度の時間で、活動させていただいているので、細く長く続けられそうなので。

サークルの活動を見て。ほかの地域は知らないから

自分の動ける範囲で、無理をせず長く続けていけそう。

宇治等に比べると活動に向けての(例)三者の参加が少ない。もっと参加してほしいです。

内容による

色々な分野の活動があり、催し物もたくさんあると思う。

各サークルの人が活動しているので

ボランティア団体がたくさんあり活動していることを知った。しかし中に入ってみないと気づけない。一部の人しか知らない実情も知った。

よくチラシやポスターを見かける。

就労支援のためのいろいろなアイデアを出し合って活動している。

よくわかりませんが活発だと思う。×3

サークルに入って半年ですが、3回活動に参加した。

度々施設からの要請を受けることがある。

自身のボランティア活動とは、ほんの小さな事しかできませんが、多くの方たちがいきいきと活動されているのを見る機会がある時に思う。

他市町村との比較はよくわかりませんが、次世代を担う人材の不足は心配しています。

北部住民センター、社会福祉センターがいつ訪れても何かしらの団体が使用しているから。

社会福祉協議会がしっかりしている。職員(スタッフ)が良い。レベルが高い。

時間にゆとりのある退職された方が積極的に取り組んでいるが、若い方の姿があまり見えない。

他の状況は分からないが、多くの人が頑張っているように思う。

近所に住んでいる人がボランティア活動に参加している人が多いから。×2

あまり具体的なイメージはない。自分達の活動と他のいくつかのみによる判断。

週1回3時間位でとても忙しいですが、皆さん休まず参加してくれます。楽しくやっています。

私が属しているグループは人数が多いこと。内容は詳しくは知らないが、他にも色々グループがあること。よく活動されていること。

人口に対して活動している人が少ないのではないかと

ボランティア連絡協議会がある。まつり、イベントの手伝い参加者が豊富

何かにつけて点訳という大変なことをやってくれている。自分の孫が住んでいる学校でボランティアが教えると言うことはないから。京田辺市内のボランティアは子ども達に教えているから。

他の地域に行ってお話を聞いて分かった。

月の内約12回ある

いろいろなところで他のボランティアの方々と会って、いろいろ話ができるから。

将来的に若い方に啓発が必要。

福祉センターにいても、いつも誰かが集まっておられるから。

## 活 発

周囲にも多くのボランティアの方がいるので。

女性の方々はいつも何かをされていて、仕事をやめたら自分のために、学ぶために何かをしたいと願っていた。次はなすびの出荷をしたいと思っている。

ふれあいまつりなどでいろいろな活動を知った。

広報、社協だより

それぞれの活動を聞いているので

大学のボランティアサークルがたくさんあると思う。

知人・友人（他の地域）に聞くと、あまり本人自身がしていないことが多かった。地域全体で行なう事業には参加するが、組織（サークル）には属していない。

個人個人自分の特技を生かして色々グループで個人で活動されている方を知っています。

多くの方が社協に来られ、活動している姿をみるから。

個々の思いで活動されている。会員相互の親睦にもなる。自己学習にもなり、参加してよかったと思っている。

活発だと思います。

身近なところに様々な活動がある。小規模都市なので、活動がある程度認知されやすい。

色々な場所で、活動されている場面を見かけるので。

他の状況はわかりません

私たち以外にも活動されている人たちのことを聞く

行事が多い

大学で、学生ボランティア団体が交流することがあり、それぞれが様々な活動をしていることを知ったから

特別なことはない。

ボランティアに携わる人が本当に少ないこと。人との交流を極力嫌がっていることも多い。

あまり身近に聞くことがない。×2

活動が複数の人によって回っている感があります。×2

周囲に知らない人が多い。

高齢者が多い。

団体、サークルとしての活動はあっても、個人としての活動が少ないように思う。

あまり身近に感じない。若い人の力がない。×3

一般の人に知られていない。×2

ボランティア対象者が減少している。

今年は2回目の朗読の新年会のみです。シャレた語りを入れるので認知度の高い方の所は遠慮しています。

## あまり活発 ではない

ボランティア情報はどこを確認すればよいかわからない。

人それぞれ

京田辺市が活発ではないから

交通面で不便なこと

地域の力がある所とない所がある。

活動を始めた頃は東地区の人はほとんどVをしていなかった。ここ少し活動する人が出てきた。

社協での活動・空間を除くと、私が健康なためか、日常生活でV活動や話題等に接したことがない。

活動している人も多いが関心のない人も多い。

活発かどうかもわからない。それぞれの分野と活動に広報を手厚くすべきか

高齢化していると思う。

まだまだ知られている地域が少ない。

周囲の人でボランティアをしている人があまりいない。活動しているのは一部の人だと思う。

まだまだだと思います。時間やお金に余裕がある人でも何もしていなくて、自分の楽しみだけしている人がたくさんおられます。

あまり活発  
ではない

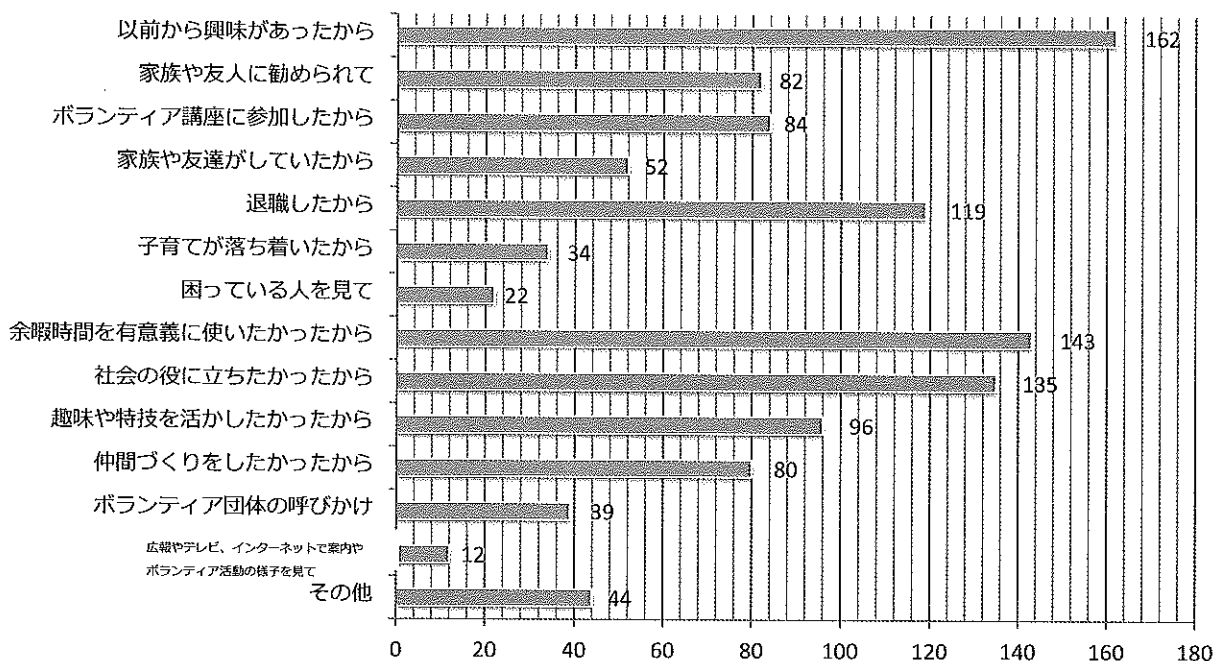
施設との交流よくない。  
 自宅の周りを見ても活動している人が少ない。  
 まだ詳しく認識できていないかもしれませんが  
 洛南寮に行っていますが、男性が少なく圧倒的に女性が多い。  
 何を考えているのか、何となく集まりに寄って来ている人がいる。  
 自分が行ってみてそのように思う。  
 近所で誘う人が見つからない。  
 同じ人のみ。発展性が無い。

活発  
ではない

誰がどんな事をしているのかわからない。一部の人しかやっていない雰囲気。どこを見ても同じ人が目につく感じ。  
 ボランティアに参加している人はいろいろな活動に参加している。多くの市民がボランティア活動に参加していないように思う。  
 特に田辺は新旧の関わりが難しく、旧の方々が力を持っているのでやりにくい。  
 よくわからない。  
 年寄りばかり  
 周りでボランティア活動をしているという声をあまり聞かないから。  
 よくわからない・知らない×4 2  
 他地域と比較できない×2  
 ふつうだと思う。  
 高齢化に伴い、担い手が少なくなっているように感じることはある。  
 病気のため

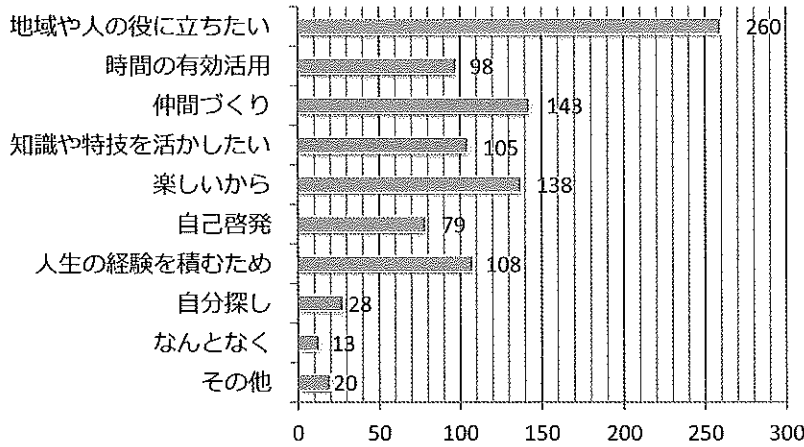
無回答

### 問 1 1 ボランティア活動を始めたきっかけは何ですか（複数回答可）

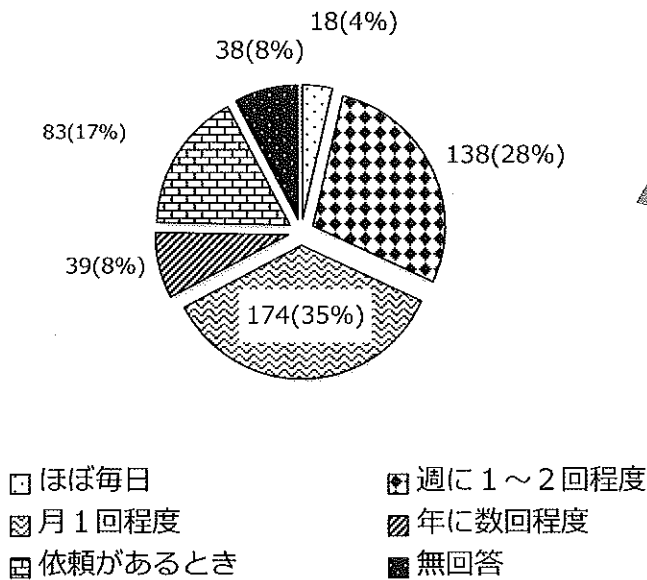


ボランティア活動を始めたきっかけとして、「以前から興味があったから」が多く、続いて「余暇時間を有意義に使いたかったから」、「社会の役に立ちたかったから」、「退職したから」と続いています。多くの方がボランティア活動に対し、以前から興味・関心を持っていただいており、時間の制約などから解放されたことにより、貴重な時間を自分のための時間として、そして社会のために有意義に使いたいと考えておられます。

**問 1 2 ボランティア活動を行っている目的は何ですか（複数回答可）**

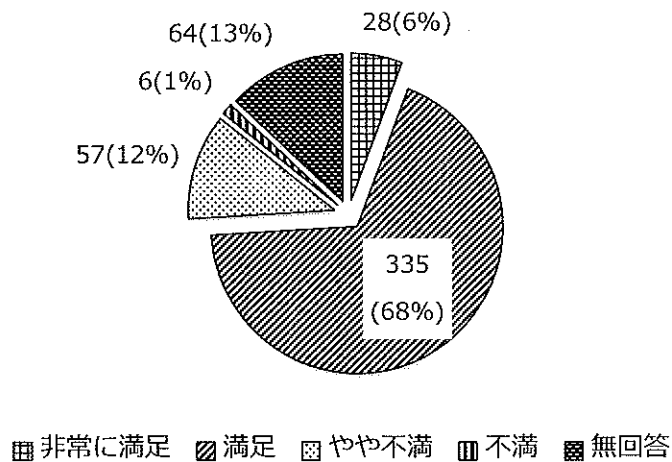


**問 1 3 どのくらいの頻度でボランティア活動を行っていますか**



「週に1～2回程度」、「月1回程度」が半数以上を越えており、自身が所属するグループの活動に合わせて、無理のない程度に活動をしている人が多くおられます。趣味の時間や家庭の用事などと共に、ボランティア活動が生活サイクルの一部になっていると考えます。

**問 1 4 現在の活動に満足していますか**



〔その理由は〕

非常に満足

毎回楽しく活動させていただいているので。×4

お役に立てていると思ううれしい。

施設の方々に感謝いただれたり、私たち側も楽しいから。×3

楽しく関わった人たちと喜び合えるから元気をもらっている。

今は病気になって行けないのが残念だ。よくなったらまたやらせてほしいと思います。

楽しいが、ちょっと体力が心配。

ボランティアに行くおかげで私も元気で頑張れる。

準備もありそれ以上は大変

行事がサークル以外にもあり、聴覚障害者や難聴者にも私の性格を理解していただき、楽しく交流できているので満足している。

自己啓発になり、目標を持ちやすい。

仲間とも交流出来、充実感がある。

たくさんの学びや発見がある。

私が身近にいることで色々安心できると言ってもらえる事

ボランティア仲間の方がとてもいい方で良い雰囲気がある。

毎日が充実しています。×3

異年齢の方や住む地域の違う方たちと活動ができるから

演奏活動させていただき、訪問先でも喜んでいただける。×9

自由である。×2

他に自己啓発していることがあり、これ以上は無理。

ふれあいまつりや文化祭で皆さんにご協力の結果を報告している。

ボランティア先の人が喜ぶところ

無理があっては長続きしないと思う。また、自分に合ったボランティアがある時は参加する。×7

まあまあというところです。

楽しいから×3

忙しいほど充実しています。×2

利用者が喜んでくれている。参加日数が適当だから自分に合っている。

自分の好きな作業であること。

満足

体力、能力の8割くらいで活動して、十分に余暇を楽しんでいて、ボランティアができることがうれしい。×4

好きなことから

自分の活動と目的は一致している。

設備が整っている。

負担に感じられない程度の時間で、活動させていただいているので、細く長く続けられそうなので。×13

家族との関わり、自分自身の趣味、そして月4～5回のボランティアとバランスよく過ごしていること。×5

社会貢献の一助となれている。

特にゴミカレンダーは喜ばれている。

不満がないため

民生委員の仕事もあるため活動としてはちょうどよい。

最初のボランティア活動では

自分のわずかな特技で皆さんに喜んでもらっているから

自分の出来る事が人のために役立っている。

少しずつではありますが、時間を見つけていけたら

私も年をとり毎月はお掛けられなくなりました。

楽しいが、ちょっと体力が心配

月に2～3回の活動で楽しいと思っています。



## 満 足

みんなの笑顔が自分の喜びとなるので

大きな事故もなく活動できている。

参加者さんと密に加わることができて満足はしているけれど、災害関連をしていきたいと考えています。

活動の中からいただくものも多いから

活動外でお友達になれて親しくしていることを喜んでいきます。

高齢者及び障害者の自立支援や青少年健全育成に多少なりとも貢献しているから

参加者も楽しく、自分も楽しいから

何とか満足して帰れる。施設に行くと、近所の先輩に会い喜んでくださる。

地域の人たちに喜んでいただいていることと、自分も楽しいから

役立っていると思う。

色々な人とのつながり。自分にできることがあればまた、自分も人のお世話になることがあると思う。人との広がりも大事だと思う。

月1回位、役に立ちたい。

活動しやすい環境にあるから(自身・所属サークルとも)

自分のためにしていることが人の役に立っている。

人間関係が良好×3

適当に活動できる場所があるので

参加した方に喜んでもらえる。楽しんで参加して下さる。

人の助けにもなっていると思うが自分も楽しむことができている。

笑顔の輪が広がると嬉しい。

私たちボランティアは、やさしく笑顔で接することを実行している。

依頼があつて参加する程度でよいと思つている。

人間は一人では生きていけないとわかつたから

自分の都合とほぼ合致している。

もう少しいろいろやりたいという思いはあるが、人材不足、時間の制限もあり難しいところですよ。

多くの方々と交流ができる。時間を有効に使うことにより、充実した日々となる。

満足しているがもっとボランティアの依頼をして欲しい。

毎回活動が円滑に進んでいるから

今自分が出来る最大限のことはしているから

仲間づくり、交流が広がったから

年齢を考えるとこれ以上は無理だから×2

多くの事を学ぶことができたため

退職後、地域の方と交流が増え、新たな友人もできた。×2

年齢相応

サークルのメンバーがとても親切にしてくれるから。自分の都合やペースで参加できるから。

志を同じくする友人達と前向きに取り組んでいる。

時間があると手伝えるところがあるから

農作物について、知らなかったことが分かる。手話が覚えられる。今まで会うことができなかった人々と交流できる。

もう少し広がりを持てればよいと思う。

健康長寿に貢献しているから。

活動しているメンバーが親切であるから。

自分のやりたい活動に、やりたい時間だけ関わっているから。自分の成長を感じているから。

積極的に参加していると言う訳ではないが、現状としてはちょうど良い姿勢で取り組んでいると思う。

お互いに教え合つて集中する楽しさを味わえる時間

少しの時間ですが、皆で笑顔になれるから

## 満足

慰問の時喜ばれる姿を見てやりがいがあります。こちらも元気をもらえます。

活動当初は不慣れで色々戸惑いもあったが、施設の利用者との交流を通して人々のお役に立っているのを実感している。

義務と言う感じにならない程度だから。後に余裕が出来れば増やすこともありです。

常に活動の場を広めて、メンバーにやりがいを持つようにしている。

子どもから大人まで幅の広い年齢の方と交流が出来ているから。

広範囲に活動が広がってきています。

元気をもらっています。

自分の生活としてボランティアを組み入れていますので。

社協(市・府)の助成金を使わせていただき、また、活動にご理解いただき、ご協力くださっていることに感謝しております。

活動するために、まず自分自身の健康を気遣うようになった。

内容が簡単。無理が無い。

色々手を出してしまったことと、親の遠距離介護が重なって、能力を超えてるかな…と思ひもし、実際大変なことも多いが、充実感はある。

自分なりの努力をし、力を尽くすことで、責任を果たすことができるから

一番やりたいことの合間に積極的に参加できているから

他の用事を優先しなくては行けなく、ほぼ活動に参加できていない。×5

いろいろな理由で思うような活動はできていません。

年齢的にも体調も悪く、思うように心身ともに活動しにくくなってきたゆえ×4

会社勤めをしているので、自由な時間に限りがあるため×3

人数が少なくなっている。×3

もっともっと参加者を増やしたい。そのためには、心の健康推進員の増加が必要

ボランティアの活動が減少している。×4

市からの誘いかけはなく、自分で探して申し込む

練習不足、仲間不足、財源不足

いろんな人がいるので

見守りについてもっと皆さんに協力していただきたい。学校の対応についても

仲間が高齢になってきているので田辺や興戸等近くが良いと思う

自分の思いと活動にずれがある。

## やや不満

以前は複数の施設を訪問していたが、ここ一年以上同じ施設なので、他の施設の利用者さんの様子を見たい。

自分の活動が、実際の現場に活かされていない。(点訳本を読んでくれる人がごくごく少数。)

自分に合った活動がなかなか見つからない。

ボランティアの高齢化

施設の意図がよくわからない。

年が80歳に近い人がきっちりとお仕事をされていて、体もしんどいと思うが、何もおっしゃらなく、68歳くらいの方がボランティアなのに動きが悪く、一人だったら仕方がないが、二人で組んで進めていく仕事ものろのろとか。ボランティアってもっとずっきりしているのかと思っていた。

会員の中で車を出すのはちょっと心配。もし事故になれば…。送迎バスを出してもらえれば助かります。

サークル以外の方に役立つ為の方法はないのか。

楽しくない

福祉センターは自宅から遠い。交通費の自己負担を続けるとなると、負担感がある(夫の年金暮らしで収入が無いので)

人的交流が少ない。×2



**やや不満**

メンバーが不足して、一人あたりの負担が増えている。人数が多ければ活動の質もあげられるし、幅も広がられると思う。

あまり参加できていない。上達できない。

活動機会が少ない。

理解者と協力者(医者等)を見つけていく必要がある。

**不 満**

仲間が増えない。

参加できていないことが多いから。

最近は活動していない。

始めたばかりで活動とまでは言えず、まずは仲間づくりから。

現在は対象者がなく活動をできていない。(家庭の事情で休会状態が今年前半までであったため)

満足しているかについては、自分はまあまあだと思っても、相手によってとらえ方が違うので、実際の所その時その時で違うと思います。

**無回答**

ふつうと感じている。

仕事の関係もあって活動ができていません。

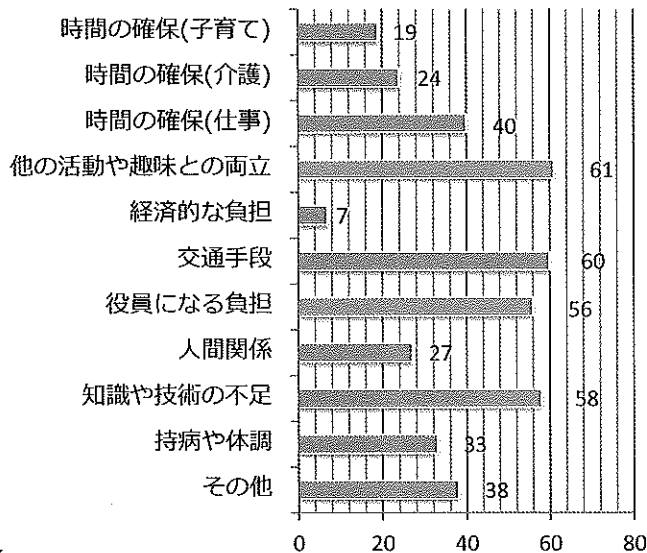
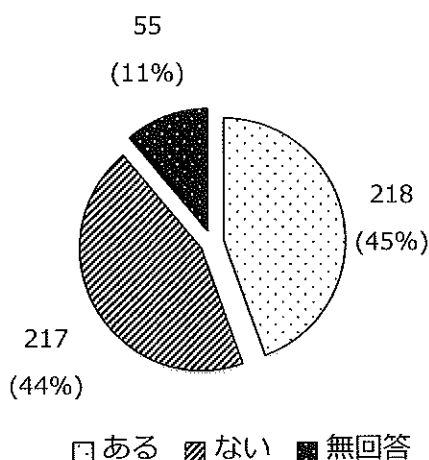
わからない。

本当のところ何とも言えません。自分のペースでやっているのです。

現在病気治療中で休止中

**問 1 5 活動にあたって問題点や困難はありますか**

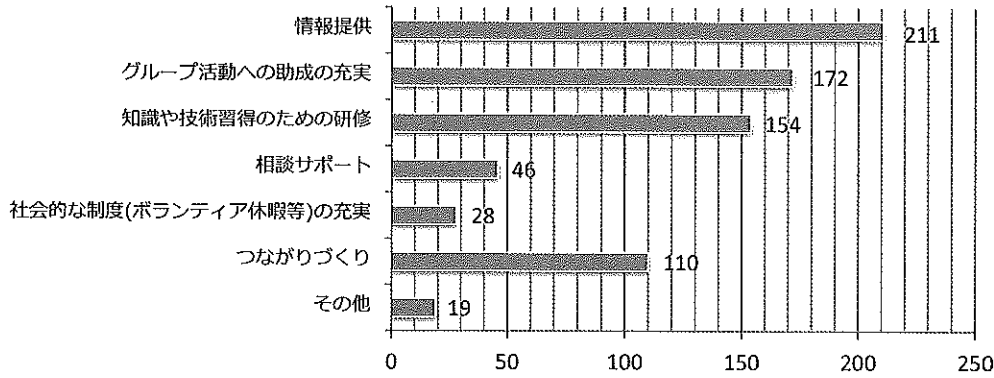
⇒問 1 5 で“ある”と回答された方に伺います  
その理由は何ですか (複数回答可)



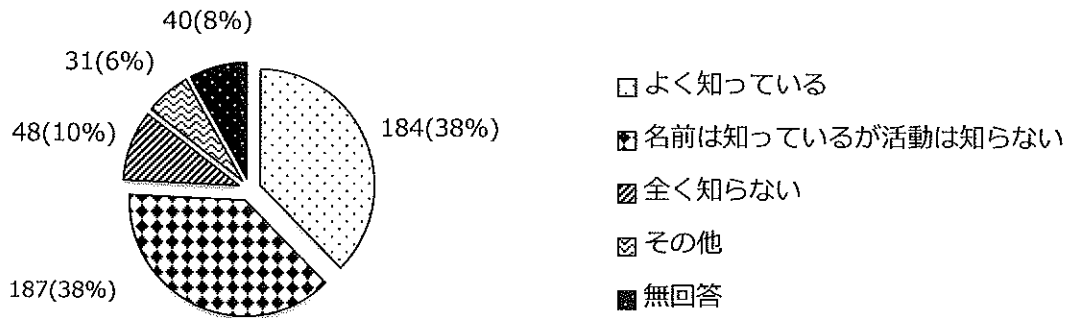
“ある”と回答した女性は、活動拠点である社会福祉センターまでの「交通手段」が少なく、困難であると感じている方が多くおられます。男性では知識や技術不足と感じている人が多く、活動年数に起因するものと考えられます。

また、女性では「役員になる負担」と答えた割合が多い反面で、男性は比較的低い割合に留まりました。

**問 16 ボランティアをするうえで、どのような支援が必要だと思いますか（複数回答可）**

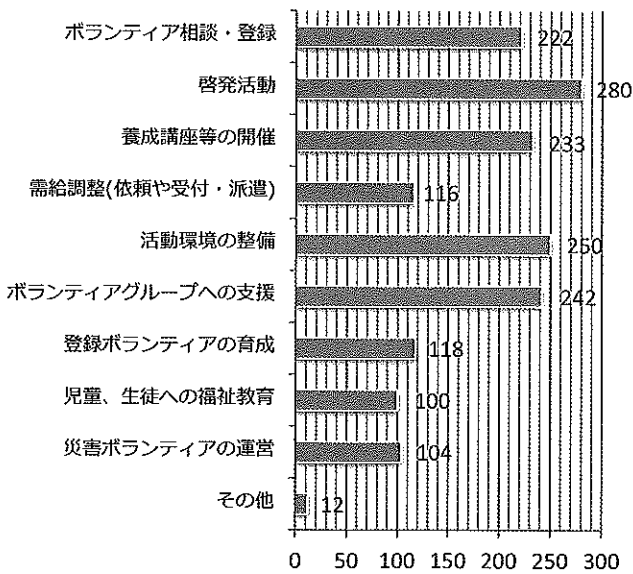


**問 17 “社会福祉協議会ボランティアセンター”をどの程度知っていますか**

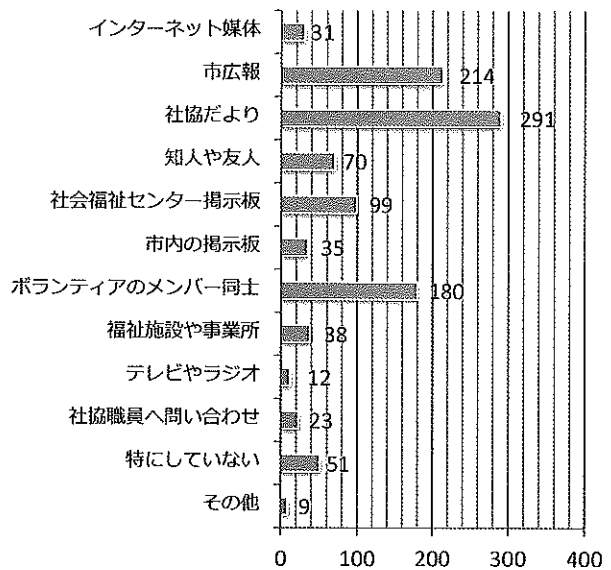


約半数が、ボランティアセンターについて「活動は知らない」、「全く知らない」という回答でした。すでに活動されている方であっても、活動や取り組みに対して認知度が低く、ボランティアセンターを広く知ってもらうための工夫が求められています。

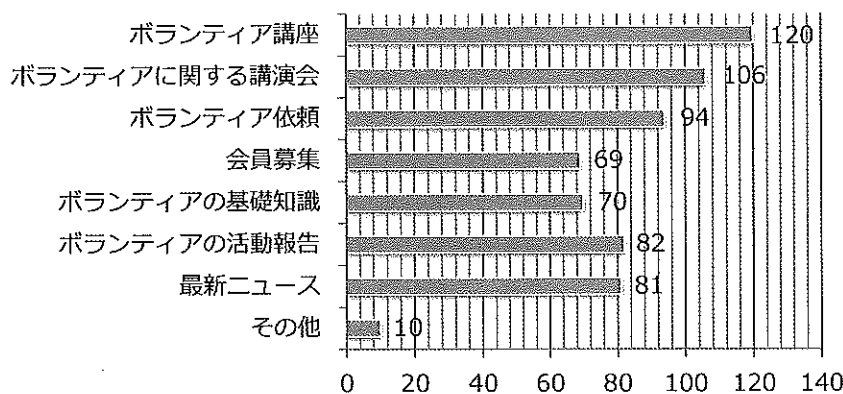
**問 18 本会のボランティアセンターの取り組みについて知っているものはありますか（複数回答可）**



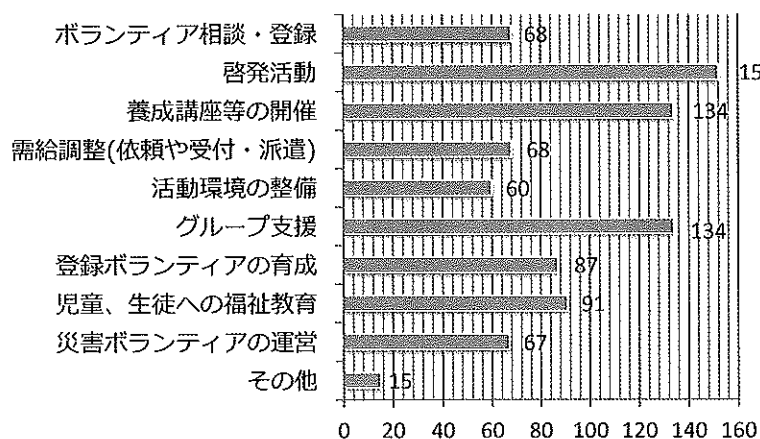
**問 19 どのようにしてボランティア情報を収集していますか（複数回答可）**



**問20 どのようなボランティア情報を希望しますか（複数回答可）**

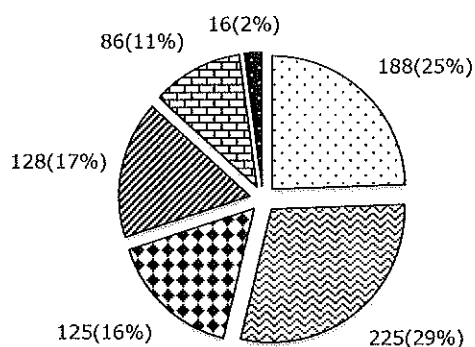


**問21 今後どのような取り組みが大切だと思いますか（複数回答可）**



「啓発活動」や「養成講座の開催」といったボランティアの参加促進に向けた取り組みだけでなく「グループ支援」の回答も多く、組織的な活動の発展、継続的な活動、運営への支援も求められています。

**問22 ボランティア活動者を増やす方法として、どのような手段が有効だと思いますか**



- 研究会や講座の実施
- ▣ 市などが主催するイベント等での啓発
- ▤ ボランティアによる口コミ
- ▥ 直接的な働きかけ(自治会や企業など)
- ▦ インターネットやSNS(フェイスブックやツイッター等)の活用
- その他

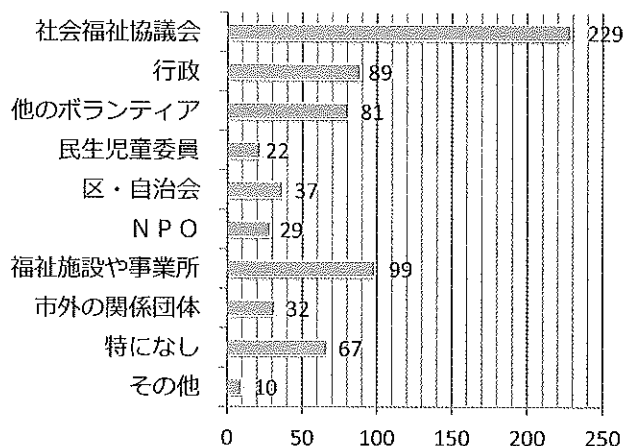
「研究会や講演会の実施」、「市などが主催するイベント等での啓発」が半数を超える回答となりました。いずれもボランティアと連携をはかりながら進めていかなければならない取り組みであると考えます。ボランティアとの意見交換をはかりながら、取り組みを進めていきます。

## 問23 今後どのようなボランティア活動が必要だと感じますか

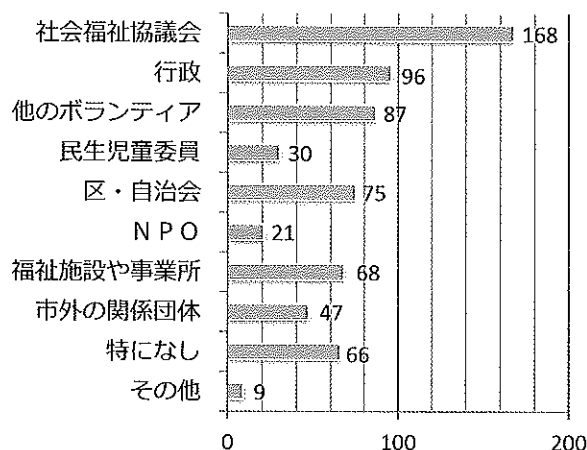
- ・若い世代がボランティアをできること
- ・児童向けの活動
- ・これならボランティアに参加してみたいと思えるもの
- ・必要とする人とされる人の情報提供の方法が必要かと思う
- ・障害者支援、独居高齢者支援
- ・高齢者福祉や地域安全
- ・社会的弱者への手助け
- ・超高齢化社会に向け、高齢者に介護や居場所づくり
- ・少子高齢化の対応
- ・障がい者家族も交えた活動
- ・子どもの貧困、母子家庭の貧困など、啓発及び援助
- ・家事代行
- ・高齢者福祉
- ・困っている人を助ける
- ・災害ボランティア(現実的な)
- ・災害ボランティア
- ・小学生(1~6年生)手作り講座、竹とんぼ、コマ回し、紙飛行機
- ・高齢者のための防災、寝たきりにならないための健康体操
- ・時間があれば人の手助けをしたい
- ・市議会議員をボランティアでやりたい
- ・独居老人の生活全般で、特に日常の買物
- ・近隣での助け合い、ささやかな活動
- ・児童福祉(虐待防止)
- ・災害ボランティア
- ・今活動しているボランティア以外は思いつかない
- ・交流が図りたい
- ・障害児(者)はもちろんのこと、認知症など高齢の方への支援
- ・高齢者をサポートするためのボランティア
- ・高齢者対象のイベントに関するボランティア活動
- ・教育における経済格差を是正するもの
- ・楽しく参加
- ・各種活動を通じた市民力、地域力の向上を図るイベント等
- ・高齢者施設の掃除、話し相手
- ・この町に住んで良かったと思われる活動
- ・在日外国人との交流や支援
- ・小中学生を巻き込むような活動と啓発活動が必要では。
- ・清掃(きれいな街づくり)
- ・高齢化社会に向けて、もっとお助け隊のようなのが必要かと。
- ・一人住まいの高齢者(独居老人)への働きかけ・声かけ
- ・高齢者に対する働きかけ
- ・各組織、団体等との連携がスムーズにできること。
- ・「活動してみようかな…」という若手を育てる活動
- ・地域に密着した活動
- ・英会話をボランティアで教える(国際化時代の為)
- ・高齢者施設でのボランティア活動
- ・自己満足だけで終わらない活動
- ・パターンを固定しない活動
- ・高齢者の見守りなど生活支援
- ・災害、高齢介護(買い物、見守り)、子育て支援
- ・買い物や掃除、病院への付き添い
- ・子育て支援
- ・健康推進、健康相談、若い人たちによるボランティア
- ・年配の方々の集う場所、地域ごとに
- ・一人暮らしの高齢者や障害者の見守り
- ・みんなで作っていく、楽しめるボランティア
- ・災害ボランティア
- ・災害ボランティア育成の実地研修体験
- ・趣味特技を活かし、子供たちを健全に育てる活動
- ・介護、送迎、住区毎に小さな手伝い(日常生活)
- ・ヘルパー的業務
- ・閉じこもりがちな人への支援を考える
- ・子ども食堂など貧困家庭の子どもに対する支援
- ・災害Vの確保、運営、実践に向けての取り組み
- ・介護が必要な人のボランティア
- ・ボランティア活動に重きを置くのではなく政策で
- ・高齢者、一人暮らしの人たちへのボランティア
- ・よくわからないが、現状でよいのでは
- ・地域ごとに密着した活動
- ・まちづくりをテーマとした活動、ハード、ソフト両面
- ・高齢者の支援
- ・介護関係
- ・施設支援
- ・異世代交流の場づくり(高齢者が増えている)
- ・介護
- ・自発的参加を促す社会づくり。
- ・ボランティアをする人達も楽しめるような活動
- ・一人暮らしの高齢者のサポート
- ・需要ある活動
- ・災害
- ・独居の人へ声かけ
- ・グループの高齢化による送迎(練習や施設への移動)
- ・不登校児の支援活動
- ・ボランティアの活動の場をもっと広げて欲しい
- ・年配の方の力を借りる

- ・市民生活に根づいた息の長い活動
- ・高齢者のデイサービスセンターのようなところ
- ・高齢者支援だけでなく、元気な高齢者の活動を促すプログラム
- ・環境を美しく、年に数回自主的にゴミ拾い（全員で）勿論、職員も一緒に
- ・ボランティアの送迎してくれるボランティアサークル（社協から施設までの往復）
- ・児童、学童、学生ができるボランティア活動、高齢者ができるボランティア活動、地域ボランティアバンク作り
- ・独居老人の各種書類作成の補助（意味、書き方など、ちょっとした事がわからない場合が多いので、ご自宅まで出向いてお手伝いする。）
- ・乳児や高齢者、障害者への継続的な活動はあるが、児童対象の継続的なボランティアが不足している。
- ・サークルも60～80歳が多数。若い人が入っても、なかなか続きません。人数集めが大切だと思います。
- ・自宅にこもりがちな高齢者に対する働きかけ、ひきこもり（若い人も）対策
- ・楽しい活動がボランティアだという意識の形成…イベント企画や実行を手伝ってもらう
- ・私の活動範囲から感じた事とは、若い施設で働く方でも非常に関心を持たれる方が見えます。昭和の歩みと名曲など
- ・社協と自治会が連携して推進してほしい。自治会ではほぼボランティアの話題はないです。
- ・毎日がボランティア活動、地域に居ても町に出ても、いつもどこにでも活動の場はありますね。
- ・ボランティアの関心度が老人以外かかわってない方へのアプローチ？
- ・提供する側、受け手の双方のコミュニケーションが深まる活動
- ・高齢者や障がい者に対する包括的なサービスができるボランティア活動
- ・私は外へ出られない人達を1時間でもたのしませて、変化のある生活をさせてあげたいと思います。
- ・幼稚園や保育所で子供と遊んだり先生や保育士さんのお手伝いをする活動
- ・お年寄りが増えていくと思うので、高齢者施設での活動があれば
- ・高齢者が増えており、いつまでも安心して暮らせるためのボランティア活動が必要。市がポイントを使い包括で行っているが、それとの整合性が必要。
- ・ボランティアの高齢化で退会され、活動が停滞しないよう会員を募集
- ・ボランティア活動の底辺を広げるためもっと多くの人々に参加してもらう
- ・個人参加からボランティアを呼びかけるのではなく、こちらから企業団体へ推奨していく
- ・高齢者の生活を支えるボランティア（介護保険やシルバー人材センターの間を埋める活動）
- ・最近では災害が各地で起こっているので、復興支援活動が必要だと感じます
- ・今後高齢者の増加に伴い、介助ボランティアが必要になるのでは
- ・中高年（60代70代）の障害者（車椅子レベル）の楽しめる場所づくり
- ・今後老人が増えてゆくので、生活の手助けができらと思います。
- ・貧困家庭の子どもに対する無料の学習支援、進路相談などが出来る場所、子どもの居場所づくり、若者の自殺を少しでも減らせるよう相談できるところ
- ・選択肢がいろいろあって、個人にあうボランティアが見つけれられること。
- ・リフトカー利用の広報（市内には歩行困難で、日常生活の支援を求めている人が多いはず）
- ・ボランティアをしている人が高齢化しているのでもう少し若い人に入ってもらいたい。
- ・災害時に必要なボランティア育成。災害時にさらに困難や障害者・高齢者・病者、またはその家族への対応（行政だけでは無理）
- ・時間のある人は、ボランティア活動に参加されることを望みます。
- ・京田辺市にもあると聞きましたが、災害ボランティアや放課後の子供たちの居場所…は、良いことだと思います。
- ・間21の8、とても大切だと思いますし、より充実させて頂きたいですし、そこに参加したいと思います。
- ・これから高齢化が進んでいくようですので、それに対応するボランティアが必要かと思っています。
- ・一時的なボランティア募集(一度やるとずっとやらないといけなのかと思ってしまうと思いきれないから)

**問24 活動にあたって、連携しながら進めている機関や団体はありますか（複数回答可）**



**問25 活動を進めるうえで、連携をはかりたい機関や団体はありますか（複数回答可）**



すでに「行政」「他のボランティア」「福祉施設や事業所」と連携をしながら進めているボランティアが比較的多く、今後の活動に向けては「区・自治会」と連携をはかりたいという回答が多くあり、身近な地域の中で、連携したボランティア活動が求められています。

**◇ ボランティアもしくは日頃のボランティア活動に関して、思うことや感じること、ボランティア活動の推進に向けたアイデアなど何でも構いませんので自由にご記入ください**

- ・自分自身が毎日楽しく暮らすこと
- ・もっと関わる人が増えると良いと思います。
- ・皆さん、良い方たちばかりです。
- ・問20～25 社協でご検討いただければ幸いです。
- ・もっと社協もボランティア内容に関与してほしい。
- ・もっとオープンに交流し合えたらと思います。
- ・ささやかなことでも活動に活かしていきたい。
- ・広域や青年団体、同志社大との幅広い交流
- ・堅苦しくない交流の場が必要
- ・現在していないので、現状がよくわからない。
- ・先進的事例の紹介（講習会・DVD・見学）
- ・月1回の活動で私事都合で休みにくい。
- ・学校関係の方に啓発が必要。
- ・助成金など行政の支援
- ・学生や若い方をどのようにボランティア活動に参加してもらうか、呼びかける催しを開催する。
- ・会で行事を行う時、社会福祉協議会の皆様にお世話になっております。ありがとうございます。子育て世代や高齢者も活動できる（活動しやすい）ボランティア活動があればと思います。
- ・活動メンバーの高齢化とメンバー募集の体験講座を企画してもメンバーが集まらない状況に不安を感じる。
- ・ボランティアの方々には、頭の下がる思いです。ただ自分にできることは、年を重ねていく上で、一日でも長く“自分にボランティア”。家族や周りの方々の手を煩わす事の無いよう生きること！でも、いつまでも出来ることではなく、せめて身の回りの事は頑張っていくと思っています。ありがとうございます。
- ・交通手段がうまくいかないこと
- ・高齢者向け福祉に関するボランティア活動
- ・交通手段の充実
- ・市役所と社協の協力
- ・人の為だけではない。自分のためにもなる。
- ・市民活動の地位向上
- ・身近に接して障害者と体験する。
- ・支援が必要な人に支援が行き届いているか心配
- ・次世代のボランティア活動大丈夫？と心配
- ・年齢層(60歳代の活動加入を望みたい)の問題
- ・〇〇の社協の方は行っても無関心。京田辺は親切丁寧
- ・40～50代くらいのリーダーが必要
- ・無理せず続けられるように心がけています。
- ・年配者が何かをしたいと思っても窓口が遠い。

- ・皆で楽しく歌うボランティアがあれば嬉しい。高齢化が進む中、活動家の足（バスや車）が心配。もう少し若い人が参加してくれればと思います。
- ・ボランティアというと始めはネガティブな感じだったけど、やってみれば楽しかった。
- ・ボランティアだけでなく、他の福祉関係のことも含めて情報を得る場所が決まっているので、学校・幼稚園などへ協力をお願いしてみてもいいのかなと思いました。（保護者が知ることができるので）
- ・高齢化になってくると、交通手段が難しくなってきた、ボランティアをしたくてもできなくなってくるのではと思います。
- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。ボランティア活動は、必要でニーズもあると思うのですが、昔と同じやり方では難しいのかなと感じています。
- ・ボランティアの活動者も高齢化しているなか、どのようにしたら若い活動者を引き込めるか考えないといけないと思います。ボランティアの魅力って何でしょうね。
- ・障害者（施設）事業所のボランティアをしています、利用者には個人差があり、戸惑うことがあります。
- ・“ボランティア”活動が特別なことではなく、住民全体の日常のこととしての意識を持つことが大切なのではないかと思う。
- ・あくまでもボランティア、されどボランティア、責任はある。健康でないと大変
- ・いつも活動できる場所（社会福祉センター）があることに感謝しています。
- ・なかなか、難しいことばかり。身内は遠く、入りこめない、助けてほしいと言われることができない。
- ・京田辺市は、障害者に対して優しい都市とは言えない。バリアフリー化が進んでいない。安全に暮らせる道路整備ができていない。
- ・今、どんなボランティアが必要なのか、一覧にして定期的に配布するとか
- ・現在、何も活動していません。来年、仕事を辞めたあと、何かお手伝いできることがあればと考えています。
- ・自分が必要とされている自覚と、充実した時間を過ごしたいと思います。自己満足にならないよう気を付けて参加させていただきたい。
- ・現在、囲碁ボランティアを登録していますが、なかなか活動機会がありません。個人的には、自分の能力、時間などの条件が合えば、囲碁に限定することなく地域のお役に立ちたいという思いがありますが、努力不足かも知れませんが、そのチャンスを捉えることができていないのが現状です。
- ・高齢でも元気でボランティア活動ができるのは、健康だからこそと思います。健康管理が大切だと実感しています。
- ・現在、ボランティア活動に携わっている人は高齢者が多いように思います。若い世代でも主婦など興味を持てば、もっと参加する人が増えると思います。全戸配布の市政だよりや社協のたより等の中で、きっかけがあればと思います。何かしたいという思いは、皆あると思います。
- ・グループのメンバーが70歳を超えていますし、段々と足腰も弱くなる一方、運転も厳しくなるので、一ヶ所に施設から送迎してもらえたら、ありがたいと思います。
- ・サークル会員も年金生活です。せめて、交通費が出たらいいと言っています。車を運転する人もポチポチ無理かなと言っています。
- ・ボランティアと聞くと、とても大変に思われています。気軽に入り、自分の地域は自分たちで守るという気持ちが欲しい。
- ・友人に活動したいがどこに申し込んだらいいのかわからない。自分の活動の日に、用があって休まなくてはならない時、休めるのか
- ・障害者団体も高齢化しておりますが、ボランティアの会員も高齢です。若い会員が役員などの負担が無く活動できるようになればと思います。
- ・ボランティアをする人は高齢の方（時間的、経済的な余裕からだと思います。）が多く、若い人の参加方法を早急に考えるべきだと思います。
- ・今後ますます、高齢者が増えると思うが、相互に助け合い、予防できることはする。コミュニケーションをとりあうなど、たくさんの助け合い活動が必要と思う。
- ・自分自身が高齢なので、受ける側になるのはもうすぐだと思えます。買い物やゴミ出しなどもお願いしたくなると思えます。
- ・自身の高齢化で、今までできたことも時間がかかり、少なくなっていくと思いますが、できるだけ続けたいと思っています。高齢化対策としてよろしく願います。



- ・ボランティアをする人とされる人の年齢があまり変わらない。
- ・活動しているグループのメンバーも段々と高齢になっているので、もっと会員を増やさないといけない。
- ・ボランティアという言葉ではなく、地域のいろんな活動に参加してもらおうように働きかけが必要だと思う。はじめの一步を踏み出せば変わる。
- ・10年一日のごとく、同じことを繰り返している。新しいことに取り組む気持ちが大切。
- ・昭和を語れる人が少なくなってきました。戦後100年～200年といわれる様に…若い人に伝えたいものを持っています。又、世界の珍しい楽器などを紹介したい。
- ・ボランティア同士の横のつながり?若い人たちも活動してほしい。またそう言うボランティアを多く作る?「電話」だけでなくまた、組織だけでなく自由に会えたりする方法は?
- ・ボランティア即ち自己啓発でもある。人のためにやるのではなく自分のためとも思われる。
- ・知る人ぞ知るにならないようになっていけば、少しづつでも広がっていくのかなと(?)…
- ・ボランティアをさせていただくのではなく、年配の方々に生き方の勉強をさせて頂いています。
- ・ボランティアに加入しましたが、仕事の都合と家族の入院、介護で加入して1～2回顔を出しただけで現在活動していない状態です。講座も受講させていただきましたが、現在活動する余裕がなく申し訳ございません。
- ・独居老人の居場所づくりが大切で、各地域に空き家があれば市で借り上げるか買取し、独り暮らしの方々が楽しく集える場所が一つでも増えたらと思います。
- ・社協職員には、グループの活動の助成金の事等で、相談や質問にいつも丁寧に対応していただき、感謝しております。
- ・定年後の住民が少ない地域の為、自治会でのボランティアに関する取り組みが全くないので残念です。
- ・住人皆が小さな人作り思いやりのボランティアであってほしい。
- ・区、自治会との取り組みに対し、老人以外の自治会全体に分かりやすく浸透する。一部の会長・組長で止まっていて、社協自体知らない人が多いと思う。
- ・ボランティア活動者を増やす方法として、元気で働いていない人に、直接的に働きかけて行ってボランティアに関心を持ってもらうことが第一歩だと思う。
- ・ボランティアすることでお互いが生き生き生活できればうれしいなと思っています。
- ・このようなアンケートで当事者の声を汲んでくださることはありがたいです。ボランティアは提供者と受け手の双方が笑顔でいられることが基本だと思います。
- ・私は養老院へ慰問によく行きます。人を喜ばせて自分も元気で皆さんが楽しく、また来てほしいといわれる私になりたいと思っています。
- ・ボランティア活動は地味だから正直どのようなことをしているのかわからないのが事実です。(高齢者には特にわかりません)
- ・“ボランティア”という一歩踏み出すのに勇気があるイメージ。もっと身近に感じられたらいいと思う。
- ・団体の運営の一つとして会計がある。社協からの援助もあり、標準的な会計科目を提示された方がよいのではないかな。
- ・ボランティアが終わるといつも非常に充実感を感じて気持ちがすっきりします。
- ・活動に伴う移動手段の自己負担軽減!!近隣へは徒歩で移動可能ですが、遠方は各人で負担している。今後高齢に伴い、社協より送迎バス支援又は交通費支給等の安心・安全確保を切に望みます。
- ・生き生きとしたボランティア活動の工夫や楽しい養成講座の企画
- ・なかなか時間が取れないかもしれないが、若い方の参加がもっと増えたらと思う。
- ・広域的に視覚障害者の方はバスで、降車ボタンの位置がわからない方が多いのでお手伝いしていますが、良い方法は無いものでしょうか。
- ・自分がかかわっている以外のボランティア活動のことはあまりわかりません。どんな活動をしているのか、ほかのグループとの交流が必要では?
- ・年齢による体力の弱体で年ごとに活動の幅が少なくなっていく事
- ・ボランティアと言いながら大したこともしていなくて他の方に迷惑をかけています。申し訳なく思います。
- ・ボランティアとして活動しているというよりは自分の健康と楽しみのために参加をさせていただいております。お役に立っていただければ幸いです。
- ・女性ばかり8名で活動しています。歌、踊り、舞、三味線、全て音響設定が必要ですが、持ち寄りで大変なところあります。送迎なども
- ・お年寄りも大切ですが、心豊かな子供たちが育つ京田辺へ。大人が子供を見守る。
- ・便利、都合よさばかり求めないで、少しでも昔の良かったゆとりのある活動を



- ・今は個人でやっているのですが、同じような活動をしている人との交流があれば、又学び、活かせるかなと思います。
- ・ボランティアに出かけるのに車を使用。今後、車に乗らなくなる予定。そうすればボランティアをやりたくても社協や事業所が遠いのでやめるかもしれない。近い所であればいいのだが
- ・グループでの日帰りハイキング時、傷害保険を紹介してほしい。
- ・障害者トイレの充実を希望。（車いす使用者が使えるトイレ）公園や体育館等入口に階段や段差があり一人で利用できない。水も出てこない。修繕・改装の必要あり。行政と相談してほしい。
- ・自分たちの技術の向上が第1ですが、活動を通じて知識・技術も向上していくので、もっと活動の場を多くして、市民の方に知ってほしいと思う。
- ・自分が活動していることが「ボランティア」とは思っていない。「ボランティア」という言葉は私はあまり好きではない
- ・色々な方と知り合うこともよいかと思いますが、いっぱい関わり、中途半端なことをしたくない。長く続く活動をしたいたいと思う。
- ・ボランティアグループ間の交流・情報交換などがほとんどないので、1年に1回は全グループが集まって交流・親睦を深めたい。
- ・大正琴グループも高齢化になり、後継の人を求めています。
- ・〇〇祭り、フェスティバルとかより、日常的な弱者支援に予算をとってほしい。
- ・自分の所属しているボランティアだけで、他のグループの内容がわかっていない。わかろうとしていない自分がいて、残念に思っている。
- ・障害者の方へのサポート（外出・家事）ヘルパー事業だけでは不十分。空家・空地の整備サポートなど行政が行き届かない部分にもVの活用を進めてほしい。
- ・定年退職した男性を引っ張り出し何でもよいから社会奉仕させる。
- ・毎月の当番で楽譜作り、演奏の時間など楽しくやっています。
- ・現在はほとんどボランティア活動はしておりません。主人の介護で時間的に難しい。
- ・舞台の道具があるので、運転できる人と組んでいただければと常に思っている。
- ・退職したら何か活動したいが、どういうV活動があるのかわからないので、何らかの方法でわかるようにしてほしい。
- ・社会的孤立状態に陥った方々（生活保護受給者等）に社会的自立の一步として地域と交わるようなボランティアの場を提供する。ケースワーカー・就労支援員と連携する。
- ・まだまだ知られていない活動がたくさんあると思います。もっと広く利用してもらうために、自治会など声かけが必要
- ・介護講座や講演会の開催で募集され実施するという待ちの状態ではなく、こちらからボランティア活動いたしますという攻めの姿勢が必要では
- ・大住ヶ丘・松井ヶ丘は独居老人が多いので、楽しめる催しなどを多くつくっていただきたい。
- ・長く活動を続けているが、皆も高齢により運転もなくなり、遠方だと交通費がかかるため、少しでも交通費が出たらよいなと思っている。
- ・自分の能力不足で参加者の進歩にも影響しているのではないか。
- ・活動に参加要請があっても日程調整などで人が集まらず、お断りすることが多い、どうすることもできない現状です。
- ・ささやかな活動しか出来ませんが、できるだけ続けることで、少しでもお役に立てればと願っています。
- ・若い世代の方の参加が少ないので、今後活動を継続して行くためには、その方たちへの働きかけが不可欠だと思われる
- ・京田辺市在住の方で、点字が読める方が少ない。せっかく作成した点字本が実際に市図書館に並べられているだけ。（お蔵入りのデータも多い。）実際に役立っていない。京都府内の図書館同士の交換はできないのか。（情報のやりとり）作成は自己満足しているだけ？京田辺には「総合教育」の（視覚障害の）児童、生徒はいない。長岡京市や宇治市には、絶えずいる。環境の整った地域に移住しているのか。
- ・市社協の皆さんの活動（仕事）に感謝しております。
- ・車椅子を押していると、道の幅が狭かったり、道がボコボコしていたり、安全に押すことが困難なところがある点
- ・なぜこのアンケートが届いたのかさっぱりわかりません。
- ・交通手段（バス）がないので困っています。それに交通費がせめて半額になればと思います。（年金暮らしなので）
- ・ボランティアをしたことによって自分の世界が広まった。
- ・77歳。年齢的にきついです。引退を考えています。若い人に頑張ってもらいたい。
- ・自分の家の介護が増えてきて、出られなくなるとされます。若い人の参加を願います。

- ・最近あちらこちらで三世代交流、異世代交流が叫ばれています。社協での居場所づくりが一番良いと思う。毎週同じ場で異世代が交流できるように。ただ高齢の方には社協までの足を考える必要ありと思います。そんな（足）に対して車の送迎ボランティアがあれば。各地域での居場所づくりができるとよい。
- ・今は時間がないのでボランティアは考えられません。余裕ができれば考えたいと思います。
- ・視覚障害者へ支援するグループの間で連携して欲しい。各々のグループが集まって、交流会の実施について話し合っほしい。
- ・色々な観点より自分の住む京田辺を良くしたい、良くなってほしい。
- ・ボランティアにも色々ありますので、一概に言えません。ただ高齢者施設の職員不足は目に余るので何とか出来る事があればお手伝いがしたいです。
- ・民生委員の方、区自治会の方、ボランティアと連携しあい、老人を見守る。（子供たちには頼らない）
- ・ボランティアに行っている施設での職員、利用者、ボランティアの人間関係が難しい。ほとんどの方は好意的だが、中には（私の手話が下手なためか？）きつく当たる人もいる。でも少しずつ手話を勉強して上手になって行きたい。
- ・元公務員（市・行政・警察・教育などに関わった人）出身のボランティアが極端に少ない。ボランティア思想が広がらない最大の要因と考える。
- ・地域の人は地域の手で助け合うことが大切なので、公民館（各地区）を開放をするか、管理人をおいていつでもだれでも利用できる施設が必要！遠いところに立派な建物があっても、足腰が悪い人は遠い施設は自分の足で行けない。健康で長生きしないと意味がないと思います。
- ・ボランティア貯金的な感じで、自分がボランティアした分をポイントの様に貯めておいて、自分がしてもらった立場になった時にはそれを使って、気兼ねなくしてもらえたらいいかなと思います。
- ・ボランティアをしたことのない人への情報提供の充実
- ・自身の年齢や体力を考えたうえで出来る限り自信を持って参加しようと思います。
- ・社会をつなげていくために必要なことと思いつつ、自分の日常が忙しくなると削ってしまう対象であることが悩ましい。
- ・住居区の近くで活動できるのが重要なので、それぞれの拠点になるような場所を増やしてほしい。
- ・ボランティア活動の実態をもっと市民に知ってもらうことが必要（関心をもってもらう）。市の広報活用も一案。
- ・点字サークルすみれは、その性質上、現組織づくりは大変うまく運営され、満足しています。しかし地域老人会の役員になり、その組織の伝統（50年）を見るに付け、各地域の個性があり、一筋縄にはいかないと感じています。
- ・2015年4月ふれあいサロンへのお誘いを受けボランティア活動再開。「うれしかった！」参加できる幸せを感じながら社会福祉等学び続けたい。
- ・また時間の都合がついた時に参加させて頂こうと考えています。
- ・社協までの交通手段がバスの便も悪く、何とかならないかと思っている。
- ・無料だから何でもかんでもボランティアに頼んだらいいと思っていることに少し不満を感じる時がある。
- ・まだまだ高齢の方々に寄り添えるボランティアになっているかどうかわかりませんが、出掛けていく場所のある高齢者は元気に毎日過ごせるように思います。地域の中での場所づくりも大切だと思っています。
- ・自分自身ボランティアグループに参加している意識がなく活動していると思ってないので、アンケートはとても困った。
- ・もっと楽しい時間が持てるよう、楽しいフラダンスを目指したいと思います。
- ・ボランティアの質の向上と地位（位置づけ）の向上。実際にボランティアをしている人の意見がなるべく尊重され、改善に役立てられる。（制度面だけでなく、意識の変化だけでも良くなることはある。）
- ・毎月ある特定の人への院内介助は、その内容・時間を考えると、ボランティア活動の域を超えているように思う。
- ・問21にも書いたが、所属するボランティアグループの高齢化、それに反して40代50代の若い方達の参加がほとんどないことに不安を持っています。
- ・「年と共に身体の自由が利かず開催されるイベントにも行きたくとも参加できず、何か小規模な近い所で催して欲しい。」「話し相手が欲しい」「本を読んでほしい」等々聞こえました。
- ・民生委員のボランティアへの関わり方を考えると、ボランティア活動に広がりができる。
- ・無関心な人が多く、気力・体力をフルに使って欲しいと思います。
- ・交流の場で優しい気持ちになれる。必要とされているのは何か？と、考えながら活動する。

・施設訪問等で、人や道具の運搬に何か良い方法はないかと思う。それと、社会現象だと思うが、共働きなどで、若い人のボランティア参加が少ないと思う。

・ボランティア活動に見返りは求めたくないが、いつの日か助けてもらいたい時が来た時に、今活動していることに対してポイントのような型でためておけるシステム等を考えてはどうか。現在よく似た形のものがあるように聞くと、内容等、詳しく承知していない。広くPRする必要があると思う。

・いつもありがとうございます。グループ数も増え、グループ同士の交流の場も少しずつ増やして頂いて、とても嬉しく思います。その際に一人一人の名札があれば、よりお互いがわかるかなと思います。

・ボランティアで勉強したことを活用する場が少ないので、覚えても忘れやすいので、クリスマス会やその他の所で交流して活用したいと思う。

・生活の一部になりました。少しオーバーワークなので、色々な意味で整理が必要です。

・安易に養成講座を実施して、事前の相談もなく既存のボランティアの活動場所に受講修了者を送り込むのはやめてもらいたい。

・ボランティア団体が異なると、同じ地域でもつながりが熱いので、ボランティア団体の枠とは関係なく同一地区の集まりを行ってはどうか？

・サークル内でのメンバーの思いの違いで考えることがある。

・テレフォンの対象者の高齢化が進む中、会員が増えず、当ボランティアの会員も増えない。民生委員、自治会との連携強化が大切では!!

## 用 語 集

用 語	説 明
【ア行】	
SNS	「Social Networking Service(ソーシャルネットワーキングサービス)」の略。人と人との繋がりを維持、促進する様々な機能をインターネットを通じて提供するサービスのこと
【カ行】	
給食サービス	見守りや安否確認の必要な高齢者にお弁当をお届けする社協事業の一つ。食事の提供が主な目的である有料型と地域との関係づくりや友愛訪問を目的としたふれあい型がある。
旧村地域	古くからある集落。この計画書の中では、急速な開発が行われた1970年代前から、住民自治組織があった集落、地区のことを表しています。
区・自治会活動	一定の地域(町、丁目、小字等)の住民によって組織化された自主的な団体のこと。
共助	家族、企業単位や地域コミュニティで共に助け合うこと。
京田辺市地域福祉計画	全ての人々が地域で自立して幸せな生活を送ることができるように、解決すべき生活課題や支援を必要とする人を把握し、課題発生を予防するための仕組みや課題をどのように解決していくのかを定めるもの。
共同募金活動	社会福祉のための寄付を公募する活動。(毎年10月1日から12月31日まで)
公助	個人や地域社会では解決できない問題について、国や自治体が支援を行なうこと。
コスモス喫茶	ボランティアコスモスが九十九園にて定期的実施している喫茶活動
コミュニケーション	社会生活の中で互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。
コミュニティカフェスペース	飲食をしながら、共通の関心を持ちメッセージのやりとりを行う人々が集まる空間。
高齢者あんしん サポート企業研修	京都地域包括ケア推進機構が実施する企業や事業所を対象とした、高齢者をサポートする企業としての登録を受けるための研修。
【サ行】	
生活困窮	収入や財産が少なく経済的に厳しい生活の状態のこと。
社協地域役員	各地域から選出された地域役員のこと。(正副支部長、正副分会長、福祉員)

在宅サービス部門	「在宅」における介護サービスを提供する部門。
集合住宅	一棟の建物の中に複数の住居がある形式の住宅。
少子高齢化	出生率が低下する一方平均寿命が延びたことによって、人口全体に占める子供の割合が低下し、高齢者の割合が高まること。
常設型 災害ボランティアセンター	災害発生時だけではなく、平常時から地域住民や関係団体と連携し、地域において防災や減災に関する取り組みを行っているボランティアセンターのこと。
小地域福祉活動	地域単位で進める活動。京田辺市では区、自治会を単位に住民や住民組織による福祉活動と位置づけている。
新興住宅地	新しく開発された住宅地。この計画書の中では、山林や丘陵地、田畑を開発した住宅地を表しています。
人口減少社会	出生率の低下などを背景に、人口が減少し続けている社会。
スキルアップ	技術や能力を高めること。
生活圏域	人間の生活のための行動に主眼をおき、買い物、医療、レクリエーション、通勤等の行動が主として行われている範囲（地域）。
<b>【夕行】</b>	
団塊世代	第1次ベビーブームといわれた戦後1947年から1949年に生まれた人たちのこと。
地域福祉活動団体	市民や当事者等で組織され、社会貢献や公助の福祉を目的に活動する団体。
地域包括支援センター	高齢者の介護や暮らしに関する総合相談窓口。京田辺市内には、3ヶ所に設置されています。通称は「あんあん」と言います。
テレフォンサービス	ひとり暮らし等の高齢者へテレフォンボランティアが電話をして、話を聞いたり必要な情報を提供したりすることで、見守りや安否確認を行うサービス。
当事者	物事に直接かかわりのある人。
<b>【ハ行】</b>	
バリアフリー社会	障がい者や高齢者等日常生活を送る上で支障のある人が、社会参加・日常生活を送る上で支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除くよう、配慮や工夫がされた社会。

ひだまりの会	洛南寮の入所者と地域高齢者の交流の場として、社協と洛南寮が協働で実施。
ひとり親世帯	父か母のどちらか一人と未成年の子供だけの家庭。
フォローアップ	ある事柄について徹底させるために、後々まで補い助けること。
ふれあいサロン活動	地域住民が主体となって、住民もしくは高齢者や子育て世代と言った分野別の交流や親睦をはかって関係づくりを進める福祉活動。引きこもりや地域社会からの孤立の予防、また悩みや不安を話し合っって心身の健康をはかるため多くの地域で進んでいる。
ボランティア連絡協議会	ボランティアグループ間の連携と交流を深め、ボランティア活動をより活発なものにするための推進団体。
<b>【ナ行】</b>	
ニーズ	人間が生活を営む上で感じる「満たされない状態」のこと。
日常生活	毎日繰り返される取り立てて特別な出来事のない生活。
認知症サポーター養成講座	認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援するボランティアを養成する講座。
ネットワーク	人や組織の、ある広がりをもったつながり。
<b>【マ・ラ行】</b>	
民生委員・児童委員	民生委員は民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地域公務員であり、児童福祉法に定める児童委員と兼ねることとされている。
リニューアル	新しく作り直すこと。一新すること。
要配慮者	日常生活や地域生活を営む上で、何らかの支援や援助が必要な人のこと。